

259-9/八



1200701754886

259

90



始





東京遊學案内



目次

第二章 私立專門各學校

| | |
|----------|-----|
| 東京美術學校 | 八五 |
| 東京盲啞學校 | 八七 |
| 東京專門學校 | 八八 |
| 東京法律專門學校 | 八八 |
| 東京法律學校 | 九一 |
| 東京修法律學校 | 九三 |
| 日本法律學校 | 九五 |
| 和佛法律學校 | 九七 |
| 獨逸協會學校 | 九九 |
| 慶應義塾 | 一〇一 |
| 攻玉舍 | 一〇五 |
| 國語學館 | 一〇七 |
| 哲學會 | 一〇八 |
| 國民學習會 | 一一〇 |

目次

第三章 中等教育各學校

| | |
|--------|-----|
| 東京佛語學校 | 一一一 |
| 獨逸語學校 | 一一二 |
| 大洲學社 | 一一三 |
| 順天求合社 | 一一四 |
| 明治學 | 一一五 |
| 東京英和學 | 一一六 |
| 東京物理學 | 一一七 |
| 東京生物學 | 一一八 |
| 東京醫學 | 一一九 |
| 東京顯微鏡 | 一二〇 |
| 東京商業學 | 一二一 |
| 工業手藝學 | 一二二 |
| 水產傳習所 | 一二三 |
| 日本立中學校 | 一二四 |
| 共立中學校 | 一二〇 |

目次終

附錄

| | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|-----------|------------|----------|
| 代數 | 幾何 | 英語 | 高等商業學校 | 東京商船學校 | 東京工業學校 | 海軍兵學校 | 陸軍士官學校 | 陸軍幼年學校 | 官省檢定試驗 | 文部省教員檢定試驗 | 司法省裁判所登用試驗 | 司法省辯護士試驗 |
|----|----|----|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|-----------|------------|----------|

一五四
一五五
一五六
一六四
一七三
一八一
一八七
二〇〇
二〇五
二二一
二二一
二二一
二二九
二四一
二四二

下編

第

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|--------|--------|--------|-----|-------------|---------|----------|----------|--------|------|---------|
| 錦城學 | 成城學 | 尙武學 | 城北尋常中學 | 正則尋常中學 | 大成尋常中學 | 郁文館 | 第四章 公私高等女學校 | 東京高等女學校 | 東京女子職業學校 | 共立女子職業學校 | 女子成女立學 | 明治女學 | 第一高等中學科 |
|-----|-----|-----|--------|--------|--------|-----|-------------|---------|----------|----------|--------|------|---------|

一三三
一三五
一四〇
一四一
一四一
一四二
一四三
一四四
一四四
一四六
一四七
一五〇
一五〇
一五三
一五三
一五三

東京遊學案内



遊學者の指針 第一章 少年の前途

東京は我帝國の大都にして文藝學術の淵藪なれば、假りにも有爲の材幹を懷きて身の榮達を期する者は、笈を負うて闕下を指し、留學數年、刻苦經營、備さに整

の辛苦を嘗めて事に學業に従はざるはなし。されば年々地方の少年秀才が、郷里を去りて、意氣揚々として帝都に入る者殆ど幾高の多きに達し、その聚散去就に依りては、獨り東京の繁榮に幾多の影響を與ふるのみか、延いて國運の消長にも偉大の關係を及ぼすものあり。

夫れ少年は國家の元氣なり、未來新天地の中心に立ちて此帝國の運命を支配する者は、諸君を措いて又他に一人もあるべからず。これを思へば遊學者が其一身に



負ふ所の任務の重且つ大なる知るべし。諸君は抑も何として其身に負へる任務を盡し、以て一國の繁榮と一家の利達とを期せむとはする。

○國民の三大任務

今の少年が未來に於て其双肩に擔ふべき所の任務を區別して大要三つとなすを得べし。政治、軍備、經濟、是れなり。國民の統一を圖らむとせば、政綱上に立たざるべからず。而して政綱上に立つも、兵勢これに副はずんば其國政や必ず廢れむ。國土の安寧を期せむとせば大に軍紀を張らざるべからず。而して軍紀上に振ふるも、産業これに伴はずんば其國防や必ず破れむ。

方今政兵の二つのもの尙大に革新を爲さざるべからざるの必要ありて國用すでに窮乏を告げ、財源下に渴盡して民皆一樣に饑色あり。是に於てか政治軍備亦施すに由もなく、東洋の危機日に益々切迫するも之を如何ともすること能はず。畏々乎として夫れ殆いかな。

○舊來の一大積弊

昔しは士人租税に衣食し、政治兵備の二つを以て、自家の私福を營む所のものとせりと雖も、明治の將來の世界に立ちて國家を扶持せむとする者は、斷じて彼之士流の舊風を捨てざるべからず。

爲す有るの人士要路に立ちて競うて政治に衣食せむとす。此の風習あるが故に、群賢朝に満ちて野に遺才なく、民業振はず産業興らず、財源枯渴して國勢の陵夷を致せるにはあらずか。一念茲に思ひ至らば、國を憂ふるの心あるもの、豈に奮然として起たざるべけんや。

○公務と民業

併しながら政治軍備は國家存亡の關する所、この國民を擁護するの大柄亦掛りて政兵の二つにありとする時は、決して諸君の眼中に於て之を忽諸に附すべからず。陛下が肝衣宵食して大御心を勞し玉ふも、この二つの國務機關の弛張興廢に存すれば、諸君は臣民の義務としても勲旨を奉戴して皇護を補翼し、以て祖宗二千五百餘年の國家を維持するの本分あり。

譬へて言へば政兵は幹なり、而して經濟は枝葉なり。其枝枯槁して根幹の益々

強固を致さんことは望むべからざることなれば、殖産事業は今日の最大急務に屬すれども、又其枝葉の榮ゆる所以は一にその根幹に待たざるべからず。

此の關係あるが故に、予は諸君が將來に於て必ず國民の本分を守りて政治及兵役上の任務を盡されんことを望むと雖も、租税に頼りて生活の道を計らむとする根性は斷じて之を一掃し、富を以て此國家を却て養はむとするの大精神を常に抱かれむことを屬望す。政兵の二つを權利として之を國家に要求し、高官に昇り大祿を占め、坐して以て食はむとするは當時一般の風尙なれども、寧ろ此二つは公務として吾人の擔當に歸すべきものなり。

○殉國の精神

義勇公に奉ずるの心を殉國の精神といふ。此殉國の精神ありて事に公務に従はば、政治の革新を圖るも可なり、軍備の擴張を期するも可ならむ。さりとて諸君が相率ゐて文武の仕途に奔走し、政治に頼りて衣食の道を立てむとするやうにのみ成行きては國の運命も覺束なければ、予は諸君が將來の業務を撰ぶの道に於て深恩熱慮して其去就を宜しく決せられむことを望まずむばあらず。

所詮は國民が率先奮起この帝國の大業を翼賛するにあらざるよりは、以て國運の隆盛を無窮に維持せむこと難かるべけれど、相成るべくは民業に専ら従事するの傍ら、國に盡すの心を以て政治軍備の大業にも力を致されむこと切望に堪へず。

國家に養はれむとする如きさもしき精神のある者が、國家を養ふて大業を翼賛し得むことは思ひも寄らず。國を背負つて立つ剛健の大國民にあらざるよりは、此の呑噬の世界に於て金匱無缺の帝國を將來無窮に傳へむこと、殆ど期すべからざる事なればなり。

○立身の基礎

此情由あるを以て、諸君は殉國の精神を以て公務に従事するの外に、尙立身の基礎を求めて他の民業を執らざるべからず。

農産、製造、通商等諸君が將來従事して以て此世に處すべき所の所謂民業なるものは一々摟指するに堪へずと雖も、人の名けて一般に經濟事業となすものは、宜しく諸君が他日に於て其成功を期すべき所の社會必須の要務なり。

○殖産の事業

されば經濟とは即ち何ぞ。夫れ經濟とは理財の道なり。國民生活の上に於て衣食住器等必須の物貨を指して富といふ。

富即ち財なるものは吾人が生活の資料として一日も缺くべからざるものにして、今日歐米諸國の人が稱して文明といへるものも富の開化に外ならず。國に貨財といへるもの即ち富資なるもの充實すれば、一朝、巨萬の費用を投じて以て軍備を修むべく、政治事業の總てに向つてこれが改良をも圖るべし。

百萬の精銳牙を鳴らして猛然國の四境を護り、熾燿堅艦浪を凌いで傲然海の東西を壓し、英佛獨露が宇内に於て優に覇業を立つるを得たるも、固是れ富の勢力にして、金力の在る所は即ち權力の歸する所、國際間の競争も實は富殖の争奪に外ならざるとする時は、國を富ますの大策は即ち兵を強むるの策なり。

これを思へば遊學者が其双肩に擔ふ所の民業及その任務の如何なる邊に存するかは我等が説明を要せずして瞭然火を睹るが如くならん。

第二章 材幹の修練

政兵財の三つを以て予は諸君が従事すべき業務の主要なるものなりといひしが、いづれにしても此部面の要路に立つて振舞の事業をなさむとするものは、常に剛健なる意志を懷いて事に屈せざる精神を有し、多數人民の幹部となつて、率先以て萬艱を排して進まずむばあるべからず。

意志とは何ぞ。他なし合意の作用の中にて、常に一定の目的を有し、外に向つて爲すあらむと奮勵するの力を指して、これを剛健なる意志といふ。

政治機關の要路に立つもの此の剛健なる意志を欠かば、政綱忽ち壞亂して一國滅亡の危禍に沈まむ。兵備機關の樞機を執るもの此の剛健なる意志を欠かば軍紀忽ち頽敗して三軍覆没の危険に臨まむ。農工商の社會に立つて事に經濟に従ふもの亦此の剛健なる意志を欠かば、其影響する所實に極めて大にして、百度弛廢し信用地に墜ち、交通取引は停止せられて世に怖るべき恐慌を來たさむ。

○意志の修練

この危険を避けんが爲めには、予は將來の國民をして常に剛健なる意志を立てしめ、百折不撓の精神を以て時務に服せしむるの要あるを信ず。

今この教育の仕方にては只管智力の修練に僻して、自然の定理定則に服従せしめむとのみ勉むれども、吾人は嶄然此世に立つて宜しく社會の大勢を左右し、自然の法則を利用してこれを役せむとなさざるべからず。

理學を修むるは可なれども、理學を修めたる結果として自然の法則にのみ服従する弱き慣習に沈溺しては、却て其性を賊するものなり。自然はこれを役すべく、これに役せられては甚だ不可なり。雷電を叱咤し、風浪を疾驅し、山河を平夷して以て回天の偉功を奏す。理學を修めて智力を練るは實に此必要あるが爲めにして、自然の法則を究むる所以は、これを役するの法則を大に學び得むが爲めなり。

○意志の特性

自然を役せむとするの心は名けて意志といふべきものにて、意志は自ら主となつて多くの他のものを客となし、その客體を捕へ來つて自己の主權の下に立たしめ、そをして我が監督の範圍内に働かしめむと勉むるを常とす。

歐米人は意志の力その割合に強大にして、彼等は理學の教育を受けても能くその教育の利益を收めて決して其害をば受くることなし。電氣を利用し、瀛車を駛らし、

在らゆる自然力を利用して以て人間の便益に供せり。

我が將來の國民たる諸君に於ても斯くの如く、意志の修練といふことを先づ第一の目的とし、然る後に理學を修め、宜しく利用厚生を以て平素の主眼とせらるべくして、剛健の意志といふことはこの立國の基礎たることを平生銘記して忘るべからず。

○自主の本義

彼の自主といひ自由といふもの、これを誤り解するときは甚だ不都合なる結果となれども、彼の自由といへるものは固是れ剛健なる意志に發して、他の外境の羈束を脱し、自ら主格の地位に立つて他の客體を役せむとする自主の精神より起りしものなり。

歐米人は絶對に自主精神を發達せしめ、終に流れて私利となり、私慾の魔境に墜落して公義を忘れたるが多しと雖も、併しながら彼輩が自由を以て生命とし、尙進んで諸外國をも併呑せむとする希望は甚だ強大なるものにして、此の對外的自主精神は國を宇内に立つるもの、寸時も忘るべきことにあらず。

見よ彼の西歐の醜類が如何に權利の思想に富みて又その自主の精神が如何なる所まで發達せるかを。彼等は幾分か權利を棄て、以て公共の利益を圖るの念に甚だ乏し。此を以て徹頭徹尾個人を以て本位として、父子相争ひ、君臣相攻め、國家を以て只暫時の借家の如き思ひをなし、國を私福の犧牲に供して何とも思はざる事もあれど、固此の權利といへる思想は自主の剛健なる精神上に發して、其根據をば強大なる意志の發作の上に置けり。

○權利の思想

されば權利といへる思想と意志の發作とは二つながら必ず相待つて發動し、共に等しく自主的の最も剛健なる要素を含み、他の客體を捉へ來つて我が領域に移さむとする希望と傾向とを存し、而してその一たび權利を占むるや必ず故なくして之を放ち、そをして自由を得せしむることは亦甚だ稀れなりとす。

この權利といへる思想は恐らく意志の作用と共に諸君に最も欠乏し、我が舊來の教育社會は之を撞斥して聽順の氣風と習慣とを助長せしめ、諸君は往々頑固なる師長の爲めに理由なく自由を限られたるべしと雖も、國を開きて同胞と外國人を

して争はしめ、百尺竿頭に一步を進めて尙且つ海外に踏出さしめ、以て少なくとも對等の位置に立たしめむと欲するには、予は將來の國民をして自主的精神を發揮せしめて、最も強固なる權利思想を養成せしむるの要ありと信ず。

○意志と材幹

されば有爲の材幹と彼の剛健なる意志との間に如何なる關係の存するあるか。意志の練磨が何故に諸君の材幹の修練と至密の關係を持つやといふに、智といひ情といふ所の他の心力は受動に併して甚だ發動の力に乏しく、多くは人をして境遇の奴隸とならしむるの傾向あれども、意は超然として自主を保ち、却て外境を制伏してこれが主人とならしむるに極めて重要なものなればなり。

第三章 思想の涵養

心理作用を區別して、これを智情意の三つとなす。今日教育者の勉むる所は主として智力の養成にありて、學者風なる人間を造出ださんと欲するは彼等に通じての傾きなれども、予は反對の意見を立て、意志の修養を材幹の練磨に欠くべからざる

ものなりとせり。

志かしながら教育は決して極端より極端に駛騁すべからざるものにして、意志固より人物の養成上に大切なるも、是れに尋いでば睿智の修養亦極めて重要なりとす。

○睿智の特性

睿智は心意の上に於て意志の耳目となり手足となりて其發動を助くるものにて、是れあるが爲めに意志の作用も其本來の目的を遂げて、彼岸に達するとを得るなり。固より吾人は意志を缺き、只外境を知るといふことのみにては、何事も爲すこと能はざるものなれども、さりとて外境の上に就て毫も知る所なきときは、如何に活潑なる發作をなすとも、目途に達し得べきやうなきなり。

彼の意志なるものは初めより確乎不動の目的を有し、これが目途に達せむため種々の發動をなすものなれども、それには一切の方法を具して手段を施さるべからず。

言葉を變へて之をいへば、意志なるものは相當の結果を收めむとする目的ありて、これが成功を期せむが爲めには、それに對する原因を先づ預め加ふるを要す。

播かざる種子は如何にするも芽を抽く能はざるものなれば、秋季の收穫を期せむと欲せばよろしく春夏の交に於て種子を地上に播かざるべからず。結果を期するは目的なり、原因を興ふるは手段なり。その目的を遂げむがために彼の方法を策するは即ち睿智の上に屬して、意志のみにては如何様に工夫を凝らすことあるも原因結果の關係を最も明らかに知るべきやうなし。

○睿智の修練

因果の關係に精通し以て方策を立てむと欲せば睿智の作用を要するが故に、世に立ち事を處せんとするには是非共智力を修練して其意志を達せざるべからず。意志は目的、方法の關係を追ふて發動すれども、睿智は原因及結果の關係を以て動くを常とす。目的方法は自己を主として其關係を定むべく、原因結果は他物を主として其次第を尋ねべし。

○智育の方針

自己を主とするが故に主觀を法とし、他物を主とするが故に客觀を法とす。今の教育の方針は常に客觀の一部に偏して甚だ主觀の精神に乏しく、理論を先きにし

て實踐を後にし、政治兵備理財のときは之を理論科の應用として智育の偏偶に所屬せしめ、以て主客を轉倒し前後を誤るの嫌あれども、さりとして智育を益なしと排して之を無用視するに於ては其弊亦敢て諷しとせず。

是に於てか理學を修めて以て智育の一端に供し、因果の關係を詳悉して以て目的方法の知識を擴充するの要あり。

○理學の思想

理學は外界事物を主としてこれが本性を討尋し、結果を察して原因を尋ね、現象を究めて理法に遡り、外形を觀て内想を探る所以のものにして、只管客觀の法に依れども、一たび主觀の法を以て實踐の科を修めしものは、尙一層の區域を擴めて理學の諸科目にも涉らざるべからず。

物理、化學、生理、心理、生物、礦物、地質、天文、社會、國家の諸學より、法理、財理、倫理、審美、論理の諸科に至るまで、一切理學の範圍に屬し、最も廣義なる意味にていへば哲學は即ち理學の王なり。
是等の諸學は實踐の科目に尋いで遊學者が最も意を注ぐべき所にして、理學思想

の大なる程、吾人が經綸を行ふ所以の世界の領域の擴まるを常とす。

○睿智と理想

これを要するに吾人は其周圍に幾何かの世界を有すべきものにして、大なる材幹のある俊豪は、又隨て大なる世界を外境に保つべく、小なる力量の人々程、其手腕を揮ふ所の世界の減縮するを見るなり。

理學は即ち各人をして其事業を施すところの世界の事情に通曉せしめ、その手腕を揮ふべき事情の本性を了解せしめ、百發百中其目的を達する所以の手段を誤らざらしむる偉大の効力を有するものにて、睿智卓絶なる者は、又隨て廣大なる理想を具ふるを常とせり。

第四章 遊學の必要

是に於てか學問に實踐及び理論科の二大方面あることを知り、又其方法に主觀及客觀的の二種あるを知り、知識に目的方法に關するものと、原因結果に關するものと、此二つあるを知ることを得べし。

意志を修めて雄大なる事業をなすの必要と、睿智を磨きて深奥なる思想を養ふの必要と、此二つの必要は能く諸君をして興起せしめ、いづれにしても學問を大に爲さざるべからずといふ奮發心を起さしめ、斯くして飄然郷里を去りて此東京に遊ばむといふ志望を懐かしめしならむ。

東京は實に全國の主腦にして碩學鴻儒此處に集り、上は帝國大學及び各種の官立學校より下は私立の専門學校高等學校等甚布星羅、學識技藝は悉く帝都の中に蒐められたれば、諸君が其材幹を發揚して未來の大事業を遂げんとするには、是非共一たびは此處に來りて英資を琢磨するの必要を見るなり。

○遊學の目的

併しなから讀者諸君が笈を負うて帝都を指すには、必ず豫め目的を定めて然る後に郷里を出で、決して漫然たる遊學といふ辭柄の下に其故國を立去るとききことあるべからず。

諸君は實に將來に於て材幹性質に適當せる公私の事業を分擔し、以て次代の國民を形成すべき責めあれば、必ず前以て目的を立て、これに向つて猛然と突進すべきも

のなるに、中には多くの少年の中には思慮分別もなく上京し、遊學中に追々と志望を定めむと欲するものあり。

斯かる少年の常として帝都に來りたる後は其志を屢々改め、朝に軍人を以て居るかと思へば夕に飄然として希望を轉じ、僕は政治家にならうなど、其柄になき熱を吹き、今年法律を學ぶと思へば復明年は醫術を修め、去就常なく進退法なく、終にはあられもなき方角に迷ひて其身を持潰すもの甚しとせず。

然る所以のものは何ぞ。彼等が其初め目的なしにこの東京に出でたるが實に失敗の原因にして、父兄たるもの亦漫然として監督を怠り、遂に子弟の一生を誤らしむるに至つては誠に痛歎の限りといふべし。

○遊學の方法

次には諸君の遊學上大に分別を要するは即ち遊學の方法是れなり。何の爲めにといふことはすでに一定せる場合に於ても、又如何にしてといふ問題を諸君は預め定め置きて、然る後に遊學の順序を運ぶこと大切なり。

此如何にしてといふ問題の中には、入學上の手續もあるべく、又留學中の宿所を

定め學校を撰む等の決定もあるべし。
是等の事は次の章に以下追々と諸君の爲めに手段を撰び置きたれば、諸君は宜しくこれに就て取捨分別を決すべく、學費支辨の方法に付ては最も諸君の周密なる熟慮を要すべきことなるが、そは諸君の手心に一切任かする事として、次には東京學事の事情を少しく此の處にて述べ置くべきか。

第五章 都下の學事

東京市街を通覽してこれが地勢を區別すれば、稍高燥なる山の手と、最も卑濕なる下町と、この二大部に分つを得べし。

前者は市街の西北を擁して綠樹鬱蒼たる丘陵は結構優美なる庭園と參差斷續相接し、此處には宏壯清雅なる日本風の邸宅が霞を帯びて連るれば、又彼處には森影に雄大峻拔高潔なる西洋風の赤煉瓦が旭に映じて輝くあり。皇城、官衙、兵營等その建築の大なるものは皆此の高部地方にありて、學校、病院、教會等公共の事に關するもの多くは山の手に散在せり。

又其後者は皇城の東南に向つて遠く開け、碧瓦白壁甍を並べて品川灣の大灣に臨み、溝渠縱横、車馬絡繹、別に商業區の市街をなして物貨の往復盛んなり。

○學校の配置

京橋、日本橋、芝、神田、下谷、淺草、本所及深川の八區は下町といへる低部市街に屬するものにて、麻布、赤坂、麴町、四谷、牛込、小石川、及び本郷は山の手の高部市街に屬するものとす。

此中神田芝の兩區は低部市街の中にあれども山の手地方と接續して此處に盛大の學校多く、慶應義塾、攻玉社、專修學校、法學院、明治法律學校及獨逸協會學校等、著名の私立學校は皆此市街の中にありて、共立學校、錦城學校、物理學校、商業學校、及國民英學會も等しく此區の中に屬せり。

この兩區と並び立つて學事の最も盛大なるは即ち本郷の一區とす。帝國大學、高等中學、高等師範學校等、官立學校の巨大なるはいづれも此區の中にありて、又民間の學校には濟生學舎、哲學館、郁文館等優良の校舎も決して擲なからず。其他陸軍士官學校幼年學校の牛込に於ける、學習院の四谷に於ける、華族女學校の

麴町區に於ける、著名の官立學校は概ね山の手の高地にあれども、さりとて他の低地に官立の學校なしといふにあらず。即ち淺草の藏前には東京工業學校ありて未來の製造家を養成し、神田一ツ橋通には高等商業學校ありて盛んに通商の知識を授け、京橋區越前堀の海岸には東京商船學校ありて未來の海員を育成せり。

○教員の多寡

是等官私の學校に於て教授に従事する所の教員の多寡を數ふるときは、以て校運の盛否を卜し、諸君が學校を撰ぶに當りて多少の參考にもなるべきか。

即ち教員の最も多きは官立學校の中に於ては帝國分科大學にして教員の數其合計百六十七名の多きに上り、華族女學校と學習院とは百三名の教師を有し、高等中學は七十四名、高等商業學校は四十一名の教師を有せり。

私立學校の中に於て最も教員の多きものは即ち慶應義塾にして六十一名の教師を有し、專門學校、法學院、和佛法律學校、專修學校、明治法律學校は各五十名前後の教師を有し、以下多きは三十名、よし少くとも十名に下らず。

○生徒の員數

生徒の員數も亦教師の數と殆ど雁行比例して官立諸學校割合に多く、大學及高等中學には各々千四百名に近き生徒を養ひ而して私立學校に於ては慶應義塾、專門學校、明治法律學校等、一千名の生徒を有する學校是亦尠しとせず。

○學事の統計

今東京全都に於ける學事の要領を示さむが爲め、東京府廳昨年の調査に係る年報より官立學校の位置、教員及生徒の員數を此處に採擷して掲るときは、其大略左の如し。(但最近の統計と多少の相違ある所は中篇各學校の章下に於て一々明瞭に断はり置くべし)

| 學校名稱 | 學校所在 | 教師員數 | 生徒員數 |
|----------|---------|-------|---------|
| 帝國大學 | 本郷區元富士町 | 百六十七名 | 千三百八十七名 |
| 學習院 | 四谷區尾張町 | 六十八名 | 七百十四名 |
| 華族女學校 | 麴町區永田町 | 三十五名 | 三百八十二名 |
| 高等師範學校 | 本郷區島三丁目 | 六十九名 | 七百四十八名 |
| 女子高等師範學校 | 同 | 五十五名 | 七百八十八名 |
| 第一高等中學校 | 本郷區向ヶ岡 | 七十四名 | 千三百四十名 |
| 高等商業學校 | 神田一橋通町 | 四十一名 | 三百五十九名 |
| 東京工業學校 | 淺草藏前 | 三十二名 | 二百九十二名 |

第五章 都下の學事

次に最近東京府の學事年報に據るときは、専門又は高等なる學科を教授するところの公私學校の位置、教員生徒の員數は左の如し。

| 學校名稱 | 學校所在 | 教師員數 | 生徒員數 |
|----------|------------|------|--------|
| 東京美術學校 | 上野公園地 | 三十二名 | 二百十四名 |
| 東京商船學校 | 京橋區越前堀 | 八名 | 百六十八名 |
| 東京郵便電信學校 | 芝公園地 | 二十名 | 百三十九名 |
| 東京盲啞學校 | 小石川區指ヶ谷町 | 九名 | 百九名 |
| 慶應義塾 | 芝區三田二丁目 | 六十一名 | 千三百二十名 |
| 東京專門學校 | 南豐島郡早稻田戸塚村 | 五十三名 | 九百五十四名 |
| 東京法學院 | 神田區錦町二丁目 | 四十二名 | 六百十九名 |
| 明治法律學校 | 神田區南甲賀町 | 四十三名 | 九百五十六名 |
| 專修學校 | 神田區今川小路二丁目 | 五十二名 | 五百十九名 |
| 和佛法律學校 | 麹町區富士見町六丁目 | 五十五名 | 六百五十八名 |
| 獨逸協會學校 | 神田區西小川町一丁目 | 三十二名 | 三百七十四名 |
| 日本法律學校 | 麹町區飯田町五丁目 | 三十名 | 三百二十三名 |
| 濟生學舎 | 本郷區湯島四丁目 | 二十五名 | 六百十九名 |
| 東京顯微鏡院 | 京橋區瀧山町 | 六名 | 五十名 |
| 藥學校 | 下谷區四町 | 二十八名 | 二百三十名 |
| 東京商業學校 | 神田區錦町二丁目 | 三十一名 | 四百七十名 |

| | | | |
|----------|-------------|------|--------|
| 工手學校 | 京橋南小田原町四丁目 | 四十四名 | 四百八十六名 |
| 東京物理學校 | 神田區小川町 | 十二名 | 四百十九名 |
| 女子職業學校 | 神田區一ッ橋通町 | 二十名 | 三百七十二名 |
| 成城學校 | 牛込區原町三丁目 | 三十八名 | 七百九十五名 |
| 哲學館 | 本郷區駒込蓬萊町 | 四十名 | 二百五十名 |
| 攻玉社 | 芝區新錢座町 | 五十六名 | 五百六十八名 |
| 國民英學會 | 神田錦町三丁目 | 十二名 | 五百五十七名 |
| 大八洲學校 | 神田區仲猿樂町 | 十名 | 百五十名 |
| 國語傳習所 | 神田區仲猿樂町 | 十三名 | 百七十五名 |
| 商工中學校 | 麹町區大手町 | 十七名 | 三百五十名 |
| 錦城學校 | 神田區錦町三丁目 | 十七名 | 四百二名 |
| 日本中學校 | 麹區區山元町一丁目 | 三十四名 | 五百十九名 |
| 共立尋常中學校 | 神田區淡路町二丁目 | 二十五名 | 七百二十三名 |
| 城北尋常中學校 | 麹町區飯田町五丁目 | 十七名 | 二百三十四名 |
| 郁文館 | 本郷區駒込蓬萊町 | 二十二名 | 三百名 |
| 明治義會中學校 | 麹町區富士見町四丁目 | 二十五名 | 四百名 |
| 明治學院 | 麻布區白金今里町 | 十四名 | 百二十三名 |
| 東京英和學校 | 南豐島郡澁谷村 | 十一名 | 百六十四名 |
| 東京府高等女學校 | 京橋區南小田原町四丁目 | 十三名 | 二百名 |

明治女學校 麹町區下六番町 二十七名 百十三名
 女子成立學校 神田區三崎町 二十名 八十五名
 東京女學館 麹町區虎ノ門内 十二名 七十名

尙此外英漢學數學等を教授する學校までを擧るときは、各種學校の總計は四百八十の多きに上り、二千六十有餘名の教師を以て三萬七千二百五十名の生員を養生しつゝありといふ。

二十四

第六章 學校の種類

此等多くの學校を其教育の目的と教授の學科課目によつて數種に彙類するときは、先づ其第一は文部省以下各官省の所轄に係る官立高等諸學校にして、其品類は左の如し。

○官立高等諸學校

帝國大學以下左の數校は文部大臣の所轄にして其規模廣大建築壯麗、學科の完備せる、課目の深奥なる、又其校員の衆多にして教授の緻密高尚なる我邦學校多しと

雖も決して此上に出づることなし。されば學術の秘蘊を究め技藝の精微を盡さんとせば帝國文科大學より進んで大學院に入り、螢雪多年以て志望を達するか、然らざれば高等商業學校以下の學校に入りて以て専門の科を修め、多きは十年少くも本科三年の學科を修めて望む所を遂げざるべからず。

| | | | |
|----------|--------|--------|----------|
| 帝國大學 | 高等中學校 | 高等師範學校 | 女子高等師範學校 |
| 高等商業學校 | 東京工業學校 | 東京商船學校 | 東京美術學校 |
| 東京郵便電信學校 | 東京盲啞學校 | | |

此中帝國大學には年額四十三萬圓以上の經常費を要し、工業學校、商業學校等に至りても一年の定額四萬圓に下らずといへば、其設備の完備して教科の精緻なる知るべきなり。

學習院 華族女學校
 學習院及華族女學校は宮内大臣の所轄にして、華族の子弟を教育し、他日文武の要職に立つて國家の大政を翼賛するに足るべき人材を養成し、大學以外の天地に立つて別に高尚典雅なる學科を教授しつゝあれば、亦至高の學校として屈指の中に數ふるを得べし。

陸軍士官學校 陸軍幼年學校 海軍兵學校 陸軍軍醫學校
 陸軍士官學校等、以下の學校は陸海軍省の所轄に屬し、他日帝國陸海軍士官以上の地に立つて護國の大柄を握るべき將士を養成する所なり。

○私立専門各學校

官立高等學校に對して嶄然民間に旗幟を立て、以て高等の學術技藝を教授するものを總稱して私立専門學校とす。

官立學校は莫大なる國費を以て設備をなし、其教師には有數の博學多識を網羅したれば、爲めに教授の方法も高尚精微を極められたれど、私立學校は日常の經費の財原に限りあれば、教授の學科、課目の程度は之を官立學校に比して更に幾等か下れるを見る。されども官立學校の本科を履修せんとせば多くは尋常中學校卒業以上の學力を要し、これに入學を爲す迄には地方或は都下に於て多年の準備を要するが故に固より容易の事にあらず。爲めに隨つて中途に於て志業を挫折する虞れあれば、短き年月と多からざる學費を以て専門の學科を修めむとするものは、却て私立の學校に入りて志業を遂ぐる者殊に多し。

東京専門學校 東京法學院 明治法律學校 專修學校
 日本法律學校 和佛法律學校

東京専門學校等以下の學校は東京に於て屈指の法律學校にして三年を以て成業せしめ、判事、檢事、辯護士試験に應ぜむと欲する者は此處に於て多くは法律の學科を修めて以て其職に就くを常とす。

但し是等の學校には政治理財の學科を設け、東京専門學校の如きは別に文學の學科を設けて陶冶に従事しつゝあれば、他日文官の試補となり銀行員の職に就き、又は文筆に従事して糊口を計らむとする者の入つて學ぶには適當なるべし。

慶應義塾 攻玉社 國學院 哲學館
 東京文學院 國語傳習所 國民英學會 獨逸學協會學校
 東京佛語學校 獨逸語學校 東京物理學校 順天求合社
 明治學院

慶應義塾以下の學校は語學、文學、數學、理學若くは哲學を教授する府下有名の學校にして、中にも慶應義塾の如きは別に大學部の專科を設けて法律理財文科を教授し、高等數學には攻玉社あり、國語に於ける國學院、英語に於ける英學會、佛語及獨逸

語に於ける東京佛語學校、獨逸學協會學校及獨逸語學校等は皆有數の學校なるべし。
濟生學舎 藥學校 東京驗徽鏡院 工手學校
東京商業學校 水産傳習所 商工中學校
其他醫學を修むるものには濟生學舎、醫學院より、藥劑師には藥學校あり、商業に於ける商業學校、工業に於ける工手學校、及商工中學校、漁業及採藻に於ける水産傳習所の如きものは是亦其道の者に取りては最も得難きの學校なり。

○公私尋常中學校

次に東京に最も多く、地方來學の少年が相争ふて赴く所は尋常中學の程度に基き英漢數の諸科目より物理化學地理歴史其他の普通科を授くるところの公私の中等學校とす。

私立の専門學校に入つて學ばんとする者は格別六ヶ敷き試験を要せず、稍高等なる普通學の知識を有する少年はこれが入學の許可を得るに格別六ヶ敷きとはなしと雖も、進んで官立の學校に入りて大に學藝を磨かんと欲せば是非共尋常中學科の學科を卒つて然る後に入校せざるを得ざるが故に、尙年若くして將來の大成を期する

少年の競ふて入學する所は此種の中等學校なりとす。

日本中學校 錦城學校 共立學校 都文館

是等多くの學校の中にて右の數校は東京府尋常中學校と共に優良のもの認められ、第一高等中學校、高等商業學校及び工業學校、美術學校其他の學校と聯絡し、卒業生は無試験にて直ちに官立學校へ入學し得るものにして、生徒の員數も最も多く、校運日に月に盛大にして殆ど旭日の勢ひあり。

成城學校 東京府城北尋常中學校 正則尋常中學校 大成學館
進徳館 明治議會中學校 商業素修學校

其外上に掲る所の入學受験科を教授する中等學校の中に於ては評判大なるものにして、成城學校の如きものは士官學校幼年學校其他の陸軍諸學校へ入學せむとする者の競ふて集まる所なれば、校運の盛んなる其比を見ざる所なり。

○公私高等女學校

以上掲載する所多くは男子の學校なるが、女子の爲めに高等なる學科を教授する所の公私の學校を示すときは、左に數校を數ふるを得べし。

東京府高等女學校 東京女學館 明治女學校 女子成立學校

女子高等師範學校附屬高等女學校は府下にて最も優良なる女學校の一に數へられ、これに次では東京府高等女學校といふものありて随分評判よき學校なるが、卒業生は府縣立尋常師範學校の女子部を卒業せるものと殆ど同等の待遇を受け、望みによりては學校の教員たるを得るの資格あり。

女子職業學校は女子に手藝を教授する最も著明なる學校にして、其成績の顯著なる評判遠近に噴々たり。

其他東京女學館の貴女教育、明治女學校の歐風教育、皆それ／＼に特質ありて女子成立學校も亦評判ある學校の一なり。

第七章 學科の區別

都下専門の學校に於て通例教授する所の學科の種類を數ふるときは、大畧左の數種に歸するを得べし。

- 政治學科
- 法律學科
- 理財學科
- 教育學科

- 醫學科
- 山林學科
- 水產學科
- 音樂科
- 彫刻科
- 建築科
- 農學科
- 航海學科
- 商業學科
- 工業學科

これを實踐學科として尙他に高尙なる純理學科に屬する所のもの多し。此中理學哲學は即ち純理科の主髓にして、政治、法律、兵、財の學科は實踐科の根本なるべし。

繪畫、音樂、彫刻、建築、是等は實踐科の中に於ても殊に美術に屬するものにて、理學及び哲學は即ち理論科の中に於て眞の學術に屬するものなり。

○學術と美術

所謂學術とは睿智を以て眞理の研究をなすものにて、美術は感情の力を以て精華を發揮するものなり。

理は分解の法を以てこれを討索すべきものにて、美は總合の術を以てこれを裝飾すべきものなり。理は冷やかにして美は暖かに、理は統一の精を極めて美は變化

の妙を盡せり。

いづれにしても此二つは遠く世塵を超絶して高く俗界の上に出で、造化と妙契し自然と感應し、世界の人類の總てに向つて永く幽玄なる天啓の光を垂るゝことを得べしといへども、斯かる高妙なる境に遊んで不朽の大業をなさんとせば、身に卓越なる天才を有して而も慘絶酷烈なる修學の功を積まざるべからず。

○實踐學科と純理學科

政治、兵備、經濟等所謂實踐科の基礎たるものを充分履修せむとするには、是亦堅忍不拔なる剛毅の意志を確立し、これに向つて撓まず倦まず勇進することを要するが故に、新たに來學せむとする少年諸君は此邊に最も意を致されむこと大切なり。

さりとて睿智の修練は意志を實行する上に缺くべからざるものなれば、諸君は實踐科を修むる傍ら又純理科にも博通して智力の琢磨をなさざるべからず。

純理學科の中に於て吾人が實踐科の参考として効力顯著なるは理學の諸科なり。理學の諸科に關する事は前に述べたれば略して言はず。此處に略して言はざる迄

も、諸君の注意を惹かむが爲めに、予として今一たび理科に關する課目の總てを擧げしめよ。

物理 化學 生理 心理 動物 植物 礦物 地質 天文 星學 社會學

これ即ち理學の諸科なり。諸君は理學の諸科に通じ、有形理學の上に就て大に得る所ありし後は、更に進んで高尚なる形以上學に涉るを要す。

論理 審美 倫理 法理 純正哲學

これを哲學の諸科といふ。無形理學は哲學なり。

尙此外に緊要の副貳學科と呼ぶべきものあり。副貳學科とは實踐科若くは純理科を講究するに缺くべからざる補修科を言ひ、學問をなすに器械として最も必要なものにて、語學、數學は即ちこれなり。

語學は知識を貯藏する玉手函ともいふべきものにて、これなくむば總ての知識を授受交換し蓄積して以て我用を滿たすに足らず、吾人は全く耳目なき盲啞となつて終らむのみ。

國語 漢文 英佛獨語 露語 朝鮮語 支那語

外國語學は其中の一二を專修せば事足るべく、國語漢文は充分に講習なされれば即ち不可なり。

又彼の數學なるものは事物を計るに必要な知識の尺度ともいふべきものにて、これなくしては手足なくして世に處し事を爲すと等しく、理學を修むる上に於て其不便なる言はん方なし。

算術 代數 幾何 三角術

數學は又論理上の技術を進むるの効驗多く、吾人は嘗て少年の時平面幾何を學ぶに際して、これは論理學の實習にはあらざるかと迄に驚歎し、これを以て論辨の技術を修むるの助けとなしにき。

第八章 修業の年限

上に列擧せる専門の學科を履修する前に於て、先づ諸君が念頭に主として浮ぶべきものは、是等學科中の或るものを専ら講究なさむとせば凡そ幾年の歲月を以て卒業し得べきかといふ問題なるべし。

尤も是迄普通科を平生修め居たる諸君の事とて、多くは専門科の事情に迂く、政治法律經濟の總てを一括して急速にこれを修め得るに難からずと思ふも中にはあるべしと雖も、將來行政部内に立つて官吏に志さむとせば政治學科を修むべく、此後司法部内に立つて判事とならむとするものは寧ろ法律學を研究すべく、而して政治の科目といふも又は法律の學科といふも又其中に廣大なる範圍を有するものにして、夫等の小科目に概通するには皆少くも三四年の月日をこれに費して僅かに一般の原理に通じ、それより進んで深奥なる學理を研究なさんとせば十幾年の歲月を費さるを得ざるべし。

帝國學科大學の如き、三年若くは四年を以て本科を卒ることを得べしと雖も、進んで大學院に入り學術技藝の蘊奥を攻究せむとする者は其後七、八年の間研鑽琢磨の功を積んで博士試験に及第し、以て漸く専門の學者と稱せらるゝを得るなり。

然るに我邦今日の大學令に據るときは、高等中學二、三年の本科を履修したる者以上の力を有せざればこれに入學するを許さず、高等中學の本科に入るには豫科三年の勤學を要し、而して豫科に入らむとするには府縣若くは公私立尋常中學に於て五

ヶ年の學科を履まざるを得ざるを以て、前後、通計二十年の月日を費さるべからず。

尤も高等商業學校とか東京工業學校とか第二に位せる官立の各學校を卒業するには、本科三年、豫科一二年、入學試験の準備たる尋常中學校五ヶ年を経過するものと算定すれば、大學よりは幾分か之を短縮するを得れども、尙それにて十年の月日を送らざるを得ず。

是に於てか最短の時日を以て成業を期せざるべからざる者にありては勢ひ官立學校に入學することを見合せて、私立の専門各學校に入つて學ぶ者多しとす。私立學校は如何なる長期の年月と雖も修學三ヶ年を出るはなく、亦入學の試験と雖も最も容易なるもの多く、中には全くの無試験にて之を入れるものあればなるべし。

第九章 學費の概算

前章記載せる所の修業年限の長短は多くは學費供給の資力によつて左右せられ、學資の多寡は遊學者の進退成就を決する場合最も尠ならずとす。

依て本章には遊學中凡何程の學費を要し、如何なる方法を以て毎月の費用を支出なすべきか、是等の點を精密に諸君と語らざるべからず。

今通例の場合に於て毎月凡何程の費用を要するかといふに、多くも十二圓以上に昇らず、又尠くも六圓の下には降らざる位を以て適度の所と謂ふを得べく、大抵八圓の月額あらば如何なる場合にても事足るべし。

○東條及受験料

民間私立の學校にては生徒入學の際に於て東條又は入校金と稱するものを徴收し、官立學校の間に於ては東條なるものを要せざれども、其代りとして入校の際入學試験料と名くるものを徴收するを慣例とす。

其定額東條は先づ大抵が壹圓を法とし、官立學校の場合に於ては壹圓乃至三圓の試験料を要するあるべし。

此東條や試験料は新入學の生徒に對して校具の準備、資格の審査、其他の費途となるべきものにて、これは學校の方より見ても必要缺くべからざるものならんが、又入學の生徒に取りても甚だ有用のものなりとす。

そは何故に然るやといふに、この東脩を納むるが爲め入校匆匆に其學校を退學するの不利益を感じ、又他の學校に轉せんとせば又々東脩の持出しをなさざるべからざるの不便ありて、爲めに懶惰なる輕薄兒をして容易に其學校を去らしめざる効驗を期すにあらざるべし。

東京在學の年少生徒に最も多き弊習は屢々學校を轉學して尻の据らざる點にありて、爲めに學業を半途にして挫折せしむる事多く、又多くの中に於ては月謝を他の費途に流用して其學校の課業を休み、甚だしきに至つては數月の間廢學して其學校へは一日も出席せざる者あるを見る。或は僥倖を萬一に期して諸方の官立學校に屢々押掛けて入學を試み、或は轉々流浪して數月の後に突然と舊學校に歸り來り、忽焉として復再び影を匿くして踪跡を知らしめざる等の事あるが故に、缺席久しきに及ぶときは校則に據つて其者を除名し、再入學の時に於ては又々東脩を徴するを常とす。

東脩及受験料が轉學極りなき輕薄兒をして苦痛を感じしむる事は上に述べたる如くなれども、諸君は格別是に就て兎角の心配をなすには及ばず。件の東脩は入學

の際僅かに一回に止まるのみにて、敢て毎月の學資の上に影響するものにあらずればなり。

○月謝或授業料

東脩及受験料に反して月々の定額に算入するを要するものは月謝或は授業料なり。

私立の學校にては月謝壹圓を毎月の初めに於て納付せしめ、官立學校にては授業料として月額壹圓乃至貳圓若くは貳圓五十錢を毎月定日に徴收し、これが納付を怠るときには保證人をして代償せしむ。

勿論官立學校にては生徒各自の授業料を年額十圓、貳十圓、貳十五圓の數種に定め、夏季休業中の二ヶ月を除き、其餘の十ヶ月に配當して分納せしむるが常なれども、高等商業學校の如きは其年額を兩分して春秋の二期に分納せしむ。

○月俸或下宿料

次に毎月定額として必ず供給を要するものは月俸又は下宿料なり。

若しも諸君が私塾にあつて毎日の食餌の賄ひを受くるときは、これに對して支拂

ふどころの食費を指して月俸といひ、官立學校及其他の寄宿舍にあつて寢食すれば稱して寄宿料といひ、市中の下宿屋に居るときは之を下宿料といふと雖も、固是れ同一のものにして其名を異にするに過ぎず。

而して通例私塾に於ては貳圓以上、三圓前後位の月俸を要すれども、下宿屋にては三圓以上、四圓内外の下宿料を月々前納するを法とす。

此月俸や宿料の中には坐敷料をも包含し、通例それにて毎月の食費宿料とも支ふるを得れども、尙此外に塾費として十錢乃至五十錢、坐敷料として五十錢乃至壹圓を要することなり。但し其様な學校にては却て月俸の方に於て其負擔を輕からしめ、坐敷料を要する下宿屋ならば大抵食料三圓に止むるを以て法とすれば、いづれにしても諸君の負擔に格別相違する所なかるべきか。

尙此外に日常の間諸君の擔當となるべきものは薪炭油費の一項なるが、これは何程費消するも固より切りの知れたるものにて、嚴冬長夜の候にありて先づ五十錢と見込んで置いたら餘つてちやくといふ程あるべし。

旅籠屋にては夜具一切を先方に於て負擔する故、大方東京の下宿屋にても先きか

ら出すであらうなど、人のよい事を言ふべからず。尤も夜具類も損料にて借入れることは隨意なれども、これは大に高く附いて不經濟の骨頂なれば、夜の物だけは自分のものを使用せざるは不利益なるべし。

○書籍及筆墨紙料

さて其次には筆墨紙料及書籍費等なるが、書籍といふも其割には格別高價にもあらざれば年額十五圓あらば澤山なるべく、筆墨紙料をこれに見込みて月額一圓五十錢位もあらば郵便料や其他は此餘りにて充分なるべく、別に雜費の一圓もあらば諸君は豌豆の買食ひに小遣錢の豊かを誇り、又は月極めの新聞紙でも毎朝食後の窓前に披いて餘裕を示すことを得べきか。

○制服制帽外套費

尙此外官立の學校ならば制服を着用するの成規なればこれに伴ふ制帽や外套の類をも要すべし。

併しそれとても其價は大抵高の知れたるもの、冬服にても五六圓、夏服ならば五圓未滿、制帽の價は、一圓に上らず、外套八圓にして事足るべく、靴、靴下、襯衣、

股引、其外五圓にて澤山といへば是亦何程のものにてあるまじ。

民間私立の學校ならば彼の制服の代りとして羽織袴を要すれども、手織木綿に小倉の袴、朴齒の下駄を踏鳴らして市中を濶歩するに何かあらん。學校に在らずとも是れだけのものをば諸君は身に着けて居る筈なれば、それ迄學資の中に籠めて計算するは無理なれば、よし定額として見積を立つるも、一年十圓もあらば充分なるべし。

○學費の總額

前に掲げたる所のものを此處に概括して通算すれば、大畧左の如き高となるべし。但し毎年七月下旬より九月月上旬に至るまで二ヶ月間は各學校共夏季の休業に際すれば、一年の中より二ヶ月を通例扣除して概算を立つるは即ち一般の通則なりとす。

| | | |
|------|-------------|--------------|
| 授業料 | 年額 十圓乃至二十五圓 | 月額 一圓乃至二圓五十錢 |
| 寄宿料 | 同 三十圓乃至四十五圓 | 同 三圓乃至四圓五十錢 |
| 書籍費 | 同 十圓 | 同 一圓 |
| 筆墨紙料 | 同 五圓 | 同 五十錢 |
| 諸雜費 | 同 五圓乃至十五圓 | 同 五十錢乃至一圓五十錢 |
| 總額 | 同 六十圓乃至百圓 | 同 六圓乃至十圓 |

薪炭油料、坐敷料、塾費の如きは食料と共に之を寄宿料の中に含め、入學試験料の如きものは一時の納附に止れば年額若くは月額として之を算するに由もなく、被服料は豫算外の臨時の支出として之を削りぬ。

されば是等の費用を合せ、旅費若くは藥用費等のものまでも合算して月額貳圓位とするも、毎月八圓の支給を受ければ何の不足もなく優々として志業を成遂ぐることを得べし。

學資の送達は面倒にても月々爲替にて受取るがよし、月の初めには誰れにても其持合せに餘りあれば自然と無駄遣ひに陥りやすく、さて愈々月末となりては故郷の天を望むこと大早の雲霓も雷ならざる位の窮路に逼ること、よくある書生間の慣はしなれば、尙成るべくは月額を兩度に受取るが便利なるべし。

又彼の世間の親達には子弟を信用するの餘り、二三ヶ月分の學費を纏めてこれを前金に送るもあるべく、甚しきに至つては月額二十圓以上を何の理由もなく送るもあれど、是等は子弟を刺衝してわざ／＼溝壑に突落し、そをして浪費放蕩の習ひに沈ましむるものにて、其子を荼毒するの劇しき蓋しこれより大なるはなし。

第十章 上京の準備

さて東京の遊學に關して諸君が將來の目的定まり、學費供給の方法立ちて修業の途開くに至らば、早速郷里をば立去つて來學せらるも可なりと雖も、相成るべくは地方に於て充分學力を養成して然る後に優然として上京せらるゝを最もよしとす。

一 一地方の人達は餘りに東京を買被り、東京といへば萬般の學事全く整頓して、善美を盡したるものゝやうに想像するが常なれども、高等専門の學科は扱置き、中等教育に至つては却て府縣の中學に數歩を譲るの觀ありて、爲めに幾分か人文の進歩を害するの失ありとす。

○學力の養成

勿論英學と數學のみは多少府縣の學校に優れる所あるべきも、漢文學の如きものは其根底より教授する名聲藉甚の學校なく、普通の學科に至つては僅に教ふるといふ名目のみにて、近年までは何人も是等の缺點弊害に意を注ぐ者あらざりき。

一 昨年の頃よりして現時の聯絡學校なるもの競ふて中學の組織に改め、相率いて

普通學を精しく教授するやうにはなりしが、尙且府縣の中學に比して其優劣は如何あらんか。組織は中學の制度に據るも、其學校に片手間の腰掛教師多き限りは、到底充分満足なる教授を望むべくもあらず。

依ては諸君は中學だけは却て府縣の學校に於て卒業せらるゝ方利益なるべく、よし東京に出づるにしても十七八歳以上に及びて來學せらるゝが便宜なるべし。

○中學の卒業

次に中學を卒業して然る後に來學するの利益を擧ぐれば、高等中學を始めとして高等商業學校とか又は工業學校とか總ての官立學校にては入學志願者の中よりして先づ第一に中學の卒業生を撰拔し、尙それにも招募生の定員數に満たざるとき、他の入學志願者より極めて嚴密なる試験を以て採用するが常なるゆゑ、地方尋常中學の卒業生は最も容易に入學し得るの便利あるべし。

尙又官立學校へ入學せざる者にありても、稍高等なる普通學の知識を具ふると然らざるときは、愈々専門の科に進みし上にて進歩に格段の相違あれば、學資と年齢の許す限りはよし少くも三年位は地方尋常中學に在學せらるゝ方然るべきか。

○來學の年齢

上京來學の年齢を十八前後を適當なりと予が考へたる所以は、其以前にては思慮定まらず、兎角に誘惑に導ひかるゝまゝ思はぬ方角に迷ひ出で、其志を誤るの危険最も大なればなり。

○上京の季節

次に愈々東京へ來學せらるゝことゝならば、各學校の學年の替り目、或は目指せる學校に於て入學試験を舉行する其十五日以前に於て上京せらるゝが然るべきか。

官立學校の一般の規則としては學年は毎年秋季に改まり、九月十一日より起算して翌年七月十日迄を一學年に定むるが多く、入學試験は六七月頃即學年の終りに於て之を行ふこともあり又は八九月頃學年の始めに於て行ふもあり、其都度毎に官報或は新聞紙上生徒募集の廣告を出すが例規なれば、諸君は其廣告に注意して季節を誤らぬこそ肝要なるべし。

尤も民間の學校にては多くはいつにても志願者の希望に任せ入學を許すが一般の習慣なれど、中には六ヶ敷き規則を設けて其學年の始めの外は猥りに許さざる學校もあるべく、中途に於て人々の習ひかけたる所より教授を受くるといふことは、諸君一個人の爲めに取つても不利益なるは謂ふまでもなからむ。

第十一章 知友の訪問

さて愈々上京と決せしならば意見を具して其朋友に照會し豫て諸君の定めたる當該學校の實況と適否を確めたる上にて、然る後に其故郷を出立せらるゝが然るべきか。

○照會の必要

東京に居る朋友はいづれも學校の事情に委しく、諸君の爲めに計るところも必ず親切なるべくして、皆喜んで照會の事項に答ふるに相違なければ、詰らぬ遠慮と隔心を止めて諸君は充分これに向つて意見を質さるゝが宜しからむ。

又地方より東京へ初めて來學せらるゝときは總ての有様の大なるに驚き、高事氣迷ひして適當の所を撰ぶこと極めて難く、涼車若くは涼船より下ると同時に道路の

方角荷物の運送より宿泊の旅店を定むるさへ心許なく、拘摸或は悪車夫の爲めに忽ち乗ずる所となりて思はぬ迷惑をすることもあれば、相成るべくは在京の知友に兼ねて報告して其上京の時日を極め置き、萬事朋友の指圖を待つて保護を受けらるゝが上策なるべし。

○着京の通告

又諸君より朋友に向けて何時何分に着くといふ最も簡短なる電報を其途中より發して置かば、恐らく知友は停車場まで諸君を出迎ふに吝ならざるべく、然らざるも諸君の宿所又は旅店まで出向ふて萬事都合よく計らうなるべし。

第十二章 證人の豫定

次には證人を前以て其上京の以前に極め置き、着京匆匆車を駛せてこれに赴くが肝要ならむか。

證人といふは在學中父兄に代りて諸君の爲めに萬事公邊の世話をなし、其學校に對しては一切諸君の身の上を堅く引受くる者なれば、これに向つて何分の依託をな

すべきは固よりの事なり。

○證人の資格

民間私立の學校なれば格別證人の資格に付て種々の注文はなされども、官立學校は一般に其取捨を嚴重にし、先づ大抵が正副二人とも立つるを要す。

勿論其中一人は郡部に住するも差問なければ他の一人は市中に住居し、共に東京府の公民にして土地若くは家屋を有し一家の生計を立つるものとか成年以上の男子とか學校によりて曾夫々資格の定めあるものなれば、各學校の條下に就て一々其邊は質さるゝがよし。

○證人の豫定

尙不注意なる人々の中には遊學に就て證人を要するものなることを知らず、上京の後これを得るに困しむ場合多しと聞けば、諸君は必ず其邊は郷里にある中に定め置き來學せらるゝを必要とす。

東京公民にして土地若くは家屋を有する人々を學校證人と定むることは地方に於ては父兄諸君も大に困難なることもあらむか。さる場合には在京の父兄の親戚朋

友に依頼し、其人達より知邊の人へ又々依頼して貰ふがよからむ。一家の生計を立つるといふは勿論一戸を立つる者にて、寄宿若くは同居籍の身柄の人にては間に合はずと知るべし。

第十三章 宿所の撰擇

宿所を擇ぶには學校に成るべく近き方便なれども、又餘りに近くしては身軀の運動其外に不利益なること多ければ、若き人達は十町乃至十七、八町も遠方なる所に平生の宿所を定めて通學せらるゝが宜しからむか。

○位置の遠近

在京書生の常として兎角に學校の最寄に集り、以て甚だ通學に便なるものと思ふる人々擲なからざるべきも、斯くては運動に不足を來たし、胃弱、肺病、脚氣の如き病に冒さるゝこと多ければ、規則立ちたる運動を毎日怠らず試みて以て身軀の健全を専ら圖らるゝが肝要なるべし。

又學校の近所にては種々雜多なる校友に始終引ッ切りなく押掛けられて、爲めに

諸君は勉強の時間の妨げを受くることあり。遊蕩又は其外の不良の誘因に移り易きも多くは是等校友の狼狽極りなき交際にあれば、諸君は成るべく始めよりは等の誘惑を避けんか爲めに、稍遠隔なる方位に於て宿所を求むるが必要なるべし。

○地勢の高低

宿所を其學校と掛離れたる遠所に求むる其外に、又其地勢の高低に付諸君の注意を加ふるを要す。

脚氣、肺病、室扶斯、赤痢、虎列刺の如き恐るべき病の多く流行するは空氣の流通不良なる市街に於てするものにして、飲用水の汚濁なる、溝渠下水の停滯せる皆悉く病毒を蔓延せしむるの原因たり。

然るに此種の病原は多く低濕なる地方にありて、高く乾燥せる所に於ては彼の劇烈なる病毒の蔓延することは極めて稀なり。此に於てか心ある書生は高部地方を求めてこれが宿所を撰定し、九段、駿河臺、本郷、谷中、駒込、牛込、小石川、麻布、三田臺等の中より其學校に通ふが多し。

此邊の地は東京にて所謂山の手と稱する所にて、下谷、淺草、本所、深川、其他

京橋日本橋區の所謂下町は寄宿上思はしからぬ所なり。

○塾舎と下宿

宿所に塾舎と下宿屋との二種の區別あることなるが、規律正しき所ならば入塾したる方却て宜しく、下宿屋なるものは諸君をして早晚遊蕩に陥らしめて多少の障害を來さしむる危険あることは掩ふべからず。

依ては年若き人々を最も安全に托するには父兄の知邊親戚に優れる所なしと雖も、書生を預りて世話をするには甚だ迷惑を感じるもの故、諸君は其様な場合に於ては朝寝夜深し夜遊びの如き不行跡をば堅く慎み、以て寄宿の主人に對し少しも迷惑を掛ざるやうに平生注意せらるゝぞよき。寄宿する所が素人屋ならば自然と校友の足も遠退き、けふは是非とも交きあひ玉へなどいふことなどは慚くなりて、身を持潰さることなきを得む。

中篇 各學校の規則

第一章 官立高等諸學校

帝國大學

帝國大學は國家の須要に應ずる學術技藝を教授し、及び其蘊奧を攻究するを以て目的とし、大學院及分科大學を以て構成す。大學院は學術技藝の蘊奧を攻究し、分科大學は學術技藝の理論及應用を教授する所とす。

分科大學は法科大學、醫科大學、工科大學、文科大學、理科大學、及農科大學とす。分科大學の卒業生は其修むる學科に隨ひ學士と稱することを得べし。大學院を經過して學術技藝の蘊奧を攻究したる者には、文部大臣に於て博士の學位を授くべし。

法科大學には法律學科、政治學科の二學科を置き、四箇年を以て各學科を修めしむ。學科課程左の如し

- 法律學科 法例、民法財産編、財産取得編、債權擔保編、證據編、人事編、刑法、羅馬法、民事訴訟法、刑事訴訟法、民法原理、刑法原理、裁判所構成法、商法、憲法、國際法、行政法、法理學、本邦法制沿革、演習、英佛獨參考
- 政治學科 政治學、理財學、社會學、財政學、統計學、理財史、政治史、法制沿革、憲法、英佛獨憲

法、行政法、國際公法、國際私法、民法、刑法、商法、行政裁判法
醫科大學には醫學科、藥學科の二學科を置き、四箇年を以て醫學科を修め、三箇年を以て藥學科を修業せしむ。學科課程左の如し。

醫學科

解剖學、同實習、組織學、同實習、生理學、同實習、病理總論、局所解剖學、病理解剖學實習、病理組織學、實習、胎生學、藥物學、診斷學、外科總論、繃帶學、內科各論、外科各論、內科臨床講義、外科臨床講義、外科手術演習、婦人科學、產科學、產科模型演習、產科婦人科臨床講義、眼科學、眼科臨床講義、皮膚病及毒學、精神病學、衛生學、法醫學、小兒科臨床講義

藥學科

製藥化學、植物解剖學、藥用植物學、植物學實習、調劑學、實地調劑、藥局法使用法實習、生藥學、有機砒攻究法、顯微鏡檢査、裁判化學、同實習、衛生化學、同實習、製藥術實習、製藥學實習、藥用植物分拆法實習、藥劑師規則

工科大学には土木工學科、機械工學科、造船學科、造兵學科、電氣工學科、造家學科、應用化學科、火藥學科、採鑛及冶金學科の九學科を置き、各科三箇年づゝの修業とす。學科課程左の如し。

土木工學科

數學、物理學應用力學、構造強弱論、蒸氣機關、機械學、(此六科目は以下各學科に通じて課するものを知るべし)、水力機、地質學、測量道路施工法、橋梁河川運河港灣、鐵道橋梁、家屋構造、測地學、實地測量及製圖、衛生工學、工藝經濟學、土木行政學、意匠及製圖、實地演習

機械工學科

機械工學、機械製造法、水力機、發電氣發動機、製造冶金學、工藝經濟學、土木工學製圖、機械工學製圖及實驗、實地演習、特別講義

造船學科

造船學、船用機關、水力機、水雷及水雷艇、機械製造法、工藝經濟學、造船學意匠及製圖、船用機關意匠及製圖、實地演習

造兵學科

砲學、火藥學、鐵冶金學、砲架論、彈丸論、彈道學、大砲構造論、造船學、火工學、水雷學、製造冶金學、工藝經濟學、家屋構造、水力機、砲架彈丸構造、意匠製圖及化學實驗

電氣工學科

電力學、電氣磁氣及應用、電信、電燈、電話、發電機、發動機、水力機、機械工學、工藝經濟學、物理電機及實驗製圖、電氣工學實驗意匠製圖、化學實驗、實地測量及製圖

造家學科

家屋構造、配景法、裝飾法、建築材料及製造、穹窿架法及建築物理、衛生工學、日本建築學、建築沿革、建築條例、自在番、裝飾畫、寫圖及配景圖、仕機及計算、意匠及製圖

應用化學科

有機化學、定性分拆、定量分拆、應用化學、工業分拆、吹管分拆、礦物鑑識、冶金學、製造冶金學、試金術、家屋構造、物理實驗、機械製圖、應用化學實驗、意匠及製圖

火藥學科

彈丸論、彈道學、火工學、火藥學、砲學、爆裂學、水雷學、水力機、有機化學、機械製造法、家屋構造、工藝經濟學、製圖及化學實驗、意匠製圖

採鑛及冶金學科

採鑛學、礦物學、冶金學、地質學、鐵冶金學、鑛脈論、採鑛計畫、冶金計畫、測量學、地下測量、礦物識別、成金術、定性分拆、吹管分拆、定量分拆、製圖、工學實驗

文科大學には哲學科、國文學科、漢學科、國史學、史學科、博言學科、英文學科、獨逸文學科、佛蘭西文學科の九學科を置き、各科三箇年の修業とす。學科課程左の如し。

哲學科

哲學概論、哲學史、比較宗教及東洋哲學、史學、心理學、論理學、倫理學、審美學及美術史、教育學、(以上九課目は通して各學科に課するが故に以下一々之を掲げず) 純正哲學、生理學、精神物理學、精神病論、社會學、動物學、地質學、國語、漢文、英語、獨逸語、佛蘭西語、希臘語、羅甸語

國文學科

國文學、國語、漢文、日本歴史、日本法制沿革、支那歴史、比較傳言學、社會學、英語佛語若くは獨逸語

漢學科

國語、國文學、支那學、漢文學、日本歴史、支那歴史、日本法制沿革、支那法制沿革、社會學、英佛獨語

國史科

日本歴史及地理、日本法制沿革、國語、國文學、支那歴史及法制、比較傳言學、社會學、英佛獨語

史學科

史學及地理學、地文學、日本歴史、社會學、英語獨語及羅甸語

傳言學科

國文學、國語、漢文學、支那語、英語、獨逸語、佛蘭西語、羅甸語、梵語、比較傳言學、音學及ローマンス語チユートニツキ語歴史、希臘文法

英文學科

英語、獨逸語、佛蘭西語、羅甸語、音學及ローマンス語チユートニツキ語歴史

獨逸文學科

獨逸語、英語、羅甸語、佛蘭西語、音學及ローマンス語チユートニツキ語歴史

佛文學科

佛蘭西語、羅甸語、英語、獨逸語、以太利語、音學及ローマンス語チユートニツキ語歴史

理科大學には數學科、星學科、物理學科、生學科、動物學科、植物學科、地質學科の七學科を置き、各學科三箇年の修業とす。學科課程左の如し。

數學科

微分積分、解拆幾何、高等解拆、高等代數學、最小二乘法、函數論、力學、高等物理學、

星學科

球面星學、高等數學雜論、星學理論、數學演習等

物理學科

微分、積分、解拆幾何、高等解拆、最小二乘法、函數論大意、力學、高等物理學、球面星學、實地星學、星學實驗、數學演習等

化學科

微分、積分、力學初歩、高等物理學、生理化學及實驗、物理學實驗、化學實驗、無機化學、有機化學、化學理論の歴史、理論及物理化學等

動物學科

普通動物學、動物學實驗、植物學講義、植物學實驗、有脊動物比較解剖、生理學、組織學及發生學、生理化學及實驗、礦物及岩石實驗、地質學、古生物學、(以上は植物學科にも通して課す) 特別問題講義、實地研究、寄生動物學、バクテリア學實驗

植物學科

植物學講義、植物學實驗、バクテリア實驗

地質學科

地質學、礦物學、岩石學、晶像學、古生物學、同實驗、動物學、同實驗、植物學、同實驗、化學實驗、地質學實驗、地質學實驗

農科大學には農學科、林學科、獸醫學科の三學科を設け、更に農學科を大別して

農學科

第一第二の二部となし、各學科修業年限は三箇年とす。學科課程左の如し。

農學第一部

岩石學及地質學、土壤學、氣象學、植物生理學、植物病理學、肥料論、作物論、土地改良論、農業經濟論、農産製造學、農業行政、日本農業論、(以上は農學科第二部にも課す) 植物學定義、動物學實驗、昆蟲學及養蠶論、畜産學、園藝學、農場實習、農藝物理學、獸醫學大意、バクテリア學、理財學、獨逸學

第二部

化學原論、生理化學、農藝物理學、農藝化學實驗、家畜飼養論、食物及嗜好品論、飼料及肥料鑑定論、獨逸語等

林學科

森林數學、地質學及土壤學、氣象學、森林植物學、同實驗、森林動物學、同實驗、森林物理學、森林土木學、森林測量法、造林學、森林設計學、森林利用學、森林副產物製造法、森林管理法、森林法律學、森林統計學、森林保護論、林政學、森林歷史、理財學、財政學、實地演習

獸醫學科

解剖學、生理學、組織學、胎生學、病理通論、藥物學、畜產學、外科手術學、內科學、外科學、眼科學、病理解剖學、寄生蟲學、皮膚病論、動物疫論、動物產科學、相馬學、蹄鐵法、蹄病論、調劑法、畜病院實習、獸醫警察法、裁判獸醫學

醫科大學には別に國家醫學講習科を置き、十二週間を以て修業せしむ。講習科目は左の如し。

國家醫學講習科

病理解剖式、衛生學、法醫學、精神病學、日本醫制及衛生法

理科大學に於ては理學に通ぜむとする者の急要を充さんが爲めに別に簡易講習科を設く。簡易講習科を分つて第一部、第二部とし、各部二箇年を以て修業せしむ。其課目は左の如し。

簡易科

第一部

算術、代數、幾何、三角法、解拆幾何、微積大意、物理學講義、同實驗、化學講義、同實驗、天文學

第二部

動物學、植物學、地學、地文及地理、天文學

農科大學に於ては實業者を養成する爲めに、更に農學科、林學科、獸醫學科の乙科を設け、各科三箇年を以て成業せしむ。其學科及課程は本科課程に準ず。

大學院學生は入學後二箇年間分科大學に於て研究生たるを要し、五箇年の後帝國大學總長に於て委員を選定し以て學位試験を行ふ。

學年は毎年九月十一日に始まり、翌年七月十日に終る。休業は各日曜日、大祭祝日等の外、冬季休業は十二月二十五日より一月七日に至る二週間とし、春季休業は四月一日より同七日に至る一週間とし、夏季休業は七月十一日より九月十日に至る二箇月間とす

學年及び休業に關する規程は諸官立學校皆同じ。故に以下一々は掲載せず。入學の期は毎學年の始め一回とす。分科大學第一年級に入るを得るには高等中學校若くは文部大臣に於て之と同等の學科課程を具備すと公認したる學校の卒業證書を受領したる者、若くは本校に於て試問をなし之に等しき學力ありと認むる者に限る。

入學を願ふ者は豫て本校に於て規定せる書式に照準して入學願書を出すべし。入學試問を要する者は入學受験料金五圓を大學會計課に納むるものとす。入學許可を得たるときは其正副保證人より在學證書を出すべし。正副保證人は共に丁年

以上にして東京府下に居住し、土地若くは家屋を有する者、又は本學に於て適當なりと認むる者に限るべし。學生品行不良學業懈怠若くは疾病等の故を以て成業の目的なきときは之に退學を命ずべし。

入學在學退學に關する規定は諸官立學校皆同じ。故に以下一々は掲載せず。大學院學生及各分科大學卒業生にして既修の學科を更に研究せむとする者の爲めには研究科の一科を設く。各分科大學課程中一課目又は數課目を撰びて専修せんと欲し入學を願出る者は各科正科生に欠員ある時に限り撰科生として之を許可す。分科大學々生の授業料は一箇月金貳圓五十錢とす。但冬夏休業間二箇月は授業料を徵集せず。學生必需の費用は授業料、寄宿料、被服料、薪炭等の總學費を合算して一箇月大約十二圓内外とす。

學術優等品行方正なる學生を撰びて各分科大學の特待生と爲す。特待生よりは授業料を徵集せず。

分科大學々生にして特別保護を要する學科を修め學力優等品行方正にして學資支辨の途なきものには分科大學より當該學年內年額八十五圓以内の貸費を支給することあるべし。官廳社會または一私人の依託に應じ分科大學々生に其貸費を支給することあるべし。貸費を受けたる學生は總て卒業の上其貸費を受けたる年數と均

しき期限内に於て之を月賦返納すべし。會社又は一私人の貸費を受けたる者は貸費を受けたる年數と均しき期限内に於て其事業に従事すべし。

本大學は文部大臣の主管に屬し、法醫工文理の五大學は府下本郷區元富士町に在りて、農科大學は府下荏原郡上目黒村駒場に在り。現任大學總長は元専門學務局長濱尾新にして、外山正一、古市公威、穂積陳重、山川健次郎、松井直吉、小金井良精、以下十二名の評議員を以て之を助け、百六十七名の教授、助教授、外國教師、講師を以て、千三百八十七人の學生生徒を養成せり。

學 習 院

本院教育の要領は天賦の機能を暢達せしめ國家の貴族たる本分を盡すに足るべき材徳を充分養成するに在り。

教科を區別して初等學科、中等學科、高等學科、大學科、海軍豫科の五學科とし、各科に於て教授する課目を分て左の十課とす。

國漢文課、歐文課、歴史地理課、數學課、理學課、藝術課、政學課、法學課、哲學課、武課

修業年限は初等學科六ヶ年、中等學科六ヶ年、高等學科三ヶ年、通計十五ヶ年に

して尙大學科は三ヶ年、海軍豫科を三ヶ年とす。

本院は 天皇陛下の聖旨を奉じて建てたるものにして宮内大臣の所轄に屬し、校舍は四谷門外に在りて皇城を護し、其建築巍然として規模甚だ宏大なり。現任院長は宮中顧問官田中光顯にして、三輪桓一郎、吉田彦六郎、工藤一記、丸尾錦作以下六十八名の教授及助教ありて、七百餘名の生徒を養へり。

華族女學校

本校教旨の要領は尋倫を本として知識を發達せしめ高尚の性情と健康の身軀とを以て上流の賢母良妻たるべき者を陶冶するに在り。

教科を大別して小學科中學科とし、更に小學科を小分して初等小學科高等小學科とし、中學科を小分して初等中學科高等中學科として、左の普通學諸課を教授す。
修身、國文、漢文、歐語、地理、歴史、數學、理科、家事、習字、圖書、手藝、音樂、躰操

修業年限は初等高等小學科は各三ヶ年、初等高等中學科は各三ヶ年にして通計十二ヶ年の課程とす。

本校は 皇后陛下の令旨を奉じて建てたるものにして宮内大臣の所轄に屬し、壯麗輪奐たる歐風の巨堂は赤坂門内に在りて近く宮廷を擁護せり。現任學校長は文

事務書官長細川潤次郎にして、下田歌子、椿素一郎、佐野安、關根正直以下三十餘名の教授助教を以て三百八十名の生徒を養へり。

高等師範學校

本校は尋常師範學校及尋常中學校の校長及教員を養成するの所とす。

教科を大別して文科、理科とし、修業年限は各四ヶ年にして、學科課程は左の如し。

文科 倫理、教育學、國語、漢文、英語、獨語、歴史、地理、哲學、經濟學、躰操等

理科 倫理、教育學、國語、英語、獨語、數學、物理、化學、地學、植物學、動物學、生理學、農業、手工、圖書、躰操等

生徒は尋常師範學校若しくは尋常中學校を卒業したる者よりして府縣知事をして選舉せしめ、更に本校に於て其撰拔を行ふものとす。

入學試験に及第したる者は一定の期間、假入學の生徒となし、資性品行才能に於て適當の者に限り本入學を許すべし。

假入學の生徒は學費自辨とし、本入學の後には官費とす。

本科生の外、教育學及教授法を專修せむとする者をば研究科に入らしむ。在學期限は一ヶ年とす。尋常中學校師範學校教師の欠乏を充たす爲め更に專修科を設け、專修科生よりは授業料を徴收す。次に文科理科中の一課若くは數課目を撰びて學習する者をば撰科生として入學せしめ、二ヶ年乃至四ヶ年の學期を以て卒業せしむ。

本校は府下本郷區湯島三丁目に在りて、文部大臣の所轄に係り、音樂學校、中學校及小學校ありて之に附屬す。現任學校長は嘉納治五郎にして、後藤牧太、南摩綱紀、岩川友太郎、野尻精一、上原六四郎、上眞行、山勢松韻、以下六十九名の教授、教諭、助教諭、助教諭、及訓導ありて七百五十名の本科生徒、附屬音樂學科生徒、中小學科生徒を養へり。

附屬音樂學校

本校は高等師範學校に附屬して音樂上の教育を施し、善良なる音樂教員の養成に従事す。

教科を大別して豫科本科とし、凡三ヶ年を以て左の課目を履修せしむ。

豫科 倫理、唱歌、洋琴、音樂論、文學、英語、躰操、舞蹈等

本科 倫理、聲樂、樂器、風琴、バイオリン等、音樂論、音樂史、文學、英語、

教育、躰操、舞蹈等

生徒入學は毎年一回學年の始め九月に於てす。入學志願者は年齢十四年以上二十歳以下にして、左の資格を有するものに限るべし。

躰格 身體健康 學力 高等小學校卒業以上、若くは之と同等の學力

唱歌 唱歌集初篇卒業以上 英語 綴字、讀法、文法の類

在學中は授業料一ヶ月金壹圓を納めしむ。但夏季休業中二ヶ月分は無論徴收の限りにあらず。

女子高等師範學校

本校は女子尋常師範學校高等女學校及小學校の女教員并に幼稚園の保姆を養成する所とす。

學科は倫理、教育、國語漢文、英語、數學、地理歴史、理科、家事、習字、圖畫、音樂、躰操等にして、修業年限は四ヶ年とす。

生徒募集は毎學年の末に於てし、其入學は毎學年の始に於てす。學年は四月一日に始り、翌年三月三十一日に終る。生徒は府縣知事をして選舉せしめ、該選舉

生の中に就て再び撰拔を行ふものとす。府縣選學生は尋常師範學校二ヶ年の課程を終りたる者、又は是と均しき學力資格を有する者に限るべし。在學中は何等の事故ありと雖も退學を願ふを得ず。

本校は府下本郷區湯島三丁目に在りて、文部省の所轄に係り、高等女學校、小學校、幼稚園等ありて之れに附屬せり。現任學校長は秋月新太郎にして南摩綱紀、飯盛挺造、中川謙次郎、神津仙三郎、野口保典、加藤錦子以下五十五名の教授、教諭、助教、助教諭、訓導、及保母を以て、本科及高等女學科、小學科及幼稚園科等七百八十八名の生徒を目下養成せり。

附屬高等女學校

高等女學校は女子高等師範學校に附屬して、女子に高等なる教科を教授する所とす。修業年限は六ヶ年にして、學科課目は左の如し。

修身、國語、漢文、外國語、歴史、地理、數學、理科、家事、圖書、習字、唱歌、躰操

入學志願者は四ヶ年の尋常小學校卒業生、若は之と同等以上の教育を受けたる者とす。授業料は一年級より三年級迄は毎月一圓五十錢、四年級より六年級までは金二圓を納めしむ。

尙高等女學校には別に專修の一科を置いて左の諸課目を撰ばしめ、二ヶ年を以て成業せしむ

修身、國語、漢文、外國語、家事、習字、圖書、音樂等

專修科生徒たるべきものは高等女學科卒業若しくはこれと同等の教育を受けたるものとなし。月謝一圓五十錢乃至二圓を納めしむ。

陸軍士官學校

本校は歩兵騎兵砲兵工兵等陸軍各兵科の士官候補生を招募して生徒となし、初級士官に必要な教育をなすを目的とす。學科は歩兵騎兵砲兵及工兵科の數科にして、其課目は將校及學校監の定むるところとす。修業年限は一ヶ年半とし、毎年十二月上旬に始り、翌々年の五月に終る。

本校は府下牛込區市ヶ谷に在りて陸軍大臣の所轄に屬す。現任學校長は陸軍大佐波多野毅にして、七十餘名の陸軍教授及助教を以て六百名の各科學徒を養へり。

尙本校の精細なる規則を知らんと欲するものは廿六年十二月勅令二百三十三號陸軍士官學校條例を官報に據て緋くべく、入學手續は廿二年七月五日の勅令九十二號

陸軍各兵科現役士官補充條例を見て知るべし。尙入學志願者は本籍又は寄留地の郡市區役所村役場に出頭するときは速に該官報の一覽を得べし。委敷きことは條例の文面甚だ繁雜なれば此處には省畧することゝなしぬ。

陸軍幼年學校

本校は尋常中學と概ね同一なる教授並に軍人たるべき豫備教育を與へて、陸軍各兵科士官候補生となるべき者を養成するの所とす。

生徒教育は之を教授と訓育とに分ち、其科目は將校及學校監の定むる所とす。修業年限は三ヶ年にして、其學年は毎年九月上旬に始り翌年六月下旬に終る。

本校は府下牛込區市ヶ谷に在りて士官學校と相隣れり。現任學校長は陸軍中佐佐々木直にして、文官教員三十九名武官教員三十名にて二百五十名の生徒を養へり。幼年生徒は官費生、半官費生、自費生の三種とす。卒業の者は士官候補生として軍隊に配賦し、學術品行優等の者は同時に二等軍曹の資格に進めしむることあるべし。

尙委敷くは廿六年十二月十八日の官報に據て陸軍幼年學校條例の部を参照すべく、入學手續は廿二年七月五日の官報紙上陸軍幼年學校生徒召募條例を精讀し、尙

毎年十月の頃陸軍大臣の告示に係る學科試驗格例及志願者心得を一覽すべし。

第一高等中學校

本校は實業に就かんと欲し又は帝國大學に入らむと欲する所の者に須要なる教育を施すを以て目的とす。

教科を分つて本科豫科とし、更に本科を大別して一部二部三部の三つに分ち、各生徒をして其一を修めしむ。

豫科は尋常中學校第四年級以上の教科課程に據り、其課目は倫理、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、地理、歴史、數學、博物、物理、化學、圖書、唱歌、體操等にして二ヶ年を以て修業せしむ。

本科一部の教科課程は法科文科の志望生に授くるものにして、國文、漢文、第一外國語、第二外國語、羅甸語、歴史、理財學、哲學の諸科は法文二科に通じて課し、尙此外に法科生には地理及び法學通論を修めしめ、文科生には數學、物理、化學、地理學、鑛物學、及天文學を修めしめ、二ヶ年を以て成業せしむ。

本科二部の學科課程は工科理科農科の志望生に授くるものにして、其中、第一外國語、第二外國語、數學、物理學、化學、地質學、鑛物學、圖書、體操は各學科生

に通じて之を課すれども、更に工科志望生には力學、測量の二課を加へ、理科志望生には羅旬語、哲學、力學を課し、農林科志望生には動植物學、法學通論、力學、測量等を課し、獸醫科志望生には羅旬語、解剖學を課す。修業年限は二ヶ年とす。

本科三部の學科課程は醫科志望生に課するものにて、第一外國語、第二外國語、羅旬語、數學、動物及植物學、地質及礦物學、物理學、化學、人躰解剖學、體操等の教科を課し、二ヶ年を以て修業せしむ。

入學の期は毎學年の始め、即ち九月の上旬とす。

第一高等中學校設置區域内に於ける尋常中學校卒業生にして、該學校長の品行方正學術優等身躰壯健と認めたる者は、試業を須ひずして學力相當の學級に編入すべし。斯くして募集したる生徒、定員に満たざるときは試業を用ひて其補欠員を募集すべし。

入學を許すべき者の年齢は、豫科第二級に於ては滿十五年以上、第一級に於ては滿十六年以上とす。入學試業を受けんと欲する者は試験料として左の金額を納むるを要す。

但自己の都合に依り試業期限三日前迄に入學願の取消を乞ふ者には其試験料を返

還すべし。

| | | | |
|------------|------|------------|------|
| 豫科第二級入學志願者 | 金貳圓 | 同 第一級入學志願者 | 同 三圓 |
| 本科一年級入學志願者 | 同 四圓 | 同 第二級入學志願者 | 同 五圓 |

入學を願ふ者は入學願書、及學業履歷書を差出すべく、入學の許可を得たる者は正副保證人連署の在學證書を出すべし。正副保證人は東京市内の公民にして生徒の親戚なるか、又は父兄の朋友なるか、若くは同郷者にして其身上に付き一切の事を引受くるに足るべき者に限るべし。

生徒入學の際學力試業は左の表に據り三期に分つて施行すべし。但し各期の試業にて既に不合格と確定したる者は次期の試業を受くるを許さず。學力試業に合格したる者には更に躰格検査を受けしむ。

學科 課目

作文 和文歐譯 書取及文法

第一外國語

筆頭譯解 歐文和譯

第一期試業

數學

算術 全科

代數 二次方程式、根式及開法迄

第二期試業

| | |
|-------|---------------------------------|
| 第一外國語 | 讀方、會話、口頭譯解 |
| 數學 | 平面幾何 |
| 國語 | 講讀 徒然草の類 文法及語格 |
| 漢文 | 書取 漢字交り文 作文 漢字交り文 講讀 史記列傳の類 |
| 地理 | 日本地理概畧、五大洲の地理、地文 |
| 歷史 | 日本歷史 神代より北條氏の終迄 支那歷史 西洋歷史 大意 |
| 博物 | 動植物、金石、物理及化學の大意 衛生及生理の大意 |
| 倫理 | |
| 圖畫 | 自在畫 寫生 |
| 習字 | |
| 躰操 | 兵式躰操 |

試業採點法は前段中一行内に記載せる課目毎に特立の點を付す。各課目の點數

第三期試業

| | | | |
|-----|--------------|--------------|---------|
| 一課目 | 合格せざる課目の數 | 合格せざる課目の最下點數 | 入學試業の成績 |
| 一課目 | 四十點以上 | 四十點以上 | 合格 |
| 一課目 | 四十點未満 | 四十點以上 | 不合格 |
| 二課目 | 五十點以上 | 五十點以上 | 合格 |
| 二課目 | 五十點未満 | 五十點以上 | 不合格 |
| 三課目 | 五十點以上 | 五十點以上 | 合格 |
| 三課目 | 五十點未満 | 五十點以上 | 不合格 |
| 三課目 | (但同學科中二課目以上) | | 不合格 |
| 四課目 | (但同學科中二課目以上) | 五十五點以上 | 合格 |
| 四課目 | (但同學科中二課目以上) | 五十五點未満 | 不合格 |
| 四課目 | (但同學科中二課目以上) | | 不合格 |
| 五課目 | (以上) | | 不合格 |

は一百を滿點とし、六十以上を合格點とす。入學學力試業に於て合格不合格は左表に依つて判定す。

生徒在學中は本校制定の被服を着用すべし。教科書貸付料は一
本校教科書を借受けんとする者は前以て貸付料を納むべし。教科書貸付料は一
學期毎に原價又は其評價額の一割とす。豫科生徒は各々金拾五圓とし、七
授業料は一學年に付本科生徒は各々金貳拾圓、豫科生徒は各々金拾五圓とし、七

月八月を除き毎月缺課の有無に拘はらず月割を以て之を徴收す。徴收定日に於て授業料を納附せざるときは未納中停學を命じ、之を保證人より徴收すべし。其未納三週日に至る者は除名若くは退學を命ず。

本校々舎は府下本郷區駒込東片町に在り、森川、向ヶ岡等に連接して帝國大學と相鄰り、本館、分館、物理學室、化學室、演繹室、銃器室、躰操所、寄宿寮、食堂、攝生室等萬般の設備一として具らざるなし。

現任校長心得は教授久原躬弦にして、今村有鄰、長尾精一、寺田勇吉、久米幹文、箕作元八、高津鍬三郎等教授助教授七十四名を以て千三百四十名の生徒を目下養へり。

高等商業學校

本校は主として内外商業に關する高等の教育を施し將來公私の商務及會計を處理すべき者並に商業學校の主幹又は教員たるべき者等を養成する所とす。

本校修學年限は豫科を一個年とし本科を三個年と定む。豫科に於て授る所は倫理、書法、作文、數學、簿記、圖畫、物理、化學、博物、英語、躰操等にして、本科に於て授る所は商用作文、商用算術、簿記、商品、商業地理、商業歴史、經濟、純計、法律、英語、佛西獨伊支露語の内一語、商業要項及實踐、及躰操とす。

入學の期は毎學年の始め一回とす。本校に於て適當と認めたる官公立尋常中學校の卒業生にして該校長の保證あるものは無試験入學を許すべし。同上官公立商業學校の卒業證書を有し、該校長の學術優等身躰健康品行方正と認めし者は特に和漢文、英語、數學、物理、化學、博物の中、數科若しくは全科に就き其の學力を査檢し、合格したるものは豫科に入學を許すべし。官公立學校にして普通學の程度府縣立尋常中學校と同等以上と認められたる學校の卒業證書を有するものは之れに準ず。

豫科入學志願者にして前に掲ぐる者の外は年齢滿十七年以上身躰強健、品行方正にして、左の試験に合格すべき學力を有する者に限るべし。

- | | | | |
|-----|--------------|----|-----------------------|
| 和漢文 | 訓點、解釋 | 書法 | 楷行草三躰 |
| 作文 | 公私用文、記事論說文の内 | 數學 | 算術、代數、幾何(平面、立躰)、三角術初歩 |
| 地理 | 内外國 | 歴史 | 内外國 |
| 圖畫 | 自在畫、用器畫 | 物理 | 大意 |
| 化學 | 大意 | 博物 | 大意 |
| 英語 | 書取、會話、反譯 | 躰操 | |

入學試験は凡て尋常中學校卒業の程度に據る。各高等中學の卒業證書を有する

者は試験を要せず本科第一年級へ入學を許すべし。

入學志願者は受験料として金三圓を入學願書並學業履歷書と共に先づ本校に納むべし。入學許可の命を得たる者は其當日より五日以内に證人同道にて入學誓書を持參すべし。此手續を履まざる時は試験合格の者と雖も決して入學を許すことなし。保證人は正副二人を要し、俱に成年の男子にして府内に一家を立つる者たるべし。

授業料は一學年豫料金二十圓、本科金二十五圓と定め、每學年九月二月の二期に分ち指定の日に於て其半額づゝを前納せしむ。

本校學生の學力優等品行方正にして學資支辨の途なき者は、本人の願意と校長の認定とに由り、一個年金百圓以内の學資を貸給することあるべし。學資の貸給を受けたる者は卒業後業務につきたる翌月より起算し、貸給を受けたる月數に二倍せる期限内に於て其貸給金額を月割を以て之を本校へ返納すべし。又貸給を受けたる者は卒業後従事すべき業務及俸額等に對し、貸給金額を完償するまでの間校長の指令に従ふべき義務あるものとす。

本校に於て定めたる教科用圖書の内價一圓以上のものにして本校に數部を備ふるものは、貸付料を徴收して學生生徒に貸す付べし。貸付料の額は一學年毎に該圖書の價格の百分の二十とす。貸付料は一學年分前納せしむるものとす。

尙本校には別に研究科の一科を置き、卒業生をして一ケ年間其修むる所の學科を深く研究することを得しむ。但し研究生には授業料を課せず。

本校は文部大臣の所管にして、府下神田區一ツ橋通町に在り。現任校長は文部參事官由布武三郎にして、神田乃武、木村匡、家永豊吉、高橋二郎、前橋孝義等四十一名の教授及助教授ありて三百六十名の生徒を養へり。

東京工業學校

本校は主として將來職工長又は工業教員となるべき者を養成する所とす。

教科を分つて化學工藝部、機械工藝部の二部となし、更に化學工藝部中、染織工科、陶器玻璃工科、應用化學科の三科を置き、機械工藝部中、機械科、電氣工學科の二科を置く。

化學工藝部の學科課程は數學、物理學、無機化學、礦物學、有機化學、一般應用化學、應用機械學、定性分析、定量分析、工業分析、圖書、機械製圖、實修、工場建築法、英語、簿記、躰操等にして、尙此外に染織工科には染色法及配色法、機械練習、染色法及媒染劑製造に關する豫備實驗、諸織緯、練方、漂白侵染、捺染、織

方意匠及意匠書を課し、陶器玻璃工科には陶磁器、玻璃、セメント、煉瓦、漆灰等の製造法、製造に關する豫備實驗、意匠及意匠書を課し、應用化學科には特別應用化學、電鑄及電鍍法、酸類鹽類等の精製、化學製品電鑄電鍍製造實驗等を課し、毎週四十一時間の教授とす。

機械工藝部の學科課程は數學、物理學、無機化學、工具用法、應用化學、電氣學特別講義、製造用諸機械、發動機、圖書、機械製圖、原範製造及鑄造實修、銅工鍛工仕上鐵工等の實習、電氣工場蒸氣機械及蒸氣室實習、工場製圖實習、工場建築法、英語、簿記、体操等にして、毎週四十一時間の教授とす。但電氣工業科の學科課程は追て之を定むべし。

本校生徒の修業年限は三ヶ年とす。生徒卒業の後尙一ヶ年以上現業實習として本校の監督を受け、製造所又は實業者に就き職工の業を執らしむるものとす。

道廳府縣立尋常師範學校卒業生にして、道廳長官府縣知事に於て將來尋常師範學校手工科教員たらしむるの目的を以て其推選に係るものは、機械工藝部特別生として入學を許可す。特別生に限り卒業後の現業練習を要せず修業年限も亦時宜に依り之を短縮することあるべし。

工業者若くは其子弟、實業に従事すること滿一年以上にして、化學工藝部若くは

機械工藝部中其業務に必要な一課目若くは數課目を撰修せんと欲するものあるときは撰科生として二ヶ年以内從學を許可することあるべし。

入學の期は毎學年の始め一回とす。入學せんとするものは各項に適合し、且學科試業に合格する者とす。

年齢 滿十七年以上滿二十五年以下

品行 端正なる者

身體 強健なる者

資格 工業者の子弟又は將來工業に従事せんとする志望の鞏固なる者、又は府縣職學生

入學試業の學科課目は左の如し。

讀書 漢文交り文

作文 漢字交り文

算術 四則、分數、小數、比例、百分算、開平、開立、求積

代數 諸定義、符號、四則、最大公約數、最小公倍數、分數、比例、一元二次方程式、多元一次方程式及其問題負數の解釋不能の場合

平面幾何 諸定義、一點に於る角、平行直線、三角形、平行四邊形、軌跡、平面積

圖畫 自在畫(鉛筆畫、若くは毛筆畫)器物及草花等の實物臨寫
用器畫 平面幾何畫法、及尋常技象注(圓錐、圓筒等の被傾斜まで)

物理 大意

無機化學 大意

英語解釋 凡ニニチン第四讀本の程度

但し毎年募集人員の半は無試験にて入校を許し、府縣尋常中學校、各高等中學校、及本校に於て適當と認めし所の公立尋常中學校の卒業生は成績優良の者に限り該學校長の證明を待つて無試験入學を得しむるものとす。

入學試験を受けんと欲する者は入學願書に履歷書及試験料壹圓を添へて本校官吏に納むべし。

入學の許可を得たる者は其當日より一週間以内に保證人連署の誓書、及保證書を保證人同伴にて持参すべし。保證人は東京市及北豊島南足立南葛飾三郡内の公民にして生徒の身分に關し一切の事を引受くるに足り且つ其身上に干渉し得べき關係ある者に限る。此の手續を履まざる時は何如なる事情あるも其入學を許すことなし。

生徒は自費を以て本校制定の帽被服を調製着用すべし。新入學生徒は其入學の日より一ヶ月以内に調製着用すべし。

生徒授業料は一學年金十五圓と定め之を二回に分納せしむ。授業料は毎學期の始め一週間以内に其半年即一學期分を本校收入官吏に納附すべし。學力優等品行

善良にして他生徒の模範たるべきものは特待生と爲し、一學期若くは數學期間の授業料を免す。撰科生の授業料は一個月金壹圓とし、毎月五日迄に本校收入官吏に納付せしむ。但し八月分は之を徴收せず。

本校は文部大臣の所轄に屬し府下淺草區藏前片町に在りて隅田川に臨み、教場、事務所、化學工場、機械工場、徒弟學校工場等百般の設備具らざるはなし。

現任校長は手島精一にして、高山甚太郎、阪田貞一、伊藤新六郎以下三十二名の教授及助教を以て、二百九十名の生徒を養へり。

附屬職工徒弟學校

本校は主として木工若くは金工を業とする者の子弟に適切必須なる實修及其補助たるべき學科を授けて、將來善く實業を執るべき職工を養成する所とす。

木工を分つて大工及指物の二科とし、當初一年間は大工及指物に通ずる作業を豫習せしめ、後ち徒弟の志望に應じて其一科を専修せしむ。金工は鑄造、鍛冶、仕上の三科とし、當初一年間は一般に通ずる作業を豫習せしめ、後徒弟の志望に應じて其一科を専修せしむ。

實修の補助科として讀書、作文、習字、算術、理科、圖畫、及體操の七科を授く。修業年限は三ヶ年とす。授業時間は毎日修學三時間を度とし、實修は當初

毎日五時として、漸次時数を増して日没に至る。入學の期は毎學年の始め一回とす。入學せんとする者は左の各項に適するものとす。

但し學力優等品行端正にして一ヶ年以上實業に従事したるの實績ある者は該年齢の限にあらす。

年齢 滿十二年以上滿十五年以下
身體 強健なる者
品行 端正なる者
學力 尋常小學第三年級以上の學力ある者
授業料は一ヶ月金廿五錢とし、毎月五日迄に納めしめ、二年三年生は之を免す。

東京商船學校

東京商船學校は航海科及機關科の生徒を教育する所なり。修業年限は各五ヶ年にして、其課目は左の如し。
航海科 和漢學、英學、數學、運用術、航海術、砲術、機關學大意
機關科 和漢學、英學、數學、機關學、製圖
入學の期は毎年七月と定む。航海科生は年齢十四年以上十九年以下、機關科生

は十五年以上二十年以下にして、體格検査及學科試験に合格したる者に限る。體格試験の合格者に非ざれば學科試験を行ふとなし。學科試験の科目は左の如し。

英學 會話、書取、和英復文、歴史及物理講義
和漢學 史類及文集類講義
數學 算數學、代數學、幾何學
作文 記事及尺牘

生徒在學中は決して退學を願ふを許さず。自費生は在學中の經費都て之を自辨し貸費生は之を本校より貸與する者とす。生徒の經費は自費貸費を問はず一ヶ月凡金八圓と定む。貸費生卒業の後貸與金の還納を了る迄は本校の指令に遵ひ船舶に乗組み若くは之に關する業務に従事し、毎月俸給高五分の一以上の金額を以て本人若くは保證人より其貸與金を還納せしむ。

本校は府下京橋區靈岸島に在りて近く隅田川と相望り。現任校長は中村六三郎にして、松山温徳以下教員十八名を以て百七十名の生徒を養へり。

東京郵便電信學校

本校は郵便電信に關する必須の教育を施し將來郵便電信業務に従事すべき者を養成するを以て目的とす。教科を區別して郵便科及電信科の二科に分ち、郵便科に於ては郵便電信に關する特殊の學藝及其處務の方法を教授し、電信科に於ては電氣

に關する技術及電信處務の要領を教授す。修業年限は各二ヶ年にして、學科課目は左の如し。

郵便科 作文、數學、英語、佛語、法律、郵便電信行政、内國郵便、外國郵便、爲替貯金、出納事務、兵式躰操
電信科 作文、數學、英語、圖學、電氣學、電信工學及電話、電氣及通信技術、電氣實驗、内國電信、外國電信、兵式躰操

入學は毎學年の終りに於てす。試験科目は左の如し。但し尋常中學校の卒業證書を有する者は入學試験を受くるを要せず。

英語、和漢文、物理化學、内外國地理、内外國歴史、數學等
試験應募者は年齢十六年以上二十年以下の者たるを要す。入學志願者は受験願書に金一圓の登記印紙を貼用の上差出すべし。本校にては優等の生徒を撰びて特待生とし毎月五圓の學資を給す。但生徒卒業の後は四ヶ年間遞信省に奉職するの義務ありとす。

本校は遞信大臣の所轄にして府下芝區芝公園地内に在り。現任學校長は草間時福にして、田中貞吉、五十嵐秀助、以下廿名の教師を以て凡百四十名の生徒を養へり。

東京美術學校

本校は繪畫、彫刻、建築、美術工藝の諸科を置き、各科専門の技術家及普通圖書の教員たるべき者を養成する所とす。

教科を分つて各本科、及豫備科とす。豫備科は各本科に入るの前に履修せしむる所にして、臨畫、寫生、造型、用器畫法、幾何學、理科、歴史、和漢文、美術及美術史、體操にして一ヶ年の課程とす。

本科は繪畫科、彫刻科、美術工藝科の三科にして、美術工藝科又分つて彫金科、鑄金科、及蒔繪科の三科とす。但建築科は當分之を缺く。各科の修業年限は四ヶ年にして、學科課程左の如し。

- 繪畫科 臨摸、寫生、新案、圖案、用器畫法、美術解剖、考古學、和漢文、教育學、建築裝飾術製作實習等
- 彫刻科 摸刻、寫生、新案、圖案、美術解剖、和漢文、考古學、彫刻手訣、各種材料手法、建築裝飾術、製作實習、卒業製作
- 彫金科 工場實習、圖案法、繪畫、金工史、美術解剖、考古學、和漢文、應用化學、彫金圖案、及製作等
- 鑄金科 工場實習、造型、圖案、繪畫、金工史、美術解剖、考古學、和漢文、應用化學、鑄金圖案、蠟型等
- 蒔繪科 工場實習、調漆法、圖案法、繪畫、漆工史、美術解剖、考古學、和漢文、應用化學、蒔繪

入學の期は毎學年の初即九月とす。入學志願者は本校に於て入學試験を受ける者と府縣の特選に係る者との二種とし、年齢滿十六年以上滿廿五年以下にして、品行善良、身軀強健にして左の試験課目に合格する者とす。但尋常中學校卒業以上の者は製作物の試験のみにして學科試験を受くるを要せず。書と彫刻とは其一を撰ばしむ。

讀 書 和漢文

作 文 漢字交文

數 學 算術及平面幾何

物 理 日本及萬國地理大要

歴 史 日本及支那歴史大要

物理化學 大要

臨書及新書 流派及材料を問はず

彫刻模造及彫刻圖案 全上

入學志願者は試験料金壹圓を納むべし。入學の許可を得たる者は正副保證人連署の在學證書を出すべし。

各科卒業の生徒にして猶其實技を研究せんと欲し願出る者は適當と認むる者に限り研究生たるを許す。研究生の在學期限は二ヶ年以内とし、保證人を要せず授業料を徴收せず。

各科中特に一課目若くは數課目を撰び學修せんと欲し入學を願出づる者は年齢滿

十七年以上にして、當該教員に於て試験をなし、教員會議を以て新撰の課目を學修するに堪ゆると認むる者に限り、各級正科生に缺員あるときは撰科生として入學を許すことあるべし。

授業料は一學年金拾圓とし、該金額は九月十一月二月四月の初旬に於て本校收入官に分納すべし。

教科用圖書、繪畫彫刻技術工藝用の小道具及繪具筆紙等は生徒各自の自辨たるべく、實技上重要な器用品は本校より貸付すべし。

本校は文部大臣の所轄に屬して上野公園地の内に在り。現任校長は岡倉覺三にして、加納夏雄、橋本雅邦、高村光雲、川端玉章、巨勢小石等三十二名の教授及助教ありて二百十四名の生徒を養へり。

東京盲啞學校

本校は盲啞の子弟を教育し自立の道を得しむることを目的とす。學科課目は左の如し。

盲生尋常科 國語、算術、講談、體操
同 技藝科 音樂、鍼治、按摩

啞生尋常科 讀方、習字、作文、算術、筆談、體操
同 技藝科 圖畫、彫刻、指物、裁縫

修業年限は按學を專修する者は三ヶ年、其他は凡そ五ヶ年とす。

生徒入學は毎年四月之を許す。入學を許す者は年齢凡八年以上十八年以下、身體健康にして種痘又は天然痘濟の者に限る。生徒在學中は授業料一ヶ月金五十錢を納めしむ。但貧困にして本文の授業料を納むること能はざる者は詮議の上之を減額し又は全く免除すべし。生徒は願に依り寄宿を許す。寄宿料は一ヶ月金三圓とす。半途にして退學せんとする者は願主及保證人の連署を以て願出べし。

本校は文部大臣の所管にして、府下小石川區指ヶ谷町に在り。現任校長は小西信八にして、石川倉次、遠山邦太郎、五百野孝次、山勢松韻、多久隨等九名の教諭囑托員を以て百九名の生徒を養成せり。

第二章 私立專門各學校

東京專門學校

本校は政治學、法律學及び英文學を教授する所とす。

教科を分て政學部、法學部、及び文學部の三部とし、政治學部には政治科を置き、

文學部には文學科及專修英語科と兼修英語科の三科を置き、而して法學部には又第一法律科、第二法律科の二科を設く。第一法律科は單に呼換へて法律科といひ、

第二法律科は更に名けて行政科といふ。又彼の政治科、法律科及行政科には邦語、英語の兩科を設け、生徒の志望に依り邦語若くは英語を以て教授せり。

修業年限は各々三ヶ年にして、各學科の科目及課程は概左の如し。

政治科 政治學、經濟學、財政學、史學、地理學、哲學、統計學、法學、論文、討論、兼修英語、參考課

法律科 法學通論、民法、商法、刑法、訴訟法、國際法、法理學、擬律擬判、國法學、哲學、論文、商工實務、簿記原理、兼修英語、參考課

行政科 法學通論、民法、商法、刑法、訴訟法、國際法、法理學、擬律擬判、國法學、經濟學、財政學、哲學、論文、簿記原理、英語兼修、參考課

文學科 哲學、史學、英文學、國文學、漢文學、參考課

英語科 英語、國文、漢文、地理、數學、物理、生理等

學年は毎年九月に始り翌年七月に終る。又學年を二學期に分ち、前期は九月十一日より二月末日に至り、後期は三月一日より七月二十日に至るものとす。

本校及以下五校は司法省指定の法律學校にして、指定學校の卒業生は判事檢事登

第二章 私立專門各學校

用試験に出席することを得るものとす。

入校試験は毎年二月、七月、九月に於て行ふ。但し中途入校を乞ふ者は假入校を許し、傍聴生として入校試験の期日を待たしむ。英語各本科第一年級に入學せんと欲する者は専修英語科を卒業したる者、若くは之と同等の學力ある者たるべし。邦語各本科第一年級に入學せんと欲する者は左の入校試験を経たる者たるべし。

國語 漢字交文

漢文 日本政記、正文章軌範の類題讀

入校せんとする者は年齢満十七年以上たるべし。但し専修英語科に限り滿十四年以上ならば入學を許すべし。入校を請ふものは入校試験願書に履歷書を添へて差出し、許可を得たるとき保證人連署の在學證書を出すべし。但し其入校手續は大抵同一のものなれば以上一々は掲載せず。入校の際は束脩として金壹圓を納むべし。各學科一學年間の學費を定むること左の如し。但し専修英語科第一年級第二級は前期を六圓とし後期を五圓とし、第三年級は前期を九圓とし後期を七圓五十錢とす。

前期 金拾圓

後期 金九圓

學期の始めに於て學費を前納し得るときは毎月三日を限り之を分納することを

得しむ。各邦語科の生徒にして兼修英語科を修むるも別に學費を要せず。本校寄宿舎に入る者は毎月左の費用を納むべし。

舎費 金四十錢

月俸 金三圓

各學科に要する英語教課書は些少の手續料を徴收して凡て之を貸與すべし。専修英語科及び兼修英語科は總て手續料を納むるを要せず。

又本校には別に校外生といふものを置いて、講義筆記を頒布せり。講義録は政治科、法律科、及行政科の三科となし、各科毎月三回發兌す。校外生を望む者は束修金五十錢を納め、講義録の費用として毎月四十錢を納むべし。尙此講義録の外本校にては文學に關する「早稻田文學」といへる雜誌を發刊し、以て當代の文運を進むることに盡力せり。

本校は民間幾多の學校中特に校舎の壯麗と土地の閑靜を以て名あるものにて、府下牛込早稻田に在り。學校長は法學博士鳩山和夫にして、高田早苗、天野爲之、坪内雄藏、有賀長雄、大隈英麿等五十餘名の講師を以て常に一千名の生徒を養へり。

明治法律學校

本校は法律及經濟に關する學術を生徒に教授し、併せて外國の法律及經濟學を研

究せしむるを目的とす。

教科は邦語を以て教授し三ヶ年を以て成業せしむ。教授科目は左の如し。

第一年科 刑法、刑事訴訟法、法例 井に民法人事篇、民法財産篇 第一部第二部

第二年科 裁判所構成法、民事訴訟法、民法財産篇 第二部、民法證據篇、商法

第一篇第十一章迄、理財學、擬律擬判

第三年科 民法財産取得篇、民法債權擔保篇、商法第一篇十二章以下及第二篇

第三篇、帝國憲法、行政法、國際法、擬律擬判

年齢十七年以上の者は何時にても入學を許す。其入學試験科目は左の如し。

國語 片假名交作文 漢文 白文訓點 數學 四則、分數、比例

入校を請ふ者は市中在住若くは寄留の者にして身元確かなるものを以て保證人と定め、本校所定の書式に依り保證書及び學業履歷書を出すべし。

入學する者は入校金壹圓を納めしむ。生徒在學中は欠席すると否とに拘はらず毎月通學生は月謝壹圓、入塾生は壹圓四拾錢を納むべし。入塾生膳料は一ヶ月金貳圓八拾錢と定め、届出の上外泊三日以上に及ぶときは日割を以て計算す。通學生は前月中に月謝を完納すべし、未納の者は昇校を停止す。入塾生は前月中に月謝膳料を完納すべし、未納の者は退塾を命ず。生徒三ヶ月以上引續き月謝を納

めざる者あるときは退學と見做し、其姓名を學籍より削除すべし。卒業の見込なき者又は品行不良の者は斷然退校を命ずべし。

本校にては又講法會なる者を設け、本校講義を筆記して毎月三回五の日を以て刊行し、之を會員に配賦すべし。本會は何人に限らず、又何時にても入會を許す。但入會の時は入會金三十錢を納めしむ。講義録は毎年九月第一號を發行し、三ヶ年にして完結す。會費は一ヶ月六十錢にして、毎月廿五日迄に翌月分を前納せしむ。

本校は民間私立學校中屈指の巨校にして、神田駿河臺南甲賀町に在り。學校長は法律學士岸本辰雄にして、教頭法學博士熊野敏三以下、磯邊四郎、小池靖一、井上正一等の講師四十餘名を以て、一千人に近き生徒を養へり。

東京法學院

本院は帝國法律の實地應用を練習せしめ、及一般政治思想の養成を望む者に有益の學理を授くることを目的とし、本邦制定の法律を教授するの外廣く英佛獨の法律を參照し、邦語又は英語を以て法律學を講授するものとす。教科を分て原書法學科、邦語法學科の二つとし、修業年限は各三ヶ年にして其學

科の種類と課程は相同じ。

第一 年 法學通論、民法 人事編、財産編、財産取得編、商法 第一編、刑法 汎論、

裁判所構成法、英國法 契約法、財産法、論理學

第二 年 民法 財産取得編、證據編、證據法原理、商法 會社法、海上法、商事契約及買賣、流

通證書法、信用及保險、刑法 各論、訴訟法 刑事、英國法 私犯法、理

財學、憲法、擬律擬判、訴訟演習

第三 年 民法 債權擔保編、商法 破産法、訴訟法 民事、英國法 衡平法、法理

學 分析法理、沿革法理、國際法 公法、私法、理財學、行政學、擬律擬

判、訴訟演習

學年は九月十一日に始まり翌年七月十日に終る。入學の期は九月二月七月の三期

とす。入學せんとする者は年齢十七年以上にして、左の入學試験科目に合格した

る者たるを要す。但原書科に入らむとする者は更に英語の試験をも要す。

國語 假名交り作文 漢文 講讀

數學 四則分數比例

學費は東脩金壹圓、授業料一學年金十一圓を月割を以て分納せしむ。本院にて

は在外員の爲めに毎月三回講義録を發刊して之を頒布す。在外員は東脩五十錢、

月謝金五十錢とす。

本院は府下神田區錦町に在りて其建築稍觀るべく、現任院長は法學博士菊地武夫

にして山田喜之助、増島六一郎、江木衷、植村俊平等四十餘名の講師ありて六百餘

人の生徒を養へり。

專修學校

本校は邦語を以て法律學、理財學、政治學を教授する所とす。

學科を以て法律、理財及政治の三科とす。修業年限は各三ヶ年づゝにして、

其課目は左の如し。

法律科 法學通論、民法、商法、刑法、刑事訴訟法、民事訴訟法、裁判所構成

法、私犯法、羅馬法、帝國憲法、國際法、行政法、政治學、法理學、

擬律擬判

理財科 經濟汎論、經濟史論、貨幣論、銀行論、租稅論、公債論、簿記學、消

費經濟、經濟考徵、農業經濟、工業經濟、商業經濟、倫理經濟、法學

通學、世態學、政治學、行政學、歴史、民法、商法、帝國憲法、會計

法

政治科 法學通論、政治學、行政學、世態學、憲法原論、經濟原論、應用經濟、經濟考徵、比較政體論、制度沿革論、立法論、史論、租稅論、歷史、帝國憲法、刑法、國際公法、法理、政理、會計法
 毎年九月を以て入校の期とす。
 入校を請ふ者は年齢満十七年以上にして、左の入學試験科目に合格したる者たるべし。

國語 漢字交作文

漢文 讀讀又、白文訓點

地理 内外各國

歴史 内外各國

數學 四則分數比例

入校志願者の便宜に依り入校の際試験を要せず又定期の試験をなさずして員外生となることを得しむ。但年齢十七年未滿の者は之を許さず。

東修は金壹圓にして、月謝金八十錢、二科兼修の者は月謝一圓二十錢、校費金二十錢を納むるを要す。

尙本校に於て毎週發兌の講義録を求むる者は郵送料共一冊に付金十錢の割を以て送金すべし。

法律科及理財科第二級及第三級生徒中前學年の試験に於て最も優等の成績を

得たる者、各級一名を撰抜して優待生とす。優待生には一學年間毎月金貳圓を學費として給與すべし。

本校は神田今川小路二丁目在り。校主は法學士高橋捨六にして、法學博士田尻稻次郎、高橋健三、濱田健次郎、奥田義人、相馬永胤等五十餘名の講師ありて、當時五百名の生徒を養へり。

日本法律學校

本校は日本法律を授くるを以て目的とす。修業年限は三ヶ年にして、學科課目は左の如し

法學通論、憲法、刑法、刑事訴訟法、裁判所構成法、民法、民事訴訟法、商法、國際法、行政法、法例、理財學、財政學、訴訟演習、擬律擬判

本校生徒を區別して正科生及副科生とし、正科生には、全科目を修めしめ、副科生には一科目以上を適宜修めしむ。正科生は年齢十七歳以上にして、副科生は十五歳以上の男子たるを要す。入學は二月九月の兩度にして、試験科目は左の如し。

國語 假名交文、作文

漢文 白文訓點

學費は東脩正科生は金壹圓、副科生は金五拾錢、授業料は毎月正科生は金壹圓、副科生は一科目毎に金三十錢とす。又本校發行の講義録を得んとする者は東脩五十錢月謝四十錢を納むべし。講義録は毎月三回發行し二ヶ年を以て完結せしむ。本校は麴町區飯田町五丁目に在り。學校長は松岡康毅にして、穂積八東、加藤高明、寺尾亨、斯波淳六郎、末岡精一、宮崎道三郎等三十餘名の講師ありて、目下五百名の生徒を有せり。

和佛法律學校

本校は佛語又は邦語を用ひ法律學を教授するを以て目的とす。學科を分て佛語法律科、邦語法律科の二つとす。修業年限は三ヶ年にして、佛語を以て教授するを佛語法律科とし、邦語を以て教授するを邦語法律科と稱すれども、其課目は相同じ。

法學通論、法例、民法、佛國民法、商法、刑法、裁判所構成法、民事訴訟法、刑事訴訟法、憲法、行政法、國際法、法理學、理財學、財政學、擬律擬判等入學せんとする者は年齢滿十七年以上にして、試験課目は左の如し。

入學の際は入學金壹圓を納むべし。授業料は一ヶ月金壹圓とす。本校も亦校外生を置き、毎月三回五の日を以て講義録を發行す。普通校外生は入學金五十錢月謝金四十錢にして、特別校外生は入學金四十錢月謝金三十錢を納むべし。官吏及雇員、銀行諸會社官公立學校教員生徒及雇員は特別校外生たることを得。

本校は麴町富士見町六丁目に在りて、佛語を以て教授する法律學校の牛耳を執れり。學校長は法學博士箕作麟祥にして、教頭巴黎法科大學榮譽教授ボアンナード以下、梅謙二郎、薩埵正邦、寺尾亨、岡田朝太郎等五十餘名の講師ありて常に六百餘名の生徒を教授せり。

獨逸學協會學校

本校は前に掲げたる諸校の如く、近頃までは獨逸語を以て政治法律の學科を教授し、評判なかく盛んなりしも昨年の末に性質を改め、以來尋常中學の學科課程に従て、實業に就かんと欲する者又は高等の學科を修めんとする者に須要なる教育を施すを以て目的とせり。

學科を分て獨逸語、倫理、國語、漢文、地理、歴史、數學、博物、物理、化學、習字、圖書、体操の諸科となし、五ヶ年を以て卒業せしめ、別に一ヶ年の補充科を具へて本科に進むべき準備をなさしむ。

されば其目的といひ性質といひ、本年より純然たる尋常中學の組織となりて、最早舊時の法律學科は其痕跡を止めざれども、尙獨逸語の學校としては府下第一のものなれば、暫く専門科の中に數て、之を此章の間に挾めり。

入學の期は學年の始とす。學年は四月一日に始まりて翌年三月下旬に終る。但し時宜に依り臨時入學を許すことあるべし。

本科五級に入る者は年齢十二年以上にして高等小學第二級を卒業し、若くは之に均しき學力を有して獨逸語學の初歩を修め、本校に於て施行する入學試験に合格し若くは本校に設くるところの補充科卒業の者となす。

本校に入學する者は左の入學金及び授業料を納むるを要す。入學金は入學の際保證狀と共に差出し、授業料は年額の十二分の一を毎月五日迄に納むべし。

入學金 金壹圓

授業料 一箇年金拾八圓

本校は神田西小川町一丁目にあり。學校長は文學博士加藤弘之にして、教頭山脇立を始め三十餘名の教師ありて常に六百の生徒を養へり。尙本校の卒業生は第

一高等中學校及中學校醫學部へ無試験入學をなすを得べし。

慶應義塾

本塾は英語を以て教授する私立學校中の巨擘にして、福澤諭吉が慶應年中に創立したる所なり。

教科を分て普通科、専門科の二つとす。普通科は又分て正科及別科の二種とし、正科を再別して豫科と本科の二つとし、豫科を終つて本科に進ましむ。

正科の修業年限は凡五ヶ年にして、學科課程は左の如し。

| 學級 | 課程 | 豫 | | |
|----|----|--------------------|--------------------|--------------------|
| | | 課外 | 四番 | 三番 |
| 英書 | 譯讀 | 雜書素讀 | 地質學口授 萬國史輪講 | 植物學口授 米國史輪講 |
| 英語 | 英語 | スベルリンゲン ハンマンシツア | スベルリンゲン リクテーション | リクテーション グクテーション |
| 數學 | 數學 | | ロビンソン 算術 | ロビンソン 算術 |
| 漢書 | 漢書 | | 漢書講義 | 漢書講義 |

| 科 本 | | | | 科 | |
|--|--|--|--|--|--|
| 一 等 哲 心 理 學 講 義 | 二 等 萬 國 公 法 講 義 | 三 等 法 律 學 講 義 | 四 等 經 濟 學 講 義 | 一 番 生 理 學 口 授 | 二 番 化 理 學 口 授 |
| ミル氏 代議政體輪講 | ミル氏 自由之理輪講 | マツコウレヘ スチンク サトウ スレー シヨ ン | ギソウ氏 文明史輪講 | チトレル氏 萬國史輪講 | マルカム氏 萬國史輪講 |
| ヒストリ、コン コウ レト ラ ク、 シ エ キ ス ピ ア | ヒストリ、コン コウ レト ラ ク、 シ エ キ ス ピ ア | ヒストリ、コン コウ レト ラ ク、 シ エ キ ス ピ ア | ヒストリ、コン コウ レト ラ ク、 シ エ キ ス ピ ア | ヒストリ、コン コウ レト ラ ク、 シ エ キ ス ピ ア | ヒストリ、コン コウ レト ラ ク、 シ エ キ ス ピ ア |
| 平面三角術 球面三角術 | 平面三角術 | 平面幾何學 立體幾何 | 代數 平面幾何學 | 代數 平面幾何學 | 簿記學 代數 |
| | 和文作文 | 和文作文 | 和文作文 | 和文作文 | 漢書講義 |

別科の修業年限は凡四ヶ年にして、學科課程は左の如し。

學級 課程 英 書 譯 讀 譯

| 科 別 | | | | | |
|---------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 一 級 社 會 學 講 義 | 二 級 道 法 原 理 講 義 | 三 級 經 濟 論 講 義 | 四 級 教 育 論 講 義 | 五 級 地 文 學 講 義 | 六 級 萬 國 史 講 義 |
| スベンサー氏 本科一二三番講義 | ベンサム氏 本科二三四等講義 | ホーエン氏 豫科一 本科三四等講義 | スベンサー氏 豫科一 本科二四等講義 | コルデル 豫科一 二三四番講義 | 豫科二三四番講義 |
| マッコール氏 佛國史輪講 | マッコール氏 佛國史輪講 | マッコール氏 佛國史輪講 | マッコール氏 佛國史輪講 | マッコール氏 佛國史輪講 | マッコール氏 佛國史輪講 |
| ハラム憲法史評 論 | ボリチック 政體 | ボリチック 政體 | ボリチック 政體 | ボリチック 政體 | ボリチック 政體 |
| 右 同 斷 | 右 同 斷 | 右 同 斷 | 右 同 斷 | 右 同 斷 | 講義本を用ふ |

専門科は所謂本塾の「大學部」にして、之を分て文學科、理財科、法律科の三つとなし、其修業年限は各三年となす。

文學科の學科課程は左の如し。

修辭學、修辭演習、論文演習、英米學史及哲學史、歷史、和文學、漢文學、心理學、論理學、倫理學、審美學、教育學、社會學、佛語、獨逸語等
理財科の學科課程は左の如し。

經濟學原理、近世經濟史、經濟學諸派概論、保護及自由貿易史、簿記、保險銀行關稅稅各疑問研究、商業地理、民法、商法、國際法、憲法及行政法、統計學、本邦作文、英作文、佛語、獨逸語等

法律科の學科課程は左の如し。

民法、刑法、商法、民事訴訟法、刑事訴訟法、憲法及行政法、國際法、法理學、經濟學原理、英普通法、英私犯法、英證據法、英衡平法、羅馬法、羅甸語、佛語、獨逸語、訴訟法實地演習等

入學の期は毎學年の始めとす。學年は一月十一日に起り十二月廿五日に終るものとす。但し普通科は何時にても入社せしむ。入社せんとする者は學業履歷書を塾監局に出し、試験の上にて相當の級へ編入せらるべし。

入學する者はすべて入社金三圓を納むべし。大學部入學受験料は金一圓とす。學費、普通科は授業料毎月一圓七十五錢を納め、内塾生は塾費として毎月五十錢、

通學生は金十五錢を納めしむ。大學部授業料は一ヶ年金三拾圓となし、三學期に分て分納せしめ、別に教場費として毎學期金五十錢を納めしむ。

塾を大別して大人寮、及童子寮の二つとす。別に幼稚舎なるものを設けて童兒の極めて幼稚なる者を入舎せしめて保護を加ふ。入塾する者は毎月食料三圓以内を納むべし。又課業書を本塾より借用する者には毎月二十錢以内を納めしむ。

塾舎は芝區三田二丁目の高臺に在りて、福澤諭吉之を監督し、六十餘名の教師ありて無慮一千四百餘名の生徒を養成するといへり。

攻 玉 社

本社は専ら數理上の學科を教授するを主とし、兼て幼童青年の爲めに普通科を授くるを以て目的とす。

教科を大別して普通專修の二科となし、更に小別すること左の如し。

| | | | |
|-------|-----------------|-------|-----------|
| 幼 年 科 | 普 通 科 | 專 門 科 | 數 學 科 |
| 青 年 科 | 海 軍 兵 學 校 豫 備 科 | 土 木 科 | (普通科、高等科) |
| 女 子 科 | | 商 船 科 | (豫科、本科) |
| | | | (當分缺科) |

「幼年科」は尋常小學校卒業以上の者に普通科を授くるを旨とし、修業年限は四ヶ年にして、學科課目は左の如し。

修身、和漢學、作文、英學、算術、地理、歴史、理科、習字、圖書、躰操
「青年科」は年齢十四年以上の者に稍高尙なる普通科を授くるを以て主眼とし、修業年限は五ヶ年にして、學科課目左の如し。

修身、和漢學、英語、地理、歴史、數學、理科、習字、圖書、簿記、躰操
「豫備科」は海軍兵學校軍醫學校東京商船學校に入校志願者の爲めに設くる所にして、分て三學級となす。學科課目は左の如し。

和漢學、英學、數學、躰操等

「女子科」は女子に必要な普通高等の學科を教へ女徳を養ひ身躰を健やかならしむるを以て目的とし、又分つて豫科本科とす。修業年限は各四ヶ年にして、學科課目は左の如し。

修身、和漢文、英語、算術、地理、歴史、博物、物理、裁縫、禮式、家政、習字、圖書、唱歌、躰操

「專修數學科」は數學を教授するを以て目的とす。分て普通科高等科とし、各一年半を以て卒業せしめ、尙其上に特別研究科を置いて随意に好む所を修めしむ。學

科課目は左の如し。

算術、代數、幾何、三角、重學、測量、微分積分、英學等

「專修土木科」は土木事業の技手を養成するを以て目的とす。修業年限は二ヶ年にして、學科課目は左の如し。

數學、土木學、測量、製圖、英語等

學費は何れの學科を問はず、各、授業料一ヶ月金一圓、教場費十五錢にして、寄宿生は食料毎月二圓五十錢乃至三圓五十錢寄宿費二十五錢づゝとす。

本校は府下芝區新錢座町十番地に在り。校主は工學士近藤基樹、校長は藤田潜にして四十餘名の教師を以て六百人の生徒を養へり。

國 學 院

本院は國史國文國法を教授し併せて廣く之が研究及應用に須要なる諸學科を修めしむる所とす。

教科を分て本科、及び研究科の二となす。修業年限は本科三年、研究科二年にして、學科課程は左の如し。

本科 國史、國文、道義、法制、外國史、地理、哲學、漢文、英語、躰操

研究科 國史、國文、道義、法制、哲學、漢文、英文等

入學の期は毎學年の始九月の上旬とす。本科一年級に入るを得べき者は尋常中學卒業の學力を有する者たるべし。本科中學科を撰て入學する者之を撰科とす。學費は本科研究科共授業料各壹圓五拾錢とし、撰科は金壹圓を納むるを要す。本院學生々徒にして學術最優等に品行最方正なる者をば給費生とし、食費を給し授業料を免す。本院學生の學術優等品行方正なる者にして學費を支辨する能はざる者に限り、一學年に付七十五圓以内の學費を貸與す。貸費生は卒業半々年の後貸費を受けたる年數と均しき期限内に於て壹々年六分の利子を附して月賦返納するものとす。又他の一般生徒と雖も教科書を自辨する能はざる者には之を貸附するところあるべし。

本院は府下麴町區飯田町五丁目に在りて、故伯爵山田顯義等の率先創立する所に係り、院長は國重正文にして文學博士小中村正矩、西村茂樹、本居豐穎、高津敏三郎、三上參次、有賀長雄、萩野由之等屈強の講師四十餘名を以て生徒の教養に従事せり。

哲 學 館

本館は哲學諸科を教授する所にして、教科を普通高等の二科とし、普通科三年、専門科二年、都合五々年を以て卒業せしむ。學科程は左の如し。

- 普通科 論理學、倫理學、審美學、史學、心理學、社會學、教育學、純正哲學、古代哲學、近世哲學、宗教哲學、國學、漢學、佛學等
- 専門科 國史、國文、史學、及博言學(國學科)

- 道徳學、文章學、倫理學、審美學(漢學科)
- 俱舍、唯識、天台、華嚴、及各宗派、純正哲學、宗教學(佛學科)
- 哲學、史學、並に文學(洋學科)

學年は毎年九月十六日に始り、翌年七月十五日に終る。入學期日は毎年九月とす。學費は束修金一圓五十錢、月謝金九十錢、館費金十五錢とす。本館々外員の爲めに毎月三回講義録を發刊す。館外員は束修金三十五錢、月謝金二十八錢を納むべし。

本館は本郷區駒込蓬萊町に在り。館主は文學士井上圓了にして、國府寺新作、石川千代松、三宅雄次郎、村上專精等四十餘名の講師ありて二百五十名の生徒を養へり。

國語傳習所

本所は専ら國文國語の普及を圖るを以て目的とし男女の二部に分つて之を教授す。修業年限は六ヶ月にして、學科の課目は左の如し。

文典、かなづかひ、作文、作歌、神皇正統記、土佐日記、徒然草、竹取物語、古今集、國風

生徒の入學は期日を定めず、教授時間は毎日曜日午前八時に於て四時間とす。尙地方遠隔者の爲めに在外生の制を設け、毎月二回講義録を發刊し、一年二ヶ月を以て成業せしむ。學費は束修金五十錢月謝金三十錢にして、在外生は入學金五十錢月謝金二十錢とす。

本所は神田區仲猿樂町十五番地に在りて、教頭落合直文以下二十二名の講師ありて、二百五十名の生徒と千七百名の在外生とを教授せり。

國民英學會

本會は主として實用の英語學と高等の英文學とを教授し、教科を分つて譯讀科、正科、文學科、夜學科の四科とす。修業年限は譯讀科二年半、正科文學科各一年、夜學科二ヶ年間となす。英語を教授するの學校都下に多しと雖も其學科の高

尙にして教授の周密なることは本會を以て重なるものとす。

學年を分て前後の二期とす。前期は十二月一日に始り、後期は五月一日に始る。學費は入會金一圓、月謝正科文學科は毎月各金一圓、譯讀科は級の上下に従ひ六十錢、七十錢の二種に分ち、夜學科は五十五錢乃至七十錢となす。

本會は府下にて英學を専門に教授する學校の隨一にして神田錦町三丁目にあり。會主は磯邊彌一郎にして、井上十吉、高橋五郎、吉岡哲太郎、米人ミルラー、ホスラー等十三名の教師を以て六百七十名の生徒を教授せり。

東京佛語學校

本校は外國語として佛語を編入する尋常中學の課程を修めんとする者、高等中學校陸軍諸學校司法省指定學校に入らむとする者、及び佛語學のみを修めんとする者を養成するを以て目的とす。

教科を分て本科、別科、及び夜學科とし、修業年限は本科五ヶ年、別科及夜學科は凡三ヶ年の課程とす。尋常中學科の課程を修め、入學受験科を修めんとする者は本科に入らしめ、専ら佛語のみを修めんとする者は別科若くは夜學科に入らしむ。

學科課程は左の如し。

本科 倫理、國語漢文、佛語、地理、歴史、數學、博物、物理、化學、圖書、体操等

別科及夜學科 佛語(習字、讀法、譯讀、書取、會話、文法、作文、翻譯等) 學年は九月十一日に始まり翌年七月三十一日に終る。入學せんとする者は年齢滿十四年以上にして、高等小學校卒業の者、又は之と同等以上の學力ありと認むる者たるべし。

學費は東脩金一圓、月謝本科は金一圓二十錢別科及夜學科金壹圓とす。

本校は府下麴町區富士見町に在りて、和佛法律學校に附屬し、箕作麟祥之に長たり。

獨逸語學校

本校は主として獨逸學を教授して傍ら官立諸學校の入學受験科をも授け、又獨逸語を以て醫學各科をも教授せり。

教科は正科、撰科、醫科及夜學科の四科にして修業年限は正科三ヶ年夜學科五ヶ月とす。正科は獨逸語、數學、及和漢學にして傍ら官立學校の入學試験に必須なり。

る博物、理化、地理、歴史、畫學、体操等の諸科を教授し、醫科は内科、外科、眼科、藥物等の諸課を教授し、撰科は正科中の或科目若くは醫科中の或科目を撰修せしむるものとす。

學費をは東脩金壹圓、月謝は各科金壹圓、撰科は一課目のみを修むる者は金五十錢、二課以上を兼ねる者は金壹圓とす。

本校は本郷區元町二丁目に在り。學校長は醫學士山縣正雄にして、獨逸語を以て高等中學に入りそれより大學に進む者既往七八年間の事實に徴するに其通計概ね合格者總數の過半を占めたる程なりと云ふ。

大八洲學校

本校は國史國文制度等を專修せしむ。

修業年限は一年半にして之を前後の二期に分ち、授業時間は午後三時半若くは四時より二時間乃至三時間とす。

學費は東脩五十錢月謝五十錢にして、又本校は校外生の爲めに毎月二回講義録を發行し、月謝二十錢を納めしむ。

學校は神田仲猿樂町十五番地にあり。學校長は久米幹文にして目下十名の教師

を以て百五十名の生徒を教授せり。

順天求合社

本社は數學測量天文等の諸學科を教授し主として理學の普及を助け且つ官私諸學校の數學教師及測量技師たるべき者を養成する處とす。

學科を分て尋常科、高等科及測量專修科とす。修業年限は尋常科二ケ年、高等科一ケ年、測量科半ケ年とし、學科課程は左の如し。

尋常科 算術、代數、幾何、平面三角法、靜重學、測量

高等科 球面三角法、解析幾何、微積分、微分方程式、力學大意、天文學大意、高等數學雜論

測量科 測量、全實地演習、製圖、數學

又本社には別科を設けて東京工業學校へ入學受験科を生徒に教授す。修業年限は二ケ年間とす。入學生徒の年齢は別科を十五歳以上とし、正科を十四歳以上とす。學費は東修金壹圓、授業料は學科によつて異なれども壹圓乃至五十錢とし、入塾生徒には食料塾費共月額二圓七十錢を納めしむ。

本社は神田區仲猿樂町四番地に在りて、松見文平これに長たり。教員は十三名

にして常に六百の生徒を養へり。

明治學院

本學院の目的は學生をして英語を以て完全なる基督教主義の高等普通の教育を受けしめ智徳兼備の學生を養成するにあり。

本院は分つて普通學部、神學部とす。普通學部は又分つて本科及豫科となし、修業年限は豫科二ケ年、本科四ケ年と定む。學科課程は左の如し。

豫科 倫理、英語、地理、數學、漢學

本科 倫理、英語、歴史、科學、哲學、經濟、和漢學、數學等

入學の期は毎學期の始めとし、初學生は毎學年の始めとす。學年は九月中旬に始り、翌年六月下旬に終る。

入學を許すべき者は豫科第一年級に於ては年齢十二年以上にして高等小學科卒業と同等の學力あるもの、本科第一年級に於ては年齢十四年以上にして豫科卒業と同等の學力を有する者に限るべし。

東修は本科金二圓、豫科金壹圓、授業料は本科は毎月一圓二十錢豫科は毎月金壹圓、在舍料は各科共毎月八十錢、食料一ケ月金三圓と定む。

本院は芝區白金今里町にありて、井深梶之助普通學部を總理し、ランヂス、ハリス、マッコイ、シバラ、ワイコッフ、石本、杉森、近藤等十四名の教師ありて百二十三名の生徒を養へり。

東京英和學校

本校は基督敎理を基として普通並に専門の學科を授る所にして、敎科を分て豫備學部、高等普通學部、神學部の三科とす。修業年限は豫備科五ヶ年、普通科四ヶ年、神學科三ヶ年の課程とす。學科課目は左の如し。

豫備科 倫理、國語漢文、英語、數學、地理、歴史、博物、物理、化學、習字、

圖畫、音樂、体操等

普通科 倫理、國語、漢文、英文、獨逸語、論理學、倫理學、經濟學、數學、

教育學、体操等

神學科 舊約聖書釋義、新約聖書釋義、聖書神學、組織神學、比較神學、敎會

神學、無形神學、基督證據論、基督言行錄、聖書歴史、聖書地理、敎

會歴史、敎理歴史、辨證論、説敎學、哲學史、心理學、倫理學等

生徒入學は毎年三回、一月、四月及九月の初旬に於てす。學費、豫科普通科は

東修二圓、月謝一圓二十錢にして、神學科生は學費を要せず。

本校は南豊島郡澁谷村青山南町に在て遠く市街の塵烟を絶てたり。學校長は本

多庸一にして、松島剛、チャヘル、ヴェール、ベルナップ等十五名の内外講師ありて、

生徒百五十名を養へり。

東京物理學校

本校は理學の普及を助けんが爲め、數學、重學、測量、物理學、化學を敎ふる所とす。修業年限は三ヶ年にして、學科課程は左の如し。

算術、代數、幾何、三角、測量、重學、解析幾何、微分積分、物理學、化學、實驗等

本校の學期は前後の二期とす。前期は二月廿一日に始り七月二十日に終り、後期は九月十一日に始り翌年二月二十日に終る。授業時間は毎科一時間半とし、毎夕二科若くは三科を課す。

入學する者は年齢十四年以上たるべし。授業料は第一學期にては金三圓、第二學期にては金四圓、第三第四學期にては金六圓、第五第六學期にては金八圓とし、毎月之を分納せしむ。

本校第二學期以上の學期に於ては物理學、重學、化學の三學科を總稱して理化學科とし、其他の諸學科を總稱して數學科とす。理化學科、數學科の中を撰びて之を專修する者を撰科生とす。撰科生は授業料を減納せしむ。
本校は神田小川町一番地に在り。學校長は理學博士寺尾壽にして、十二人の教員を以て四百三十名の生徒を養へり。

濟生學舍

本舍の旨趣は學業の速成を要するに在るを以て醫學の要領を教授し、期するに三ヶ年を以てし之を六期に分割す。學科課目は左の如し。

- 第一期 物理學、無機化學、植物學、動物學、解剖學
 - 第二期 物理學、有機化學、解剖學、生理學
 - 第三期 生理學、組織學(以上前期學科) 外科通論、病理通論、診斷學
 - 第四期 藥物學、外科器械學並手術式、外科各論、病理各論
 - 第五期 外科各論並臨床講義、病理各論並臨床講義、眼科學並臨床講義
 - 第六期 婦人科、産科、小兒科、衛生學、裁判醫學(以上後期學科)
- 學年を分て冬夏の二期とす。毎年十月より三月までを冬學期とし、四月より九月に至るまでを夏學期とす。學費は束修金貳圓、月謝壹圓三十錢とす。又本舍には「藥學部」を置き速成を以て藥劑師を養成す。修業年限は二ヶ年にして之を四學期に分割す。學科課目は左の如し。

- 第一期 物理學、無機化學、金石學、獨逸學、數學
 - 第二期 物理學、有機化學、動物學、植物學、生藥學、分析學講義、獨逸學
 - 第三期 製藥化學、生藥學、顯微鏡用法、分析化學、及實地演習、調劑學
 - 第四期 製藥化學實地演習、藥物製煉、調劑學實地演習
- 學費は束修金貳圓、月謝金壹圓、講堂費金三十錢とす。本舍は府下本郷區湯島四丁目に在り。舎長は長谷川泰にして山田良淑以下廿五名の講師を以て、目下六百名の生徒を教授せり。

藥學校

本校は藥劑師を養成するを目的として之に必須の學科を授くる所なり。修業年限は二ヶ年にして、課程を四學期に分割し、二學期を以て一學科とす。學科即ち左の如し。

- 第二期 獨乙學、植物學、物理學、無機化學、附實地演習

第二期 獨乙學、植物學、有機化學、製藥化學、定性分析實地演習、調劑學

第三期 獨乙學、生藥學、定性分析實地演習、定量分析講義、調劑學實地演習

第四期 生藥學、藥品鑑定、日本藥局法、衛生化學、定量分析實地演習、實地製

煉、生藥學實地演習 顯微鏡用法

尙此外に専修科を置いて實地製煉、顯微鏡上検査法、衛生試験、藥品鑑定等の諸科を教授す。

學年を分て冬夏の二學期とし、冬期は十月七日に起り、夏期は三月七日に始る。

入學は每學期の始に於てす。年齢は十七年以上たるべし。但し當分の内何時に

て臨時入學を許すべし。學費は束修金貳圓、授業料は一學年十八圓を分割して毎

月之ヲ分納せしむ。

本校は府下下谷區西町に在り。學校長はドクトル藥學士下山順一郎にして二十

八名の教員を以て二百三十名の生徒を養へり。

東京顯微鏡院

本院は顯微鏡の實際應用に關する一般の學說及技藝を講習せんと欲する者の爲めに講習科を設く。

講習は講義及實驗にして其科目は左の如し、

顯微鏡の構造、使用法、附屬裝置、取扱法、標本製造用器械及其使用法、染料

及試藥調製法、試験物採取法、各系統有形成分診斷的検査法、各系統微菌診斷

的検査法等

講習期限は三ヶ月にして二月九月の兩期定員を限りて募集す。學費は束修金二

圓、授業料毎月二圓八十錢とす。

本院は京橋區瀧山町にありて、西郷吉義以下知名の講師を有し、目下五十名の生徒を有して醫學を修むる者の爲めには最も必要の所なり。

東京商業學校

本校は速成の目的を以て内外商業に關する必須の教育を授け、將來商業に従事すべき者を養成する所とす。

教科は豫科、本科、及研究科の三に分ち、修業年限は豫科一ケ年、本科二ケ年、研究科一ケ年とす。學科課程は左の如し。

第一年 和漢學、英語、習字、算術、歴史、物理學、化學、動植物學、圖書、

地理、作文、簿記學

第二年 經濟學大意、貨幣論、商業地理、農工商業誌、商業道德、簿記、算術、
數學、和漢學、英語、作文、法學通論

第三年 運輸交通誌、銀行論、爲替論、金融論、外國貿易論、商業地理、農工
商業誌、法學通論、商法大意、統計學、簿記、英語、作文等

學年は毎年三月一日に始まり、翌年二月下旬に終る。入學者は年齢十四歳以上にして試験の上相當の級に編入す。學費は東修金壹圓、月謝金一圓とす。試験なくして入學し本人所望の學級に出て聽講する者を員外生といふ。員外生の納むべき學費はすべて正科生と同じ。

遠隔の地方に在り又は業務の都合によりて參校する能はざる者を校外生といふ。校外生の爲めに本校講師の講義を筆記印刷して毎月二回發送す。校外生たらんとする者は氏名住所を詳記して東修金五十錢、月謝三十錢を添へて本校へ宛て、申込むべし。

本校は神田區錦町二丁目にあり。學校長は高橋健三にして、濱田健次、土子金四郎、合川正道、中川恒次郎等二十四名の講師を以て凡四百名の生徒を養へり。

工 手 學 校

本校は邦語を以て土木、機械、電工、造家、造船、採鑛、冶金、製造舎密の各科を教授して工手を養成する所とす。修業年限を二年とし、之を四學期に分ち、毎期五ヶ月を以て終らしむ。教科を分て豫科本科とし、第一期第二期は豫科を專修し、第三期より本科に入らしむ。本科の課目は左の如し。

土木學科、機械學科、電工學科、造家學科、造船學科、採鑛學科、冶金學科、製造舎密科

生徒入學の期は毎年二月九月とし、其半ヶ月前に於て入學申込をなすを要す。

學費、豫科は授業料一ヶ月金一圓校費三十五錢にして、本科は授業料一ヶ月金一圓五十錢校費金三十五錢とす。入校金は豫科金一圓、本科金貳圓を納むべし。

本校は府下京橋區南小田原町二丁目に在り。學校長は工學博士中澤岩太にして、監事講師等工學博士工學士理學士の學位を有するもの四十名の上に出で生徒の現員亦四百八十名に餘れりといへば其盛況思知るべし。

水 産 傳 習 所

本所は漁撈製造養殖及び之に關する學科を教授し學術を以て實業上に應用せしむるを目的とす。

修業年限は三ヶ年にして、學科課目は左の如し。

水産通論、漁撈方法、製造方法、養殖方法、動物學、植物學、理學、化學、地文學、氣象學、經濟學、法政、數學、簿記、英學、書學等

入學の期は毎年四月とし、入學者は年齢十六歳以上にして、高等小學校卒業以上の學力を有する者たるべし。

學費は束脩金一圓、月謝金一圓五十錢にして、校舎は府下芝區三田四國町二番地に在り。所長は村田保にして、教頭理學博士佐々木忠二郎以下二十五名の講師ありて三百五十名の生徒を養へり。

第三章 中等教育各學校

日本中學校

本校は文部省令に基て尋常中學校の學科及課程に従ひ、中人以上の實務に就かんと欲するもの、又は高等の學校に入らんと欲する所のものに須要の普通學を授る所とす。

本校修業年限は五ヶ年にして五學級を設く。學科課程左の如し。

| 學科 | 學年 | | 倫理 | 國語及漢文 | 第一外國語 | 地理 | 歷史 | 數學 | 博物 |
|---------|-------------------------------------|-------------------------------------|----|-------------------------------------|------------------|--------------------------|------|----------------|-----------|
| | 第五級 年一第 | 第四級 年二第 | | | | | | | |
| 人倫道德ノ要旨 | 講讀 漢字交リ文 書取 漢字交リ文及 書讀文 | 講讀 漢字交リ文及 書取 漢字交リ文及 書讀文 | 全 | 講讀 漢字交リ文及 書取 漢字交リ文及 書讀文 | 讀方及譯解書取 會話及綴文 | 日本地理ノ概畧 | 日本歷史 | 幾算 何初 步術 | 博物示 數 |
| 全 | 講讀 漢字交リ文及 書取 漢字交リ文及 書讀文 | 講讀 漢字交リ文及 書取 漢字交リ文及 書讀文 | 全 | 講讀 漢字交リ文及 書取 漢字交リ文及 書讀文 | 讀方及譯解書取 會話及綴文 | 亞細亞及歐羅巴 ノ地理 | 萬國歷史 | 幾代 算術復 習 | |
| 全 | 講讀 前級ニ全シ | 講讀 前級ニ全シ | 全 | 講讀 前級ニ全シ 作文 | 讀方及譯解書取 會話及綴文 | 亞米利加澳斯利 亞及亞非利 加ノ地理 | 支那歷史 | 幾代 何數 | 生理及 衛生 |
| 全 | 講讀 前級ニ全シ | 講讀 前級ニ全シ | 全 | 講讀 前級ニ全シ 作文 | 讀方及譯解書取 會話及綴文 | 日本ノ地文及政 治地理 | 日本歷史 | 全 | |
| 全 | 講讀 漢字交リ文 書取 漢字交リ文及 書讀文 | 講讀 漢字交リ文 書取 漢字交リ文及 書讀文 | 全 | 講讀 漢字交リ文 書取 漢字交リ文及 書讀文 | 全 | 萬國歷史 | 萬國歷史 | 三代 角 術數 | 植動 物物 |

| 博 物 口 授 | 數 學 | 歷 史 | 地 理 | 第一外國語 | 漢 文 | 國 語 | 倫 理 |
|--------------------------------|----------------|---------------------|---|-------|------------------|----------|--------|
| 田中氏 算術教科書 幾何學 | 敬業社編纂 日本小歴史 | 中村氏 中等地理(日本) | ナショナル 第四讀本 スウェーデン 希臘史 | 日本政記 | 讀史餘論 | 小論 學語 | |
| 田中氏 算術教科書 幾何學 | 敬業社編纂 萬國小歴史 | 如氏地理教科書 | スウェーデン 第四讀本 アイツケンス 英國史 | 十八史略 | 全上 | 全上 | |
| カッター 生理學(口授) | 市村瀧川兩氏 支那史 | 全 ケイキ 地文學(口授) | ナショナル 第五讀本 マコーレー クライトン スライント 大文典 | 正文章軌範 | 落合、小中村兩氏 日本文典 | 全上 | |
| 飯島氏 動物學教科書 三好氏 植物學教科書 | 巖城氏 日本史綱 | 口授 | サンダーズ 第四讀本 マコーレー ヘスチング 傳 | 史記列傳 | 全上 | ゲヤチ 一 | |
| 天野氏 萬國歴史 | 大代數學 三角術初歩 | 口授 | アーピング アス ケックス チ | 全上 | 徒然 日記 | 全上 | |

上の學科に配當して用ふる所の教科書は大略左の如し。

| 學科 級別 | 體 操 | 圖 畫 | 習 字 | 化 學 | 物 理 |
|----------|---|--------------|----------------|------------------------------|--------|
| 第五級 | 普通體操 準備法矯正 徒手啞鈴 術徒手啞鈴 | 自在畫法 | 楷行草三體及細 字速寫 | | |
| 第四級 | 普通體操 徒手啞鈴 根棒球竿 | 自在畫法 用器畫法 | 全上 | 化學示教 | 物理示教 |
| 第三級 | 全上 | 全上 | | | |
| 第二級 | 兵式體操 步兵操典生兵 第一部第一章 第二章第一教 第二教第三教 徒手柔軟體操 | 全上 | | 無機化學 | |
| 第一級 | 兵式體操 步兵操典生兵 第一部第二章 第四教第五教 第六教第七教 第八教第九教 第十教第十一教 第十二教第十三教 第十四教第十五教 第十六教第十七教 第十八教第十九教 第二十教第二十一教 第二十二教第二十三教 第二十四教第二十五教 第二十六教第二十七教 第二十八教第二十九教 第三十教第三十一教 第三十二教第三十三教 第三十四教第三十五教 第三十六教第三十七教 第三十八教第三十九教 第四十教第四十一教 第四十二教第四十三教 第四十四教第四十五教 第四十六教第四十七教 第四十八教第四十九教 第五十教第五十一教 第五十二教第五十三教 第五十四教第五十五教 第五十六教第五十七教 第五十八教第五十九教 第六十教第六十一教 第六十二教第六十三教 第六十四教第六十五教 第六十六教第六十七教 第六十八教第六十九教 第七十教第七十一教 第七十二教第七十三教 第七十四教第七十五教 第七十六教第七十七教 第七十八教第七十九教 第八十教第八十一教 第八十二教第八十三教 第八十四教第八十五教 第八十六教第八十七教 第八十八教第八十九教 第九十教第九十一教 第九十二教第九十三教 第九十四教第九十五教 第九十六教第九十七教 第九十八教第九十九教 第一百教 | 全上 | | 力學物質論熱學 音響學光學 磁器學 學 | |

| | | | |
|--------------|------------|--|--------------------|
| 物理 | 化學 | 習字 | 圖書 |
| スチワード 物理學 | レムゼン 化學 | 村田氏 楷樂志 行陳樂 草出陳 師情志 表表論 | 柳氏 中學習畫帖 |
| 口授 | 口授 | 全上 | 柳氏中學習畫帖 平瀨氏用器畫法 |
| 全上 | 全上 | 全上 | 全上 |

尙本校に於ては生徒をして漢文、英語、數學の學力を強固ならしめんむ爲め、別に補習科の一課を置き、本科生をして左表の通り三學科を練習せしむ。

| | | | |
|-----|-----|------|-------------------------------------|
| 學科 | 級別 | 漢文 | 英語 |
| 第五級 | 第五級 | 孟 | 第五級讀本 ニュー、ナショナル スミソントン 萬國史 |
| 第四級 | 第四級 | 孟子 | 萬國史 スミソントン マコーレー クライガ傳 |
| 第三級 | 第三級 | 孟子 | 萬國史 マコーレー ヒールド エッキフ |
| 第二級 | 第二級 | 史記列傳 | 英國七大家文 マコーレー ヒールト |
| 第一級 | 第一級 | 史記列傳 | |

| | | | |
|----|-------------------|----|----|
| 數學 | 算術 | 幾何 | 代數 |
| 算術 | 佐久間文太郎著 初等近世算術 | 幾何 | 幾何 |
| 算術 | 佐久間文太郎著 初等近世算術 | 幾何 | 幾何 |
| 算術 | 寺尾壽著 中等算術教科書 | 幾何 | 幾何 |
| 算術 | 上野清著 算術三千題 | 幾何 | 幾何 |
| 算術 | 問題集 | 幾何 | 幾何 |
| 算術 | 問題集 | 幾何 | 幾何 |

又本科に進むべき學力を養成せしめん爲めには別に一年級の豫備科を置いて便宜就學するを得せしむ。學科用書は左の如し。

| | | | | |
|----|----|-----------------------------|---|-------------------------|
| 學科 | 組別 | 漢文 | 英語 | 數學 |
| 甲組 | 甲組 | 日本 武田氏上杉氏毛利氏 田氏豊臣氏徳川氏 | 第一三讀本 サンダース、ユニオン クワツンボス 第二三讀本 スミソントン 第一三讀本 | 算術 佐久間文太郎著 初等近世算術 |
| 乙組 | 乙組 | 全 楠氏新田氏足利氏北條氏 | 第二三讀本 ロンドン 第一三讀本 チャンバー 第二三讀本 電信局出版 | 算術 寺尾壽著 中等算術教科書 |
| 丙組 | 丙組 | 全 平氏源氏北條氏 | 第一二讀本 ワイルソン 第一二讀本 全第一讀本 電信局出版 | 算術 上野清著 算術三千題 |
| 上 | 上 | 上 | 上 | 上 |

學年は四月一日に始り、翌年三月下旬に終る。
 本校に入學せんとする者は年齢満十二年以上にして高等小學第二年級以上に相當する學力を有する者たるべし。

入學志願者は本校規定の書式に倣ひ學業履歷書を副へて出願すべし。入學試業は當分の間毎月十一日及二十六日を以て執行す。入學の許可を得たる者は在學證書を出すべし。保證人は東京市内に於て一家計を立る丁年以上の男子たるべし。學費は入校金本科金壹圓、授業料は月額壹圓二十錢乃至一圓五十錢とす。授業料は前月中會計掛に就て授業切符と引換ふべし。授業切符を所持せざる者は其間停學せしむべし。

本校は元東京英語學校と稱せられ東京法學院と共に神田錦町二丁目に在りしが、一昨年四月類焼の後麹町區山元町半藏門外に新築し、日本中學校と改稱して當時六百名の生徒を養成す。學校長は杉浦重剛にして二十名の教師を有し齋藤祥三郎教頭たり。

共立學校

本校は尋常中學の學科課程に従ひ實業に就かんと欲し又は高等の諸學校に入らん

と欲する者の爲めに須要の教育を施す所とす。
 教科を別て本科、豫科の二つとす。修業年限は豫科六ヶ月、本科五ヶ年にして學科課程は左の如し。但し豫科は本科に入るまでの階梯にして、其課程も日本英學校の部に掲る所と大同小異なれば省略に従ふ。

| 學科 | 學年 | 倫理 | 國語及漢文 | 英語 | 數學 | 地理 |
|------|------|---------------|---|---|-------------------------|----------|
| 第一學年 | 小學外篇 | 日本外史 | 日本政記 | 萬國史 第三四讀本 イソツプ物語 | 大屋木下兩氏 普通算術 | 日本地理新書 |
| 第二學年 | 論語 | 日本政記 | 十六夜日記 文章軌範 | ロンクマンズ 第四讀本 スピンソン 第四讀本 スタンレー 亞弗利加探險記 | 大屋木下兩氏 普通算術 幾何學新書 | 萬國地理新書 |
| 第三學年 | 論語 | 十六夜日記 文章軌範 | 史徒然 記草 | チャールスラム氏 セークスピア ユニオン 第四讀本 ガックンズ 英國史 マッコレー クライア | 全 代數學 幾何學 | 同文 學上 |
| 第四學年 | 論語 | 史徒然 記草 | 英國七大家文集 同 米國七大家文集 フエリス クレーイト讀本 アレン サー、ローザヤ、 アカバル | ロンクマンズ 第五讀本 アービン スケッチブック ジョーンソン ラセラス スマイルス 自論 | 大代數學 幾何學 | |
| 第五學年 | 中庸 | 春秋左氏傳 | 英國七大家文集 同 米國七大家文集 フエリス クレーイト讀本 アレン サー、ローザヤ、 アカバル | 同 クローシー氏 三角法 | 同 クローシー氏 三角法 | |

| | | | | | | | |
|---|---|--------|------|-------|---|------|------|
| 歴 | 史 | 高等小學歴史 | 本邦歴史 | スィントン | 史 | 支那通史 | 萬國史 |
| 博 | 物 | | | | | | |
| 物 | 理 | | | | | | 現象定律 |
| 圖 | 畫 | | 自在 | 全 | 上 | 自在 | 全 |
| 躰 | 操 | 普通躰操 | 全 | 上 | 全 | 兵式躰操 | 全 |

學年は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る。入學は毎學年の始めに於てし、小學高等科第二年度の卒業證書を有する者は試験を要せずして本科第一年度に入ることを得、小學高等科の卒業證書を有する者は豫科に入學することを得しむ。學業履歴書、在學證書、保證人等に關する規定は皆日本中學校に載せたる所と同様なれば、特例を除くの外は以下一々は掲載せず。

學費は束修金壹圓、授業料一ヶ月金壹圓二十錢を納むるを要し、尙此外に入學の際受験料として金貳拾錢納むるを要す。

本校は神田淡路町二丁目に在りて、當時八百の生徒を養へり。校主は横田廣太郎にして、辰巳小次郎、棚橋一郎、三輪桓一郎、吉田彦六郎、池田菊苗等有力の教

二十五名ありて八百名の生徒を養へり。

錦城學校

本校は文部省所定の尋常中學校學科程度に従ひ中人以上の實務に就かんとする者若くは高等の學校に入らんとする者に普通教育を授くる所とす。

本科修業年限は五ヶ年にして、學科課程は左の如し。

| 學科 | 學年 | 倫理 | 國語及漢文 | 第一外國語 |
|-----|----|---------|---|------------------|
| 第五級 | 第一 | 人倫道德ノ要旨 | 講讀 漢字交り文 書取 漢字交り文及 書讀文 漢字交り文及 作文 漢字交り文及 書讀文 | 讀方及譯解書取 作文及習字 |
| 第四級 | 第二 | 全 | 講讀 漢字交り文及 書取 漢文 前級ニ全シ 作文 前級ニ全シ 書讀文 前級ニ全シ | 讀方及譯解書取 會話及作文 |
| 第三級 | 第三 | 全 | 講讀 前級ニ全シ 前級ニ全シ 作文 前級ニ全シ | 講讀會話作文及 文法 |
| 第二級 | 第四 | 全 | 講讀 前級ニ全シ 前級ニ全シ 作文 漢字交り文 | 講讀會話 作文、文法 |
| 第一級 | 第五 | 全 | 講讀 漢文 前級ニ全シ 作文 前級ニ全シ | 講讀會話 作文、文法 |

| | | | | | |
|-------|------------------------|----------------------|-----------------|---|---|
| 地理 | 日本地理ノ概略 | 亞細亞及歐羅巴ノ地理 | 亞米利加澳斯利加ノ地理及亞非利 | 日本地文及政治 | 萬國歷史 |
| 歷史 | 日本歷史 | 萬國歷史 | 支那歷史 | 日本歷史 | 萬國歷史 |
| 數學 | 算術初歩術 | 算術ノ復習 | 幾代何數 | 幾代何數 | 三代角法數 |
| 博物 | 博物示教 | 物理及化學示教 | 生理及衛生 | 植物 | |
| 物理及化學 | | | | 無機化學 | 力學物質論熱學音響學光學磁學 |
| 習字 | 楷行草三體及細字連寫 | 全上 | 全上 | | |
| 圖書 | 自在畫法 | 自在畫法 | 全上 | | |
| 體操 | 普通體操 準備法矯正術 徒手啞鈴 | 普通體操 徒手啞鈴棍棒 球竿 | 普通體操 全上 | 兵式體操 步兵操典第一 部各章及演習 一至三章 射擊演習 其他柔體操 及基本體操ノ復習 | 兵式體操 步兵操典第二 章小隊教練 集隊次小隊編 制ヨリ第三章 中隊總隊運動 ニ至ル 其他柔體操 及基本體操ノ復習 |

學年は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る。入學は學年の始に於てすと雖も、各級定員に滿る迄は臨時入學を許すことは一般私立學校の常なり。入學志願者は品行身體學力檢定の上之を許す。但し英語の不充分なる者は假りに豫料に編入すべし。豫料は一ヶ年の課程にして科目は日本中學校と大差なければこゝには省きぬ。

學費は入學料金壹圓、授業料一ヶ月金壹圓貳拾錢、豫料同七十錢とす。授業料は前月に於て授業券と交換すべし。授業券を所持せざる者は其間停學せしむ。本校は神田錦町三丁目にあり。一昨年ノ類焼後建築功成りて全く舊觀に復したり。學校長は矢野文雄にして、永井尙行、坂元盛徳以下七名の教師ありて四百六十名の生徒を教授せり。

成城學校

本校は陸軍武學生徒入學の豫備學科を教授する所とす。教科を分て幼年科及び青年科とし、青年科を又分つて尋常科及高等科とす。幼年科は修業年限三ヶ年にして、學科課程は左の如し。但幼年科を卒業せし者は直に青年尋常科第三級に編入すべし。

| 學科 | 學年 | | 倫理 | 國漢文 | 外國語 | 地理 | 歷史 | 數學 |
|-----|-----|-----|-------|-------|-----|------|------|----|
| | 第一級 | 第二級 | | | | | | |
| 倫理 | 第一級 | 第二級 | ノ人倫道德 | 漢文及漢文 | 英語 | 總論 | | 算術 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 日本地理 | 日本歷史 | 算術 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 萬國地理 | 支那歷史 | 代數 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 萬國地理 | 全 | 代數 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 全 | 全 | 代數 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 全 | 全 | 代數 |
| 國漢文 | 第一級 | 第二級 | ノ人倫道德 | 漢文及漢文 | 英語 | 總論 | | 算術 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 日本地理 | 日本歷史 | 算術 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 萬國地理 | 支那歷史 | 代數 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 萬國地理 | 全 | 代數 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 全 | 全 | 代數 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 全 | 全 | 代數 |
| 外國語 | 第一級 | 第二級 | ノ人倫道德 | 漢文及漢文 | 英語 | 總論 | | 算術 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 日本地理 | 日本歷史 | 算術 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 萬國地理 | 支那歷史 | 代數 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 萬國地理 | 全 | 代數 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 全 | 全 | 代數 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 全 | 全 | 代數 |
| 地理 | 第一級 | 第二級 | ノ人倫道德 | 漢文及漢文 | 英語 | 總論 | | 算術 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 日本地理 | 日本歷史 | 算術 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 萬國地理 | 支那歷史 | 代數 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 萬國地理 | 全 | 代數 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 全 | 全 | 代數 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 全 | 全 | 代數 |
| 歷史 | 第一級 | 第二級 | ノ人倫道德 | 漢文及漢文 | 英語 | 總論 | | 算術 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 日本地理 | 日本歷史 | 算術 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 萬國地理 | 支那歷史 | 代數 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 萬國地理 | 全 | 代數 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 全 | 全 | 代數 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 全 | 全 | 代數 |
| 數學 | 第一級 | 第二級 | ノ人倫道德 | 漢文及漢文 | 英語 | 總論 | | 算術 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 日本地理 | 日本歷史 | 算術 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 萬國地理 | 支那歷史 | 代數 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 萬國地理 | 全 | 代數 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 全 | 全 | 代數 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 全 | 全 | 代數 |

| 學科 | 學年 | | 習字 | 圖畫 | 操練 | 理學 |
|----|-----|-----|-------|----|------|--------|
| | 第一級 | 第二級 | | | | |
| 理學 | 第一級 | 第二級 | 結運字筆法 | 畫學 | 各個教練 | 博物學ノ初歩 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 畫學 | 全 | 物理學 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 物理學 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 物理學 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 物理學 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 物理學 |
| 習字 | 第一級 | 第二級 | 結運字筆法 | 畫學 | 各個教練 | 博物學ノ初歩 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 畫學 | 全 | 物理學 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 物理學 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 物理學 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 物理學 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 物理學 |
| 圖畫 | 第一級 | 第二級 | 結運字筆法 | 畫學 | 各個教練 | 博物學ノ初歩 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 畫學 | 全 | 物理學 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 物理學 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 物理學 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 物理學 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 物理學 |
| 操練 | 第一級 | 第二級 | 結運字筆法 | 畫學 | 各個教練 | 博物學ノ初歩 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 畫學 | 全 | 物理學 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 物理學 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 物理學 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 物理學 |
| | 第一級 | 第二級 | 全 | 全 | 全 | 物理學 |

青年科は修業年限四ヶ年にして、其尋常科を三ヶ年とし、高等科を一ヶ年の課程とす。左に掲ぐるは尋常科の學科課程にして、高等科は地理の部に於て地文學の大要を加へ、博物の部に金石學地質學の大要を加へ、數學の部に於て標高幾何學解拆幾何學公算學重學の初歩を加へ、別に法令科を設けて日本制度の概略を授くる迄なれば省零に従ふ。

| 學科 | 學年 | |
|-----|-----|-----|
| | 第一級 | 第二級 |
| 第一級 | 第二級 | 第一級 |
| 第二級 | 第一級 | 第二級 |
| 第三級 | 第一級 | 第二級 |
| 第四級 | 第一級 | 第二級 |
| 第五級 | 第一級 | 第二級 |
| 第六級 | 第一級 | 第二級 |

| 倫理 | 國漢文 | 外國語 | 地理 | 歷史 | 數學 | 理學 |
|-------|------------------------|---------------|-------|------|--------------------------|---------------------------------------|
| ノ人倫道德 | 漢字交リ 文及漢文 | 英 佛 獨乙語 | 總論 | | 算術 代數 幾何 初歩 | 博物學ノ 初歩 |
| 全上 | 全上 | 全上 | 日本地理論 | 日本歷史 | 算術 代數 幾何 學術 | 動物學 植物學 物理學 |
| 全上 | 漢字交リ 日文及漢文 ノ大本要法 | 全上 | 日本地理 | 日本歷史 | 全上 | 動物學 植物學 物理學 化學 |
| 全上 | 全上 | 全上 | 萬國地理 | 支那歷史 | 代數 幾何 三角 學 | 動物學 植物學 生理學 物理學 化學 |
| 全上 | 漢字交リ 文及漢文 | 全上 | 全上 | 全上 | 高等代數 幾何 三角 學 | 動物學 植物學 生理學 物理學 化學 實驗學 |
| 全上 | 全上 | 全上 | 全上 | 全上 | 高等代數 平三角 復三角 習學 | 全上 |

| 習字 | 圖書 | 操練 |
|------|-----|---------------------------|
| 結字筆法 | 圖學 | 各個教練 器械操 柔軟操 器械操 |
| | 畫圖學 | 小隊教練 器械操 柔軟操 器械操 |
| | 全上 | 中隊教練 器械操 柔軟操 器械操 |
| | 全上 | 全上 |
| | 全上 | 教授演習 |
| | 全上 | 全上 |

本校の生徒たることを得る者は陸軍出身志願にして品行端正身強健入學試験に及第し、其年齢は幼年科生徒は滿十二年以上十八年以下、青年科生徒は滿十五年以上二十三年以下となす。

生徒入學は九月二月の二回にして、入學試験は七月及一月に於てす。体格強壯にして尋常中學卒業證書を有する者は學力試験を要せずして直ちに青年尋常科第一級に入るを得しめ、五年生は第二級に、四年生は第三級に、以下進んで尋常中學一年生は本校の青年尋常科第一級に編入す。幼年學科入學の試験科目は左の如し。
漢文、作文、算術、代數、幾何初歩、地理、本邦歷史、支那歷史、博物、物理、圖書

生徒入學の時は左の物品を調製すべし。

制服、制帽、靴、教科用器具(圖引具、インキ入類)、教科用書籍及手簿、學費は入學受驗料金五十錢、入校料金壹圓五十錢、授業料は一ヶ月金壹圓參十錢、教場費金十錢とす。

本校は府下牛込區市ヶ谷原町三丁目にあり。學校長は川上操六にして、教頭岡本則録以下三十八名の教員を以て、目下八百の生徒を養成せり。其教員中大抵は士官學校幼年學校の教官の中より兼ねるが多く、毎年士官候補生の應募者にして合格する者も此校が其過半を占むといふ。

尙武學校

本校は陸軍士官候補生以下幼年學校の志願者を養成する所にして、専ら尙武の氣象を發揮し他日帝國軍人たるの資格を得しむるを目的とす。

學科を分つて高等、中等、普通の三科とし、通じて六ヶ年の修業とす。學費は東修金一圓、月謝金一圓二十錢、校費十錢にして入塾生には三圓の寄宿料を納めしむ。

本校は麴町區下二番町にありて、中島謙吉の創立に係り、神保長致、蒲生皇章以

下十七名の講師ありて二百餘名の生徒を養へり。

城北尋常中學校

本校は文部省令に準據して尋常中學の課程を教授する所とす。修業年限は五ヶ年にして、教科は日本中學校に掲ぐる所と相同じ。本校一年級に入らむとする者は年齢十二歳以上にして相當の學力を有する者たるべし。

學費は東修金五十錢、月謝金壹圓五十錢とす。

本校は府下麴町區飯田町五丁目に在りて、學校長は今泉定介、教頭木村牧をはじめ十八名の教師ありて四百三十名の生徒を養へり。

正則尋常中學校

本校は他日高等學校に入らんと欲し又は實業に就かんと欲する者に必要の教育を授るを以て目的とす。教科を分て豫科、本科とし、修業年限は豫科二ヶ年にして本科を五ヶ年の課程とす。其課目は左の如し。

倫理、國語及漢文、第一外國語、地理、歴史、數學、博物、物理、化學、習字、圖書、唱歌、躰操

入學の期は四月上旬即ち第一學期の始めにして、尋常小學卒業生は豫科一年級へ、高等小學を終りたる者は本科一年級へ編入すべし。學費は東修金壹圓、授業料は毎月五日迄に壹圓五十錢を納めしむ。
本校は芝區芝公園第二十四號地にあり。學校長は神田乃武にして、文學博士外山正一、同元真勇次郎等之を補佐し、十有五名の教師を以て二百五十名の生徒を教授せり。

大成學館

本館は英語漢文數學等の學科を修めしめ、他日諸官立學校へ入學する者の爲めに必要の科目を學授する所とす。
學科を分て英學科、數學科、漢學科、理化學科、別科等の諸科となす。修業年限は英學科三ヶ年にして、漢文科及數學科、第一高等中學校醫學部入學受験料等は専ら速成を旨として、一ヶ年を以て成業せしめ、又理化學科は四ヶ月を以て卒業せしむ。

學費は東修金五十錢、月謝は一學科金五十錢、外に教場費五錢を納めしむ。
校舎は神田區中猿樂町十五番地に在り。館主は杉浦鋼太郎にして、内藤耻叟、

柴田泰之助、外山修三等十七名の教員を以て四百五十名の生徒を教授せり。

郁文館

本館は文部省令に基き尋常中學の學科程度を教授する所にして、中人以上の實務に就かんとする者及諸官立學校に入らんと欲する者を養成す。

教科を分て、正科別科の二とし、修業年限は正科五ヶ年、別科一ヶ年にして、學科課目は左の如し。

倫理、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、地理、歴史、數學、博物、理化學、習字、圖書、唱歌、体操

本館課目中英語科のみを專修する者を專修生といふ。學費は東修金壹圓、月謝金壹圓、館費金十錢とし、專修生は月謝館費金六十錢を納めしむ。

本館は本郷區駒込蓬萊町に在り。館主は文學士棚橋一郎にして、長澤市藏、磯江潤等二十二名の教師ありて四十五名の生徒を教授せり。

敬勝館

本館は各官立學校の募集に應ずべき者の爲めに必須缺くべからざる學科を教授

す。
 教科を分て中學科、工業科、醫學科、兵學科、商業科、商船科、電信科等となし、二ヶ年以内一ヶ年の間に於て各學校の受験學科を卒らしむ。
 學費は東脩金一圓、月謝一圓にして教場費金十錢を納めしむ。
 學校は神田區今川小路一丁目にあり。校長は原田敬二郎にして、十六名の教師を以て三百七十名の生徒を養へり。

第四章 公私高等女學校 東京府高等女學校

本校は優良にして有用なる婦女を教育し兼て小學校教員志望の者には其必須の學科を教授するを以て目的とす。
 修業年限は三ヶ年にして學科課程は左の如し。

| 倫理 | 學科 | | |
|---------|----|------|------|
| | 學期 | 第一年級 | 第二年級 |
| 人倫道德ノ要旨 | 同上 | 同上 | 同上 |

| 國語 | 漢文 | 教育 | 家事 | 手藝 | 數學 | 地理 | 歴史 | 理科 | 習字 |
|----------|----|-----|------------------------|-------------|--------------------------------------|------|------|------|------|
| 講讀 作文 | 講讀 | 教育學 | 衣食住金錢ノ出納ニ關スル事項及ヒ帳簿記載方等 | 裁縫 編物等 | 筆算 四則分數小數等 珠算 四則雜題 | 日本地理 | 日本歴史 | 植物動物 | 楷書假字 |
| 同上 | 同上 | 同上 | 室内裝飾法制烹料理等 | 裁縫 編物繡物等 | 筆算 比例利息算 幾何 定義公理平面形ノ重要ナル性質 | 外國地理 | 同上 | 物理化學 | 行書假字 |
| 同上 | 同上 | 同上 | 衛生及育兒法等 | 同上 | 筆算 開平開立求積法 幾何 開平開立體形ノ重要ナル性質 | 地文概略 | 外國歴史 | 金石生理 | 草書假字 |

| | | | |
|----|----------|----------|----|
| 圖畫 | 自畫法 | 同上 | 同上 |
| 音樂 | 唱歌及樂器用法 | 同上 | 同上 |
| 體操 | 普通體操 | 同上 | 同上 |
| 英語 | 讀方譯解書取習字 | 讀方譯解書取習字 | 同上 |

學年は四月一日に始り翌年三月三十一日に終る。

入學せんとするものは品行端正、身軀健康、年齢十三年以上にして高等小學校卒業の女子、若くは左の學力試験に合格したる者たるべし。

讀書 今泉定介編 女子國文、
汨田安政編 漢文軌範、 作文 書牘文、簡易の記事文

算術 四則、分數、比例、利息算 英語 讀方、譯解、書取

學費は東條金壹圓、月謝壹圓五十錢を納むるを要す。

本校は京橋區南小田原町四丁目に在り。現任校長は李家裕二にして、教頭永江正直以下十三名の教員を以て二百三十名の生員を養ふ。

東京女學館

本館は女子教育獎勵會の設立維持せるものにして、本邦女子の淑徳を養成し、且必要なる學術技藝を教授せんが爲めに立てたるものなり。

教科を分つて高等女學科、高等專門科等の外更に尋常小學校を設く。學科課程は左の如し。

高等學科 修身、國語及漢文、英語、地理、歴史、數學、理科、習字、圖書、家事、手藝、唱歌及音樂、躰操等

高等專門科 國文學、英文學、畫學

修業年限は高等女學科は六ヶ年にして、高等專門科は二ヶ年乃至三年とす。

學費は高等女學科は月謝壹圓五十錢、高等專門科は月謝二圓五十錢にして、尋常小學校は五十錢乃至七十五錢を納めしむ。

本館は麴町區虎の門内にありて、辻新次學館長たり。教員は内外教師の精を抜きて目下七十名の生徒を養へり。歐風教育の校學中品位の立優りたる高等の女學校を數ふるときは、府下廣しと雖も今日にてはこれに勝れるはあらざるべきか。

共立女子職業學校

本校は女子に適應せる技藝職業並に必要の學科を授くる所とす。

教科を分つて甲乙の二科とし、共に裁縫、編物、刺繡、造花、圖書等の諸術を授け、又術科の外に必ず修身、讀書、習字、算術、家事、理科等の學科を課す。

修業年限は甲科三ヶ年、乙科二ヶ年とし、四月より翌年三月に至る一ヶ年を以て一學級とす。甲乙兩科の術科及學科課程は左の如し。

術科課程

裁縫 小裁、中裁、本裁衣服、シャツ、ツボン下等附洋服裁縫

編物 衣服附屬品及裝飾品、婦人帽子飾等

刺繡 綴繡、平繡、けし繡、すが繡、すから繡、肉入繡等

造花 花簪及裝飾品等

圖書 水墨畫、模様畫、陶器畫等

學科課程

修身 女子の心得方

讀書 讀方作文(普通文、消息文)

習字 平假名、行書、草書

算術 筆算(加減乗除、分數、小數、諸等、比例)、珠算(加減乗除、利息算)家

計、簿記

家事 衣食住に關する家事の管理法附割烹

理科 生活上緊要なる理化學の要項

但し乙科は甲科に比して稍低き程度の學科を課す。

生徒募集は毎年四月とす。但し缺員あるときは臨時入學せしむべし。

甲科を修めむとするものは年齢十二年以上たるべく、乙科は年齢十五年以上にし

て共に零、讀み書きを爲し得る者たるを要すべし。入學者は東修として甲科は金

壹圓、乙科は金五十錢を納むべし。月謝は甲科金壹圓三十錢、乙科は金八十錢と

し、割烹の實習を望む者は月謝十五錢實費毎回十錢内外を納めしむ。本校は亦最完

全なる寄宿舎を有し、寄宿費月額四圓を要す。

本校にては生徒練習の爲め世上の注文品を製作せしめ、其純益金の半額を該生徒

の名義を以て遞信省郵便爲替貯金局に預け置き、卒業若くは要用あるときは本人の

申出に依つて下げ渡すべし。

校舎は神田區一ツ橋通町に在りて通學の生徒最も多く、其成績著大にして府下に

て評判よき女學校の一なり。學校長は手島精一にして二十三名の教師を以て目下

四百名の生徒を養へり。

女子成立學校

本校は本邦女子の淑徳を養成し女子に必要な學藝を教授するを目的とす。教科を分て本科、高等科、普通科とす。修業年限は本科三ヶ年、高等科及普通科を各二ヶ年と定む。學科課程は左の如し。

本科 修身、和漢學、英語、習字、數學、理科、地理、歴史、生理、衛生、家政、經濟、裁縫、編物、刺繡、音樂、圖畫、插花、茶湯、料理

高等科 修身、和漢學、英語、數學、家政、經濟、心理、教育、裁縫、圖畫、音樂、插花、茶湯、料理

普通科 修身、和漢學、數學、習字、裁縫、編物、結紐、料理

生徒の入學は毎年四月とす。但し臨時入學せんと欲する者は都合により之を許すことあるべし。學費は東修金壹圓、本科は金壹圓五十錢、月謝、本科高等科は金壹圓五十錢、普通科は金壹圓とし、教場費は各科金二十錢を納むるを要す。

本校は神田區三崎町二丁目にあり。校主は文學士中原貞七、學校長は棚橋絢子にして二十四名の教師を以て八九十名の生徒を養成せり。

明治女學校

本校は汎く女徳を發育するを旨とし、文理藝術の中凡そ女子の教育に必要な者は悉く之を授け、卒業する者をして淑女良妻賢母たらしめんことを目的とす。

教科を大別して幼年科、普通科、高等科、專修科とし、更に普通科を分つて豫科本科とし、專修科を分つて英學、國文、繪畫、音樂、女禮、裁縫、速記、師範の八課目とす。修業年限は豫科三ヶ年、本科三ヶ年、高等科二ヶ年、師範科四ヶ年にして、學費は東修金貳圓、月謝幼年科は三十錢、豫科は一圓四十錢、本科は壹圓六十錢、撰科は金壹圓八十錢、高等科は金二圓と定む。

校舍は麴町區下六番町に在り。教頭巖本善治以下、八木兼辰、松田龍方、萩野銀子、鈴木弘恭、大和田建樹等二十餘名の教員ありて百餘名の生徒を教養せり。

附言

尙本篇編輯中高等學校令の發布ありて、本年九月以後各地の高等中學は其性質を改めて一の専門學校となり、法律、工科、醫科、文科、理科、農業科、商業科等土地に相應なる専門科を授くるやうになりたれども、學科課程其外の校規は一も知る由なければ、暫く高等中學の學課を本篇に編入して以て遊學者の参考に供しぬ。

下篇 入學試驗問題

第一 高等中學校

○算術科

第一 乗合馬車あり。一人の乗車料は一里に付下等は金五錢、上等は金十錢なり。又乗客の携帶荷物は、一人に付下等は二貫目まで、上等は六貫目まで無賃なれども、其餘は一貫目に付每一里の運賃二錢なりと云ふ。携帶荷物の重量により、下等よりも上等に乗車すること却て得なることありや。若し斯の如きことあらば如何なる重量の場合なるか。

第二 次の分數を簡約せよ。

$$\frac{423}{1551}, \frac{30043}{128973}$$

第三 甲短艇、乙短艇を追ひ來り、舳艫の始めて相接してより兩艇の全く相離るるまでに三十秒を費せり。甲艇の速度もし一分時毎に拾二間を加へば、此時間を十秒だけ短縮すべしと云ふ。甲乙兩艇の長さ相等しとすれば、其の長さ各幾何なるか。

第四 次の式の値を少數點以下三まで正しく計算せよ。

入學試験問題

8.621
0.3 × 0.0056

第五 恒星は二十三時五十六分四秒時間にて我地球を一周し、太陽は一日即ち二十四時間にて之を一周すといふ。太陽が恒星よりも一周だけ後るるには何日何時何分何秒を要するか。

第六 毎年の終りに利子を勘定すべき複利法にて四年間貸付け置きて、元金の半を増殖せんには年利何程にすべきか。

第七 振子の振数は其長さの平方根に逆比例す。二秒に一回振動する振子の長さを九十九センチメートル奇零三一とすれば、一秒の十二分の五に一回振動する振子の長さ幾何なるか。

(注意) 各受験者の番號は答各葉の下の左隅に 237 の如く太く明瞭に記すべし。○問題の番號は各其答案の始めに 〇 の如く太く明瞭に記すべし。○各問題の答案の間には二行以上の餘白を存するか又は黒線を畫くかして限界を明瞭にすべし。○同一の問題の答案を二處以上に分ち書すべからず。

○代 數 科

第一 $s = \frac{1}{2}(a+b+c)$ なる s を $(s^2 - a^2) - (s-b)^2 - (s-c)^2 = 3abc$ なることを證明せよ。

第二 $(a-b)(a-c)(x+a) + (b-c)(b-a)(x-b) + (c-a)(c-b)(x-c)$ を最簡形に化せよ。

第三 〇 若し無限に減少するときは $ax^2 + bx + c = 0$ の根は如何なり行くか。

第四 次の方程式を解け。

$$ax + by^2 = ay + bx^2 = c.$$

第五 $\sqrt{\frac{2(3\sqrt{5}-1)}{2\sqrt{5}+3}}$ を最簡形に化せよ。

第六 拾貳圓の金額を以て上米を買ふより下米を買ふ方貳斗五升多く得可く、又壹圓に付上下米の價の差は拾六錢なりと云ふ。然らば上米壹斗の價幾何なりや。此價を求める方程式の結果を委しく説明せよ。

(注意) 各受験者の番號は答案各葉の下の左隅に 237 の如く太く明瞭に記すべし。○問題の番號は各其答案の始めに 〇 の如く太く明瞭に記すべし。○各問題の答案の間には二行以上の餘白を存するか又は黒線を畫くかして限界を明瞭にすべし。○同一の問題の答案を二處以上に分ち書すべからず。

○幾 何 學

第一 (a) 比、比例、相似形の定義を記せ。

(b) 四邊形の種類を擧げよ。

第二 三角形 ABC の外接圓の周上の任意の點 P より三つの邊或は其の延長へ引ける垂線の足 D, E, F, は一直線上に在ることを證明し、且つ其の逆を記せ。

第三 正五角形 ABCDE の二つの對角線 AC, BD の交點を F とすれば、
AC:AF=AF:FC なることを證せよ。

第四 相等しき高さの矩形の比は其底邊の比に等しきことを證明せよ。

第五 一つの定點 O より、一つの定圓周上の任意の點 A へ引きたる直線 OA を、
P に於て與へられたる比に内分すれば、P の軌跡如何。

(注意) 各受験者の番號は答案各葉の下の左隅に 237 の如く太く明瞭に記すべし。○問題の番號は各其
答案の始めに 2 の如く太く明瞭に記すべし。○各問題の答案の間には二行以上の餘白を存する。又は黒線
を畫く。して限界を明瞭にすべし。○同一の問題の答案を二處以上に分ち書すべからず。

○英 語 科

和 文 歐 譯

- 第一 或る田舎¹の裁判所²に於て、一婦人が³證人として呼出⁴されました。
- 第二 裁判官⁵は婦人に向て其年齢⁶を問たるに、婦人は三十歳なりと答へました。
- 第三 裁判官は婦人の顔を見ながら、其方は去年呼出したときにも三十歳だと答へたではないかと尋ねました。⁸
- 第四 婦人は微笑⁹して申す様、左様如何にも私は其時そう答へましたで御座りませぬ。

しよう。

第五 私は決して今日の言語と明日の言語とを違ふ様な賤い物では御座りませぬ。¹⁰¹¹¹²

VOCABULARY.

- 1. country. 2. court. 3. witness. 4. to summon.
- 5. judge. 6. to inquire. 7. to look at. 8. to ask.
- 9. to smile. 10. different. 11. contemptible. 12. creature.

VOCABULARIUM.

- 1. ländlich. 2. das Gericht. 3. der Zeuge, 4. berufen.
- 5. der Richter. 6. fragen. 7. sehen. 8. fragen (nach...)
- 9. schmunzeln. 10. anders. 11. verächtlich. 12. die Kreatur.

DICTATION.

Aside from the information I have given here, nothing precise is known of their private life. For instance nobody ever knew what become of their dead, as no one has ever seen a graveyard. All, I am able to say, is that the body of the deceased is placed on a black mule, destined exclusively for that use, and thus carried to a

mountain *there*. I am not aware *whatever* whether it is cremated or buried; but, as I was told that they also take a bundle of firewoods, it is safe to believe cremation taken place.

ENGLISH GRAMMAR.

1. Write down the principal Pronouns, classifying them as
(a). Personal Pronouns. (b). Possessive Pronouns. (c). Relative Pronouns.
 2. What is an Abstract Noun?
 3. Classify Adverbs, and give two examples of each class.
 4. Explain the meanings of the following words:—
Subject; Predicate; Adjunct.
 5. Write down the Moods of an English Verb. [No examples.]
- (Translate the following into Sinico-Japanese (Kanamajiri); take up the questions in any order you choose, but be careful to put the same numbers as below. No dictionary allowed. Time 2 hours.)
1. All these things were nothing more than ridiculous.

英 文 彙 編

2. He replied, with a shade of offence in his tone.
3. Nothing was farther from his thoughts than to close it altogether.
4. Two farmers came of their own accord, and with perfect good nature.
5. He sat with his legs crossed and his hands folded.
6. His education in his youth was worst than neglected.
7. There is no such place as you dream of in all the world.
8. Neither bribes nor promise could gain him from the interests of his country.
9. I believe on excellent grounds that her reason is a very good one.
10. How does that come to pass?

口 語 彙 編

(Dictionary allowed for 30 minutes, In preparation, meaning and reading should receive equal attention.)

Arriving at night in a strange country, one always wonders what the daytime will disclose. It dawned on a scene of singular charm and beauty. Far and near, over the placid surface "Mississippi Bay," as the inlet is called upon which Yokohama stands, rode at anchor a whole fleet of merchant ships of large tonnage,

steam and sailing, seven or eight powerful men-of-war of various nationalities interspersed among them, Her Majesty's vessels *Severn* and *Wanderer* being of the number amidst, and around, and beyond these, scores of native fishing craft, while square sails of many hues, traversed the bay.

(Dictionary allowed for 30 minutes. In preparation, meaning and reading should receive equal attention.)

Fuji-San is hidden this morning in driving clouds, which deluge the roofs of Tokyo with rain; and the garden party in the Palace grounds, fixed for this afternoon cannot I fear, come off. Our tickets of admission to the imperial presence, splendidly emblazoned with the royal chrysanthemum, and printed in golden Japanese characters, have just been delivered; but the wind is raging like a commencing typhoon, and the Japanese abroad are, for the most part, wrapped in straw coats, and pent-house hats, which give them the appearance of small hayricks moving about.

和文 歌 譯

東宮殿下は目下學習院に於て御勤學中にして、御同級のもの十四名あり。之を

御學友と稱して常に殿下に冊き奉らしむ。高崎正風の第三子益彦も亦御學友の榮を辱ふするの一人なり。或時益彦感冒の爲め數日間日課を怠りしことありしに其父正風偶々宮内省に於て殿下に拜謁し奉れり。殿下は益彦は近頃は何故に斯くは欠課することの多きやと問はせ玉ふ。正風畏み慎みて答へ奉るに其實を以てせしかば、殿下は更に御言葉を更め玉ひ、去れば篤と醫療を加へよとの御言葉を賜はりてけり。

○漢文 講 譯

雒陽人有相仇者邑中賢豪居間者以十數終不聽客乃見郭解解夜見仇家仇家曲聽解解乃謂仇家曰吾聞雒陽諸公在此間多不聽者今子幸而聽解解奈何乃從他縣奪人邑中賢大夫權乎乃夜去不使人知曰且無用待我待我去令雒陽豪居其間乃聽之

(注意) 句讀、轉聲、反點、講義を問ふ

○讀 書 科

第一 中世より威權藤原氏に歸し、政務全く其手に出でたりしが、やがて此の權平氏に移り、源二位に至りて惣追補使の任をもて四海を掌にめぐらされしも、天位にのぞみをかくるに及ばずして、神統連綿とましますは悉く、君臣の分正しき國風に非ずや。

第二、然るを吾が所生の國の美を云はず、其學ぶ所に牽かれて、かしことを崇め、我をいやしめ、自ら日本夷人と書きし腐儒あり。國の畫のみにあらず。孔夫子春秋の筆意にも背くものか。

○國文科

第一 左の詞の活用を示せ。

教、飢、報、似、失、

第二 左の文字に假字を施せ。

藍、雀、氷、魚、鹽、

第三 左の文章の誤を正せ。

善美なる憲法既に建たんと雖も運用せし人の如何にあれり。

第四 左の文章を解釋せよ。

あはれ紅葉を焼ん人もがな。しるしあらん僧たち祈り試みられよ。

世に随へば心外の塵に奪はれて惑ひ易く、人に交れば詞よそのきくに随ひてさながら心にあらず。

○作文科

國の元氣を振はす論

○書學科

西洋建築の柱臺

○地理科

第一 本邦海岸は太平洋に面する方と、日本海に面する方と、孰れか出入多くして港灣に富めるか。且つ其多き方面に就て重なる五港を擧げよ。

第二 山陰山陽二道の位置及其地勢如何。

第三 北海道國々の名稱、及同道の海産重なるもの五個を問ふ。

第四 左の地名に假名を附し且其國名を示すべし。

嚴原、三角、撫養、高梁、伊丹、狹山、米原、武生、新發田、真岡、結城、畷内、

第五 南京及西安(長安)は何れの省に在るか。

第六 亞弗利加沿岸の島嶼十個を列記せよ。

第七 亞細亞、亞弗利加、歐羅巴、及南北亞米利加の各洲に於ける最大高嶺を擧げよ。

第八 左の都邑の位置を問ふ。

浦潮斯德 仁川 マンハツク(Bangkok)(Bangkok) オデッサ(Odessa)

ナポリアス(Naples)(Neapel) トゥロン(Toulon) ズリッヒ(Zurich)
(Zürich) クリスタニア(Christiania) ニューオーリンズ(New Orleans)
(New Orleans)(Nouvelle-Orleans) アスンシオン(Asuncion)

第九 地勢に關して降雨の量に多少あるとの諸條件を列記せよ。

高等商業學校

○漢文科

夫民方其窮困時所望不過十金之資計其衣食之費妻子之奉出入於十金之中寬然而有餘及其一旦稍稍蓄聚衣食既足則心意之欲日以漸廣所入益衆而所欲益以不給不知罪其用之不節而以為求之未至也是以富而愈貪求愈多而財愈不供此其爲惑未可以知其所終也蓋亦反其始而思之夫嚮者豈能寒而不衣饑而不食乎

○作文科

第一 某工場を觀るの記

第二 殖民地探檢者を招待して演説を請ふ文

○本邦及支那歴史

第一 藤原氏隆盛時代の概略を述ぶべし。

第二 棉種を我邦へ船載したるは何れの時なりや。

第三 足利氏より織田豊臣二氏の治世に至り、美術工藝の着しく進歩せしは何故なりや。

第四 唐藩鎮の起原。

第五 清康熙帝の文學を獎勵せし概略を述ぶべし。

○外國歴史

第一 羅馬共和時代末路の概況を問ふ。

第二 封建制度を顛覆せし諸原因を列舉せよ。

第三 「エリサベス」時代に於る英國商工業の一斑を記せ。

第四 米國南北戦争の原因如何。

第五 希臘國は如何にして土耳其政府の羈絆を脱せしか。

○本邦地理

第一 本邦大河は山脈と如何なる關係を有する者多きや。

第二 本洲中人口最多及最少の地方を記すべし。

第三 本邦西岸に於ける主なる港、及艦船の航海に不便なる季節を記し、其理由

を述べし。

第四 金華山、輪島、多治見、生野及口の津等は何所にあるや。

○外國地理及地文

第一 支那の白河は冬期其河口までも結氷し、船舶の往來を妨阻せらる。然れども之より高緯度にある御物及能代川の如きは其河口まで結氷するとなし。其理由如何。

第二 Philippine Islands, Panama, New Caledonia, Guiana, 等は何所にありて、何國に屬するや。

第三 四季を生ずる原因。春分、秋分、冬至、夏至、及晝夜長短の變遷を説明すべし。

第四 地球上熱帶と稱する區域、及其地方の主なる産物を記すべし。

○博物學

第一 動物及植物は滋養質注入及消食作用に如何なる差異を有するや。

第二 蜘蛛及蠶は如何なる種類の動物にして、其細線紡出部に如何なる差異あるや。

第三 朝顔は如何なる種類の種子より長發し、生長の上如何なる形の葉及花を生

ずるや。

第四 硬度表には如何なる礦物を用ふるや。順次之を記すべし。

○物理學

第一 清國上海及び函館に於て同一荷物の重さ(Weight)を測定せば、如何なる差異を得るや。

第二 貿易銀の目方(Mass)は七匁二分四厘五毛なり。之を細絲に結著し、攝氏四度の水中に沈めて其重さを秤量せしに六匁五分二厘七毛を得たり。然らば貿易銀の密度(Density)は幾何なるや。

第三 固體の熔解(Fusion)に關する法則を擧げよ。

第四 軟鐵及び鋼鐵に及ぼす電流作用の差異幾何。

第五 物體の白色なるは如何なる理由なるや。

第六 汽船に於て汽笛を鳴らしたるに、三秒時の後に其反響(Echo)を聞けり。然らば汽船は何丁の沖合に在るや。但し音の速度は三萬三千七百「センチメートル」とす。

○化學科

第一 水の記號をH₂Oと記す。此記號は如何なる意味を示し、又如何なる實驗上

の證ありて、此記號を水に與へたるや。

第二 鹽素の製法を問ふ。

第三 器械の裝置、使用藥品の名并製法中に起る變化を記すべし。

第四 次の場合には如何なる變化を起すや。

(S) 亞鉛に硫酸を加へたるとき。 (ろ) 鹽酸「ボタミニム」を熱するとき。

(は) 炭酸「カルシニム」に鹽化水素酸を加へるとき。 (に) 硝石に硫酸を加へる

とき。 (ほ) 鹽化「マンモニニム」に水酸化「カルシニム」(石灰乳)を加へ温める

とき。

○英文和譯

(Dictionary not allowed. Time 2 hours. Translate the following into Japanese.)

1. The secret of happiness is to look things in the face, to resolve to do your best and endure the worst, to realize that "all is not lost when much is lost."

2. There are certain wounds which, being inflicted on the human body, cause no pain but are nevertheless mortal.

3. He is not a curious man, and made it a rule to inquire about people whose circumstances might require relief.

4. I can not repeat too often that no man struggle perpetually and vigorously against his own character; and one of the first principles of success in life is regulate our physical constitution and natural inclinations to good account, than to endeavor to counteract the one or oppose the other.

○和文英譯

第一 日本は亞細亞の東部に位し、四面繞らすに海を以てす。

第二 北米「メキシコ」邊は旱魃のため飲水にも缺乏を生じ、人民難澁を極め居る由なり。

第三 能筆は至つて美なり、手紙の拙き程耻しはなし。

第四 去月四日は米國獨立祭に當るを以て、本邦在留の米國商人は一般に商賣を休み、祝意を表せり。

第五 昨今俄の炎熱、日中は殆ど燻くが如き有様なれば、氷の需要も隨て増加し、一日平均二十萬斤の消費高に達する勢なり。

○筆算 科(第一回)

第一 左の三數の最大公約數を求む。

6302, 540328, 657737.

第二 $\frac{4\frac{1}{2} \times 4\frac{1}{2} \times 4\frac{1}{2} - 1}{4\frac{1}{2} \times 4\frac{1}{2} - 1} \times (5\frac{1}{2} + 7\frac{1}{2})$ の結果如何。

第三 次式を最簡にせよ。

$$\frac{1 - \frac{1}{15} + \frac{4}{31} + \frac{1}{10} - \frac{8}{63}}{(\frac{1}{2} + \frac{1}{15}) \times (\frac{1}{4} - \frac{1}{9})}$$

第四 次の結果を小數にて求む。

$$\frac{9875697 \times 2137.875}{1.125} \times \frac{.06 \times 1850 \times 175}{365}$$

第五 $\sqrt[3]{208513}$ の結果を求む。

○筆算科(第二回)

第一 金壹圓に付米一斗六升換、麥一斗八升換にして、米四十俵と麥四十二俵と價相等し。但し各一俵の量、米は麥より三升少しと云ふ。問ふ、各一俵の容量幾何なるか。

第二 會社の準備金が資本の四分の一に達する迄、毎年の利益の二十分の一を積立つるものとせば、利益の割合と積立年間とは如何なる一定の割合に増減すべきや。

第三 酒商一升三十二錢の甲酒と、一升三十四錢五厘の乙酒とを、七と五との比に混じ、且水若干を加へ、一升三十五錢づゝに賣りて、二割の利を得べきもの七石

九斗二升を得たりと云ふ。問ふ、甲乙の酒及水各幾何を用ひしや。

第四 或人年一割二分の配當金を得べき銀行株券若干を所有し、年々二千六百〇四圓を得べし。今之を三百三十五圓の相場にて賣拂ひ、其金を以て五銖利整理公債を百〇八圓五十錢の相場にて買ふときは、年々の所得幾何を増加すべきや。

第五 英貨ポンドは我七圓八十三錢四分三にして、佛貨フランクは我三十一錢三分二なるとき、英貨幣を買ふも恰も幾ポンドかを得へく、又佛貨幣を買ふも恰も幾フランクかを得べき我國の貨幣の最小額を求む。且つ此場合に於て買得べき英佛貨幣各幾何。

(注意)各問題共に式若くは演算を記し、且其理由を記せよ。又問題の答案をニヶ所以上に認むべからず。

○幾何學

第一 N角形の内角の和を求むる法如何。

第二 或弧の上に立つ所の中心に於ける角は同じ弧の上に立つ所の周に於ける角の二倍に等しきを證せよ。

第三 相平行せる二直線の一が或平面に垂直なるときは他の一も亦同じ平面に垂直なるとを證せよ。

○代數及三角術

第一 一次式を最簡にせよ。

$$\frac{a-b}{b^2-a^2} \div \frac{a-a}{b^2-b^2} \times \frac{1+\frac{1}{a}}{b+\frac{1}{a}} \div \frac{1-\frac{1}{a}}{b-\frac{1}{a}} \times \frac{1}{b+\frac{1}{a}}$$

第二 次の方程式を解け。

$$\sqrt{1+x} + \sqrt{1-x} = 3$$

$$\sqrt{1+x} - \sqrt{1-x} = 3$$

第三 酒若干を入れたる樽の中より九升汲出して之を水にて補ひ、又其混合物九升を汲出して再び之を水にて補ひたるに、其樽の中の酒と水との比は十六と九の如くなれりと云ふ。最初樽の中に幾何の酒ありしか。

第四 A角の正弦と餘弦とを知りて3A角の正切を求む。

○自在入書

人の顔入書

○投影書法

左に示めしたるは球體の平面圖なり。EFは其剖面にして、平面に正交し、立面と四十五度の角をなす。而してE及びFの位置は、AD及びCBの三分一に在り。

又GKHLは立面に正交、平面に平行したる剖面にして、平面圖に在ては球と中心を同うす。此の平面圖に依り立面圖を作れ。

○球の直徑ABは二寸五分。剖面KMは一寸五分。

(注意) 虚線……に代ふるに細線——を以てすべし。○曲線を連接すべき諸點は極めて切要の部分を取

げ一々○印を記し置くべし。○答案は鉛筆を用うべし。○RSは根線なり。

東京商船學校

○漢文科

第一 劉淵與于左國城淵故南匈奴之後匈奴由漢魏以來臣中國其先世自以漢甥冒漢姓父豹爲左部帥生淵幼而雋異博習經史嘗曰吾耻隨陸無武遇高帝而不能建封侯之業終灌無文遇文帝而不能與庠序之故豈不惜哉於是兼學武事姿貌魁偉初爲侍子在洛豹死武帝以淵代爲五部帥既而爲北部都尉五部傑多歸之及惠帝世以爲五部大都督成都王穎表爲左賢王嘗使將兵在鄴淵子聰亦驍勇絕人博涉經史善屬文彎弓三百斤淵從祖宣曰漢亡以來我單于徒有虛號無復尺土自餘王侯降同編戶今吾衆雖衰猶二萬奈何歛手受役奄過百年司馬氏骨肉相殘四海鼎沸左賢王英武超世復呼韓邪之業此其時也乃相與謀推之淵

說穎請歸帥五部來助既至左國城宣等推爲大單于二旬間衆五萬都離石胡晉歸之者愈衆乃建國號曰漢稱漢王淵有族子曜生而眉白目有赤光幼聰慧有膽量亦好讀書屬文射能洞錢七寸至是爲淵將

第二 永和九年歲在癸丑暮春之初會于會稽山陰之蘭亭脩禊事也羣賢畢至少長咸集此地有崇山峻嶺茂林脩竹又有清流激湍映帶左右引以爲流觴曲水列坐其次雖無絲竹管絃之盛一觴一詠亦足以暢叙幽情是日也天朗氣清惠風和暢仰觀宇宙之大俯察品類之盛所以遊目騁懷足以極視聽之娛信可樂也夫人之相與俯仰一世或取諸懷抱悟言一室之內或因寄所託放浪形骸之外雖趣舍萬殊靜躁不同當其欣於所遇暫得於己快然自足不知老之將至及其所之既倦情隨事遷感慨係之矣向之所欣俛仰之間已爲陳迹猶不能不以之興懷况脩短隨化終期於盡古人云死生亦大矣豈不痛哉每覽昔人興感之由若合一契未嘗不臨文嗟悼不能喻之於懷固知一死生爲虛誕齊彭殤爲妄作後之視今亦由今之視昔悲夫故列叙時人錄其所述前世殊事異所以興懷其致一也後之覽者亦將有感於斯文

○作文科

第一 友人の外國より歸るを賀す

第二 自ら重んずる説

○算數科

第一
$$18\frac{1}{2} + 29\frac{3}{4} + 17\frac{1}{2} + 18\frac{1}{8} + 12\frac{1}{2} + 9\frac{7}{10} + 8\frac{3}{4} + 7\frac{1}{4} + 16\frac{1}{4}$$

$$\frac{6\frac{3}{10} + 5\frac{1}{4} + 14\frac{7}{8} + 8\frac{1}{4} + 5\frac{1}{4} + 7\frac{1}{4} + 9\frac{1}{10} + 10\frac{7}{8} + 12\frac{1}{4} + 7\frac{1}{4}}$$

第二 馬車に御して走るに、一時四十二分三十六秒の間に四里三十五町十六間四尺八寸を經過せり。尙此の如く走るときは、以後二時三十三分五十四秒の間には幾何の距離を行くべきや。

第三 男女子及童兒の職工あり、男子二人にて十一時三十分間にて成る一事業を、女子は五人、童兒は十二人にて之れを成し得べしと云ふ。今其事業を男子一人、女子二人、童兒三人にて共に働く時は、幾時間にて成し得べきや。

第四 九百人の兵士を卒て一塞を成るに、毎日一人に二斤の糧食を給すとして四十日の貯へあり。然るに十日の後敗兵三百人加はりたるを以て、毎日一人に給する所の糧食を一斤半に減少し、以て糧食の輸入を待んとす。然るときは尙幾日を支ふべきか。

第五 甲乙丙の農夫三十町七反五畝歩の曠野を開墾するに、甲と乙とは十四分の五と一との如く、乙と丙とは十一分の七と一との如く、之れを拓きしと云ふ。因て各開墾せし町歩幾何なるや。

第六 面積十一個四十八分の十一なる數あり、之れを平方形とすれば其一方の

數幾何なるや。但し小數九位迄算出すべし。
第七 一桝は四寸九分方にして深さ二寸七分なり。今之れと相似形の五合桝を作らんとするには其方及深さ各幾何なるや。但し以下五位迄算出すべし。

○代數 學

第一 $\frac{x-y}{1+xy} + \frac{1}{x(x-y)} + \frac{1}{1+xy} - \frac{1}{1+\frac{1}{x}}$ 之れを最簡にすべし。

第二 $\frac{4x+18}{4x+5} = \frac{3x+6}{4x-3} + \frac{1}{4}$ の價如何。

第三 $\frac{1}{2}x + \frac{1}{3}y = 12 - \frac{1}{4}z$
 $\frac{1}{2}y + \frac{1}{3}z = 8 + \frac{1}{2}x$
 $\frac{1}{3}x + \frac{1}{4}z = 10$ } x, y, z 其の價各如何。

第四 $6x - \frac{25ab}{6x} = 5(a-b) - \frac{(a+b)^2}{x}$ この價如何。

第五 二位の數あり、其各位の和は其差の六倍にして、本數は各位の和の六倍より多きと三なりと云ふ。本數如何。

第六 甲乙の兩人四十八里の道程を旅行するに、甲より乙は毎時に二里少く歩行して二時間多く旅行すと云ふ。然るときは甲毎時の里數如何。

○幾何 學

第一 甲乙の二線及一角あり、其甲線を兩邊の和とし、乙線を底邊とし、一角を頂角として三角形を畫くと如何。

第二 一線あり、之れを一邊として正八角形を畫くと如何。

第三 平行線の間に一圓あり。此圓に觸れ且つ平行の兩線に觸るゝ處の圓を畫くと如何。

第四 三角形兩邊の平方の和は、頂角より底邊の中分點に至る線の平方の二倍と、底邊の半の平方の二倍との和に等し。其證如何。

第五 四角形の一邊中に一點あり。此點より本形を平分すると如何。

第六 三角形あり、之れと等積にして、其大なる邊を一邊として、菱形を畫くと如何。

○英語 科
和文 英譯

本島は千島列島の極北に位し、地勢は殆んど直角四邊形をなし、南北に長く東西

に短し。其大さ北東より南西に至る、約十五里。北西より南東に至ル、約十里なり。平丘、坦陵、連接し、沼澤原野ありて、水草青々たり。明治九年頃には、島内に二村ありて、戸數九軒、人口三十五を有せり。其人種は千島固有のものにして、皆穴居なり。一般の風習甚だ善良にして、相助け、相補ひ、各戸貧富苦樂を共にして、鬮村恰も一家の如くなりしと云ふ。

英文和譯

1. Contentment is more to be valued than great riches.
2. He that is soon angry death foolishly and a man of wicked devices is hated.
3. The evil bow before the good; and the wicked at the gate of the righteous.
4. The poor is despised even by his own neighbour; but the rich have many friends.
5. Hope deferred makes the heart sick; but when it comes, it is a tree of life.
6. He that walks with wise men shall be wise; but a companion of fools shall be destroyed.
7. He that spares the rod hates his son; but he that loves him chastises him

betimes.

8. A talebearer reveals secrets; but he that is of a faithful spirit conceals them.
9. He that keeps the law is a wise son; but he that is a companion of riotous men shames his father.
10. As cold water is to a thirsty man, so is good news from a far country.

CONVERSATION.

1. { Where is your native place?
How long is it since you left there?
Did you leave your home direct for Tokio? }
2. { How many schools have you attended in Tokio?
Have you received instruction from European or Japanese? }
3. { What made you decide on a seafaring life?
Are any of your relations in the same profession? }
4. { Which do you like best, your native place or Tokio?
Why?
How did you pass your days, when you were living there?
How did you travel from your native place to Tokio? }

DICTATION.
MOSQUITOES IN INDIA.

In the sleeping apartments of India, great care is taken to secure coolness. The beds which are always large and hard, are generally placed as nearly as may be in the very middle of the apartment, in the line of the fresh through draught which open door and windows can command. Round each bed is suspended a gauzy curtain, without which sleep would be as effectually murdered as ever it was by any tragedy king. For, if even one villainous mosquito continues to gain admission into your fortress, you may, for that night, bid good-bye, not only to sleep but to temper, and almost to health. I defy the most resolute, the most serene, or the most robust person that ever lived between the tropics to pass a whole night in bed, within the curtain of which a single mosquito has entered, and not be found, when the morning comes, in a high fever.

東京工業學校

○英文和譯

1. The beginning of civilization is the discovery of some useful arts, by which men acquire property, comforts, or luxuries.
2. Work is so much a necessity of existence, that it is less a question whether, than how, we shall work.
3. It was, undoubtedly, the most suitable spot for a camp, had camping been advisable.
4. More accurate knowledge implies increasing power, greater wealth and higher virtue.
5. Happiness indeed depends much more on what is within than without us.
6. Of the inner life of the Japanese, the world at large knows but little.

○算術科

第一 分數あり。其分子に二十を加へ、分母に二十五を加ふるも、其値變らず。又分子と分母の最小公倍数は三百四十なりといふ。分子及分母を求む。

第二 $\frac{1}{2} \sqrt{\frac{3.1416 \times (21\frac{1}{2} - 11\frac{1}{8})^2}{(25\frac{2}{3} + 7\frac{2}{3})} \div 6.25}$ の値を求む。但小數點以下四位まで精算す

第三 正方形の池あり。其一邊十七間にして、水中に一本の杭あり。池の一
 邊の中央より、其邊の方向に沿ふて、邊の四分の一歩みて杭を望めば正面にあり。
 尙歩みて中央より一邊の一倍半の所に到りて顧れば、對邊の中央と杭を一直線に視
 るといふ。杭は兩對邊の中央より幾許の距離にありや。

第四 AB二人の旅人あり。Aは徒歩し、Bは自轉車に乗じ、同時に甲所を發
 して乙所に趣くに、出發後二時半を経てAのBに後ること四里なり。Aは十五
 時間にて乙所に達したりといふ。Bは何時間以前に達したりや。但甲乙二所の
 距離十六里。

第五 次表の右行に數字を記入し、各單位の關係を示すべし。

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 一寸 | 一分 | 一厘 | 一毫 | 一絲 | 一忽 | 一微 | 一纖 | 一沙 | 一塵 | 一渺 | 一漠 | 一沙 | 一塵 | 一渺 | 一漠 |
| 一尺 | 一丈 | 一尋 | 一仞 | 一百 | 一千 | 一萬 | 一億 | 一兆 | 一京 | 一垓 | 一秭 | 一穰 | 一正 | 一載 | 一極 |
| 一里 | 一舍 | 一程 | 一站 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 |
| 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 |
| 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 |
| 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 | 一里 |

○代 數 學

第一 次の式を簡單にせよ。

$$2a^3 + 2a^2b + 2ab^2 - a^4 - a^3b - a^2b^2 + \sqrt{a^2 + b^2}(a^3 + a^2b - 2a^2 - 2ab)$$

$$4ab - 4a^2b + a^3b$$

第二 $ad' = bd'' = ce'$ なるときは、 $(a+b)(b+c)(c+a) = (a'+b')(b'+c')(c'+a')$ なることを證すべし。

第三 次の方程式を解け。

$$\sqrt{a+x} + \sqrt{a-x} = b$$

$$\sqrt{a+x} - \sqrt{a-x} = b$$

第四 次の一組の方程式を解け。

$$x + \frac{y}{a} = b \quad y + \frac{z}{a} = c \quad z + \frac{t}{a} = d \quad t + \frac{x}{a} = e$$

もし $b=c=d=e$ なるとき未知元の値如何。

第五 時計の長針はXIとXIIとの間にありて、短針はXとXIとの間にあり。短針進みて今の長針の位置に来るときは、長針は今短針の在る所に來るべしといふ。今の時刻を問ふ。

○幾 何 學

第一 正十五角形の内角は各々幾直角なるや。